

(仮称) 北部対馬アクションプラン策定業務委託
業務報告書 (令和6年度)

令和7年3月
対馬市
ランドブレイン・MIT 共同企業体

目次

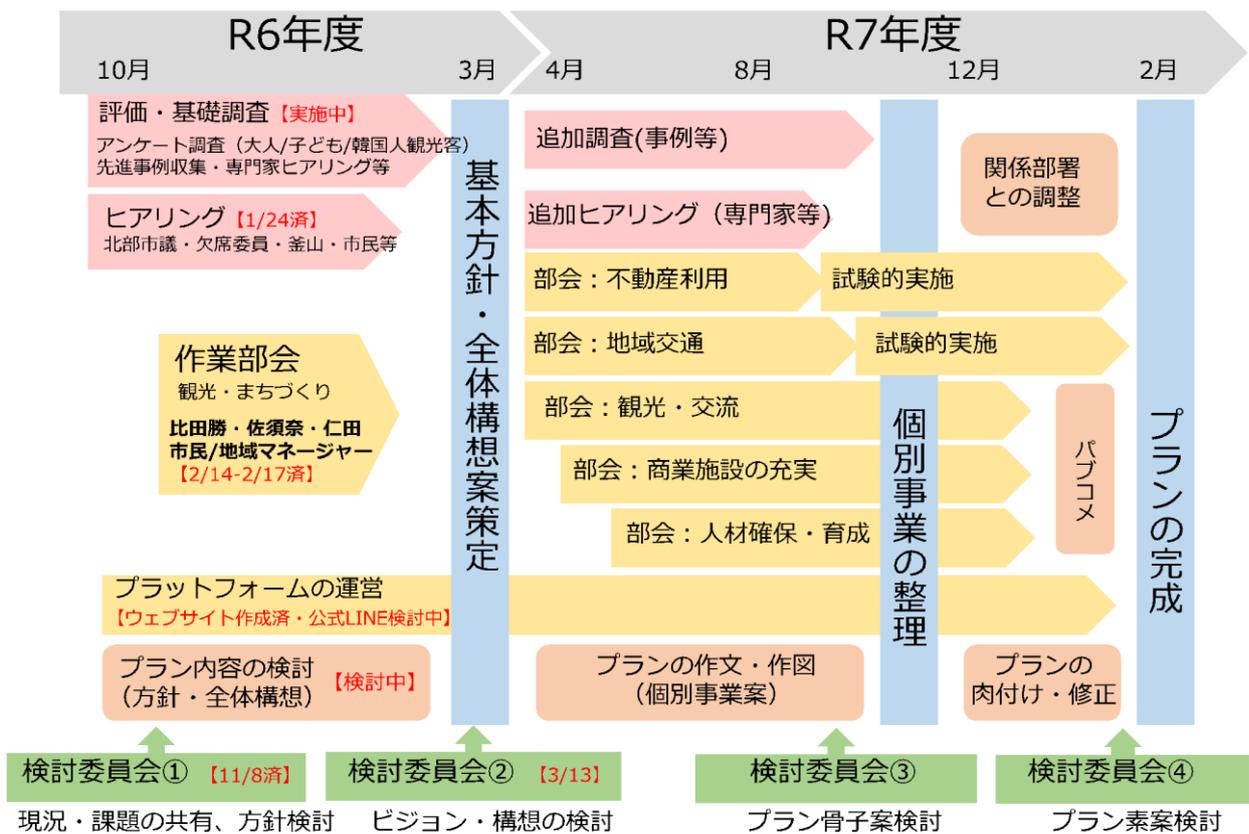
1	業務の目的	1
2	本年度業務の全体像.....	2
3	基礎調査	4
(1)	人口推移	4
(2)	漁業の状況	9
(3)	観光の現状	11
(4)	公共交通の現状	15
(5)	空き家・空き施設.....	21
(6)	北部対馬市民アンケート	22
(7)	北部対馬子どもアンケート	26
(8)	韓国人観光客アンケート.....	32
4	北部対馬地域活性化検討委員会の運営支援	37
(1)	第1回.....	37
(2)	第2回.....	41
5	ヒアリング調査	44
(1)	事業者ヒアリング.....	44
(2)	議員ヒアリング	52
(3)	釜山での旅行社・船会社・交流団体ヒアリング.....	62
6	デジタルプラットフォームデジタルプラットフォーム運営支援.....	74
7	基本方針の設定	75
8	全体構想の検討	77
9	作業部会の開催	80

1 業務の目的

これまで対馬の北の玄関口である比田勝近郊地区にスポットをあてた“対馬”「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン、観光リゾートイメージ図と上対馬町住民が協働で策定した計画はあったが、上県町を含めた北部対馬地域を網羅したまちづくり計画はなかったため、今回、新たに（仮称）北部対馬アクションプラン（以下：プラン）を策定する。本業務は、北部対馬地域に暮らす住民、事業者、その他関係機関等がワークショップなどの協働作業により、これまでの取組を検証し、地域の未来に夢が持てる将来性と、現状を踏まえながら、実効性の高い計画を策定することを目的とする。

【計画策定の流れ】

(仮称)北部対馬アクションプランの計画策定の検討状況について

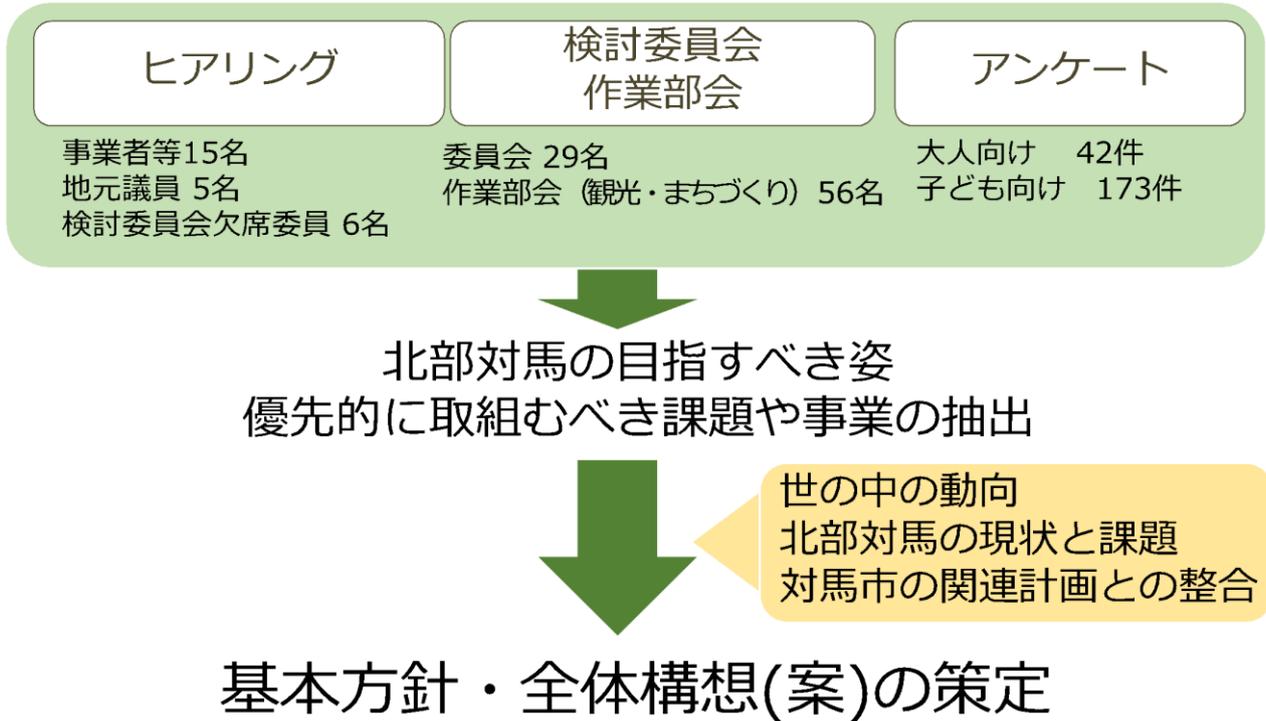


2 本年度業務の全体像

本年度、市民等の意見収集のもとで、北部対馬アクションプラン策定に向けた基本方針・全体構想（案）の策定を行った。

北部対馬および関連する地域事業者等、地元選出議員からのヒアリング、広く市民、地域の子供たちからの意見収集のアンケート調査、アクションプラン策定にかかる事業者・行政・関係機関等参集による検討委員会、具体的な施策掘り下げを実施する作業部会の実施等により検討を進めてきた。

(仮称)北部対馬アクションプランの計画策定について 市民等の声を集めて全体構想を作成



▼検討委員会及びワークショップ

策定業務内容	実施日	開催場所	参加人数
第1回 北部対馬活性化検討委員会	令和6年11月8日(金)	上対馬総合センター	29人
第1回作業部会「観光・まちづくり」	令和7年2月14日(金)	上対馬総合センター	26人
	令和7年2月15日(土)	仁田コミュニティセンター	6人
	令和7年2月16日(日)	上県地区公民館	8人
地域マネージャー校区会議（上県地区）	令和7年2月17日(月)	上県地区公民館	6人
地域マネージャー校区会議（上対馬地区）	令和7年2月17日(月)	上対馬庁舎	11人
第2回 北部対馬活性化検討委員会	令和7年3月13日(木)	上対馬総合センター	26人

▼アイデア募集アンケート

策定業務内容	実施日	実施場所及び範囲	回答人数 ※2月19日現在
韓国人旅行者アンケート	令和7年1月18日(土) ～令和7年1月22日(水)	比田勝周辺店舗及び国際ターミナル	90人
対馬市民アンケート	令和7年2月～3月 (子供用)	全世帯配布（上対馬・上県） 比田勝・佐須奈・仁田小5、6年生 比田勝・佐須奈・仁田中・上対馬高 校の全校生徒配布	大人 38人
	令和7年2月～6月 (大人用)		子供 77人 合計 115人

▼ヒアリング

策定業務内容	実施日	実施場所及び範囲	回答人数
市民・事業者ヒアリング	令和6年12月18日(水)～ 令和6年12月20日(金)	市民・事業者指定の方法・場所	15人
地元議員ヒアリング	令和6年12月18日(水)～ 令和6年12月20日(金)	上対馬庁舎または 議員指定の方法・場所	5人
第1回 北部対馬活性化検討委員会 欠席委員ヒアリング	令和6年12月	欠席委員指定場所	6人
韓国旅行社、船会社、交流団体 ヒアリング	令和7年1月24日	韓国釜山市	7カ所

令和7年度 ※予定であり追加変更あり。

▼検討委員会及びワークショップ

策定業務内容	実施日	開催場所	参加人数
作業部会「地域交通の利便性向上」	令和7年4月～9月	上対馬総合センター	未定
作業部会「遊休施設・空き家活用」	令和7年4月～9月	上対馬総合センター	未定
作業部会「人材確保働き方改革」	令和7年4月～9月	上対馬総合センター	未定
作業部会「教育サービス」	令和7年4月～9月	上対馬総合センター	未定
作業部会「観光・まちづくり」	令和7年4月～9月	上対馬総合センター	未定
地域マネージャー校区会議（上県地区）	令和7年10月頃	上県地区公民館	未定
地域マネージャー校区会議（上対馬地区）	令和7年10月頃	上対馬庁舎	未定
第3回 北部対馬地域活性化検討委員会	令和7年11月頃	上対馬総合センター	35人予定
第4回 北部対馬地域活性化検討委員会	令和8年2月頃	上対馬総合センター	35人予定

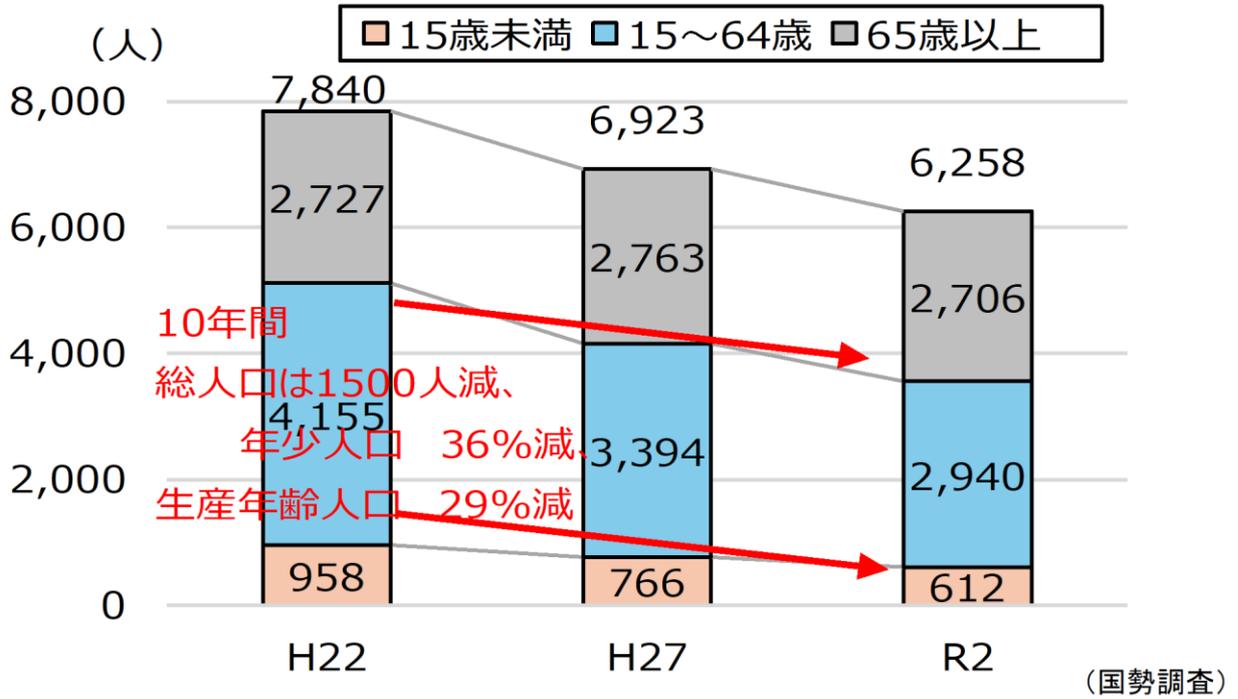
3 基礎調査

以下整理データを列挙する。

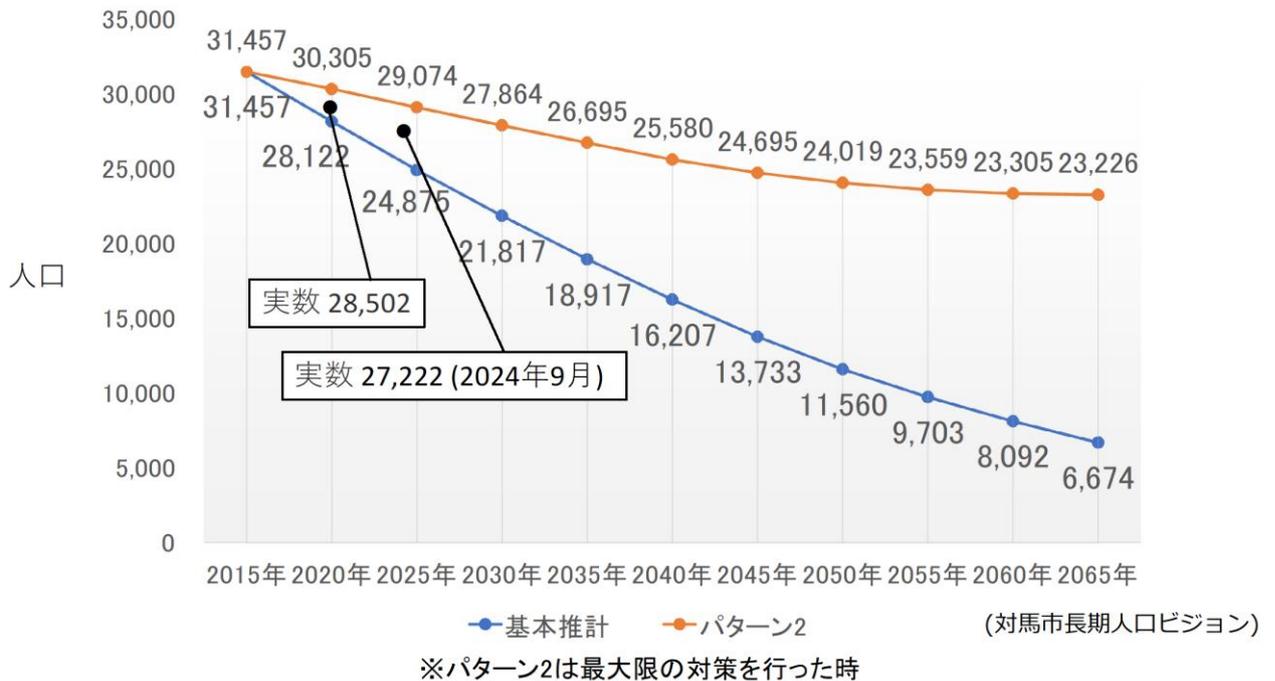
(1) 人口推移

北部対馬の人口推移

年齢三区分別人口推移



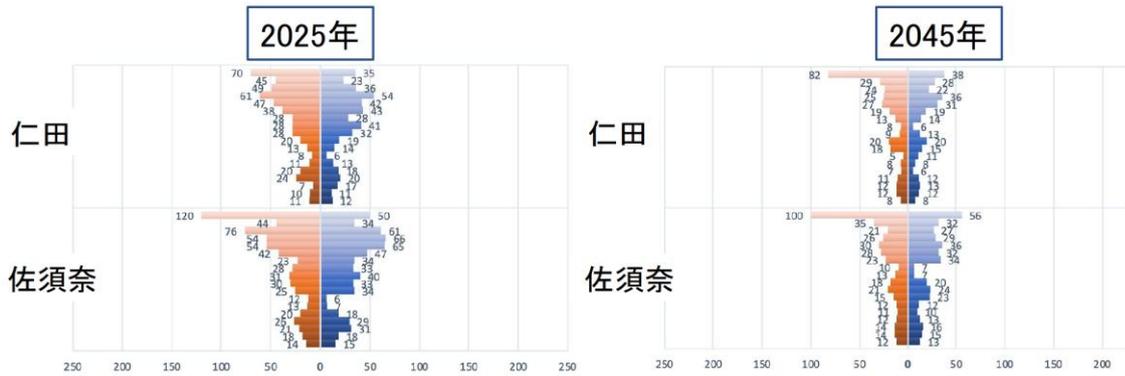
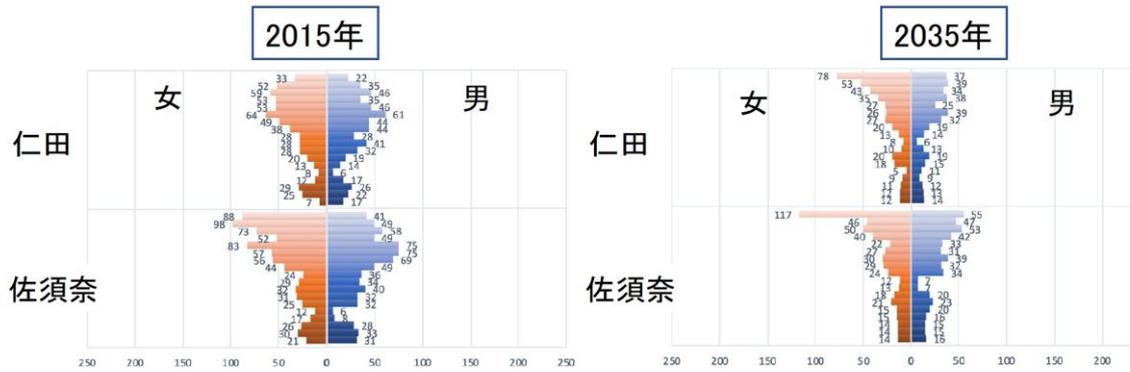
対馬市の今後の人口統計



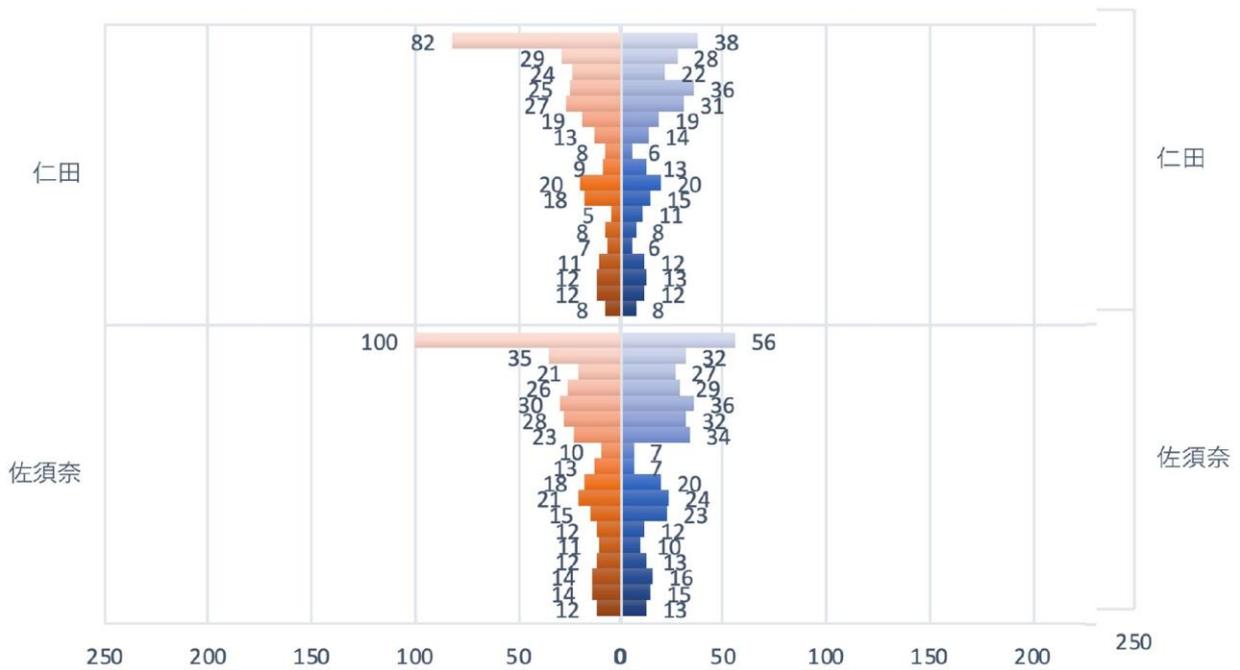
2. 北部対馬の現状と課題

(対馬市長期人口ビジョン)

小学校区別推計人口(仁田・佐須奈)



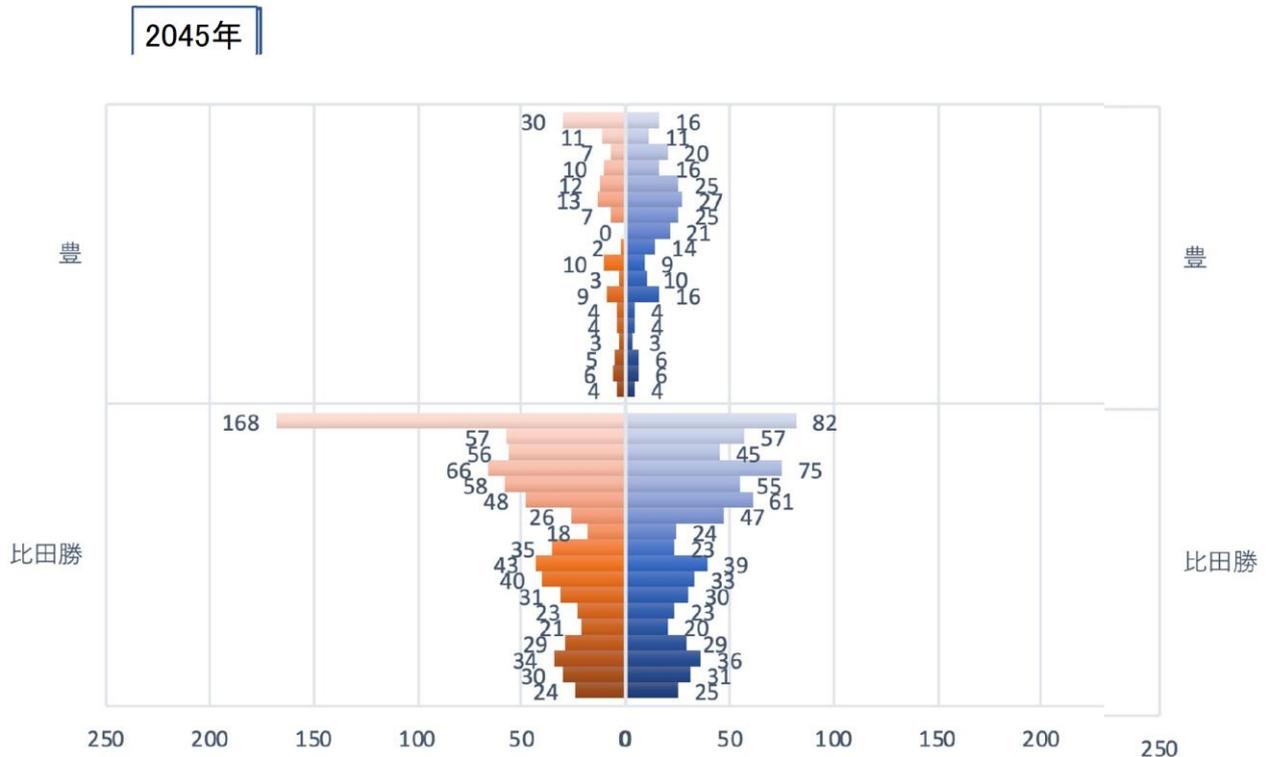
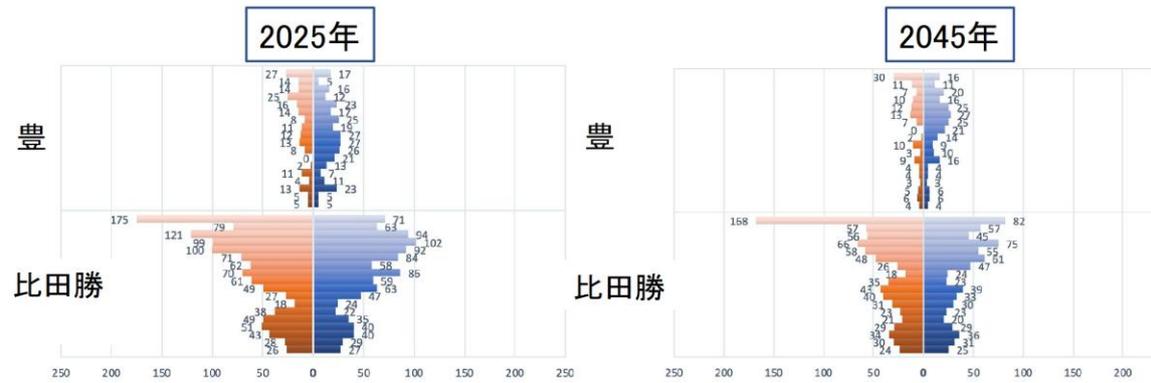
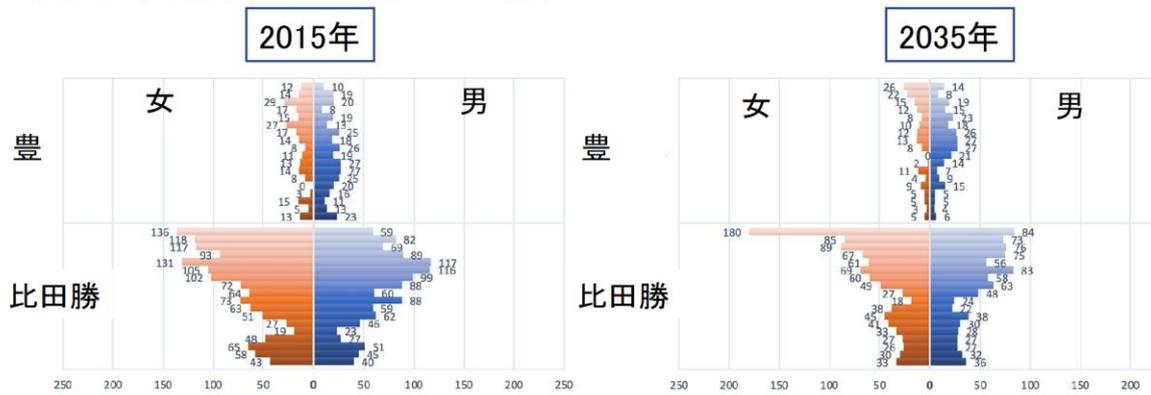
2045年



2. 北部対馬の現状と課題

(対馬市長期人口ビジョン)

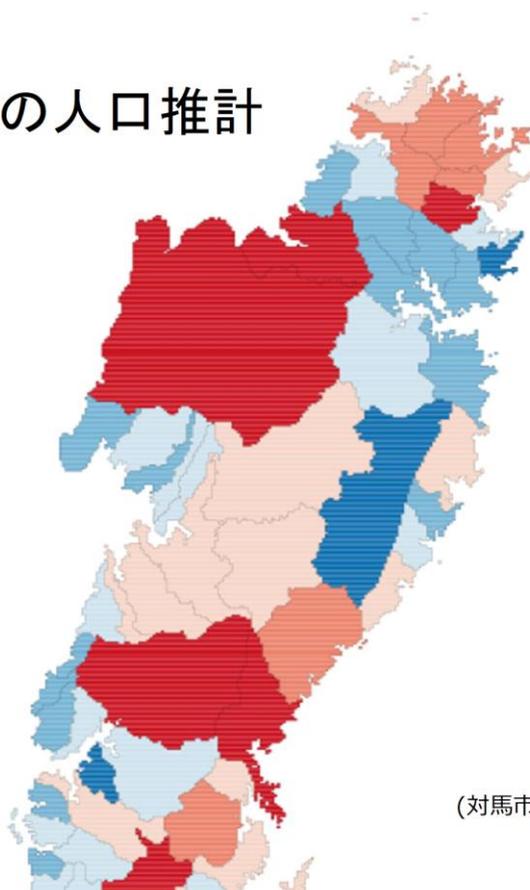
小学校区別推計人口(豊・比田勝)



2. 北部対馬の現状と課題

北部対馬の地域ごとの人口推計

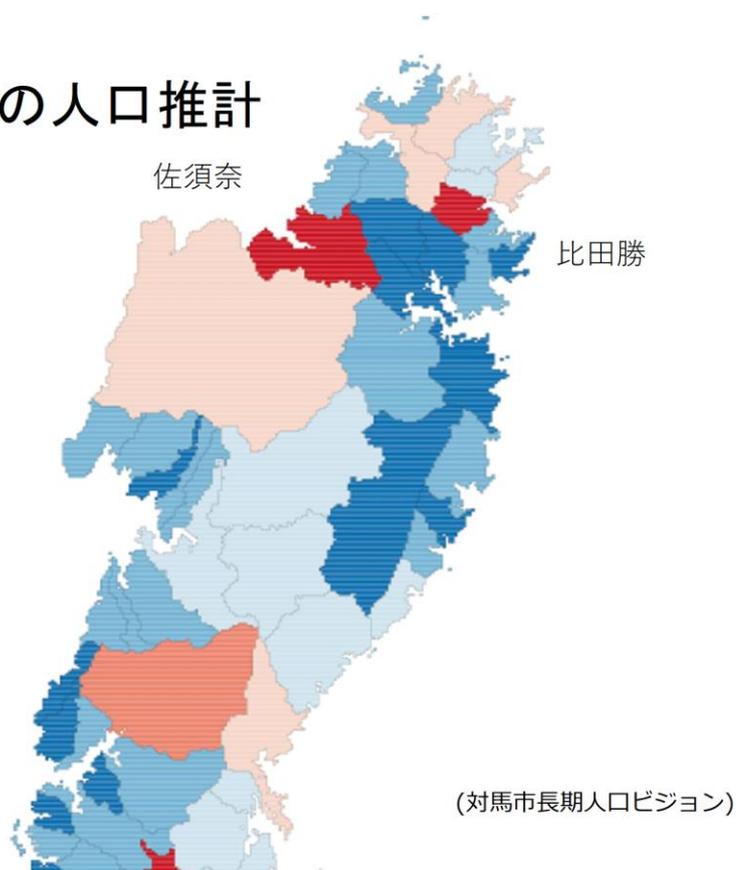
【2025年】



2. 北部対馬の現状と課題

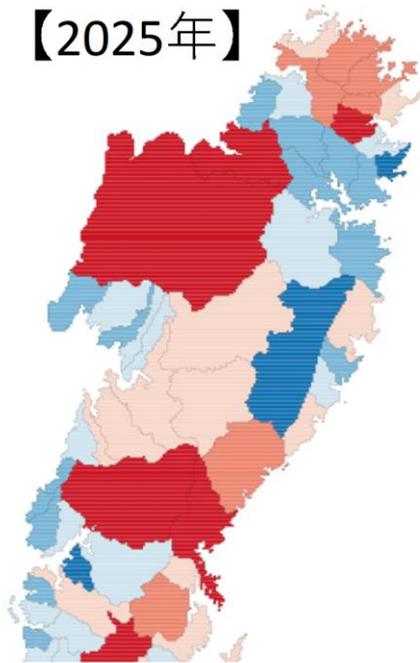
北部対馬の地域ごとの人口推計

【2045年】

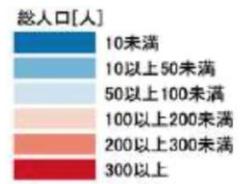
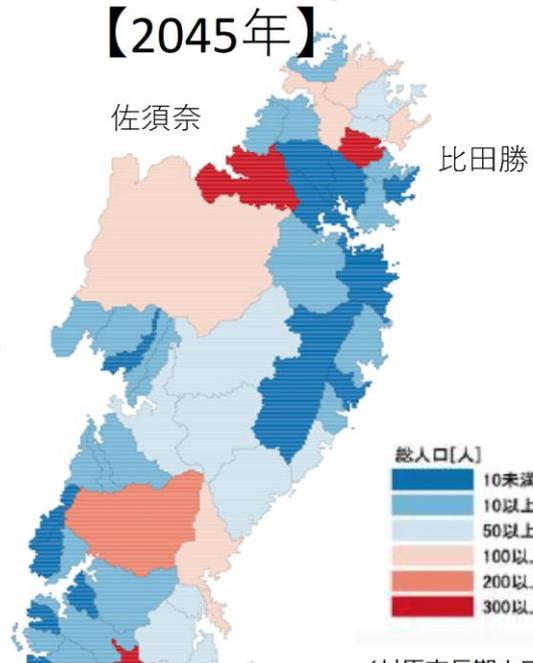


北部対馬の地域ごとの人口推計

【2025年】



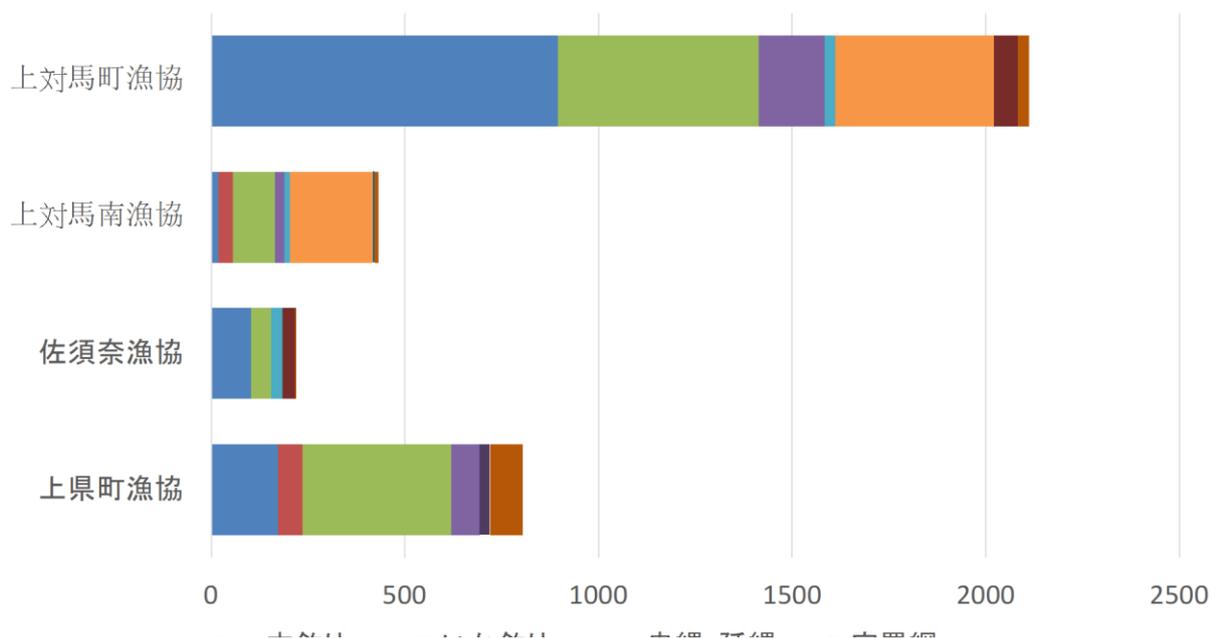
【2045年】



(対馬市長期人口ビジョン)

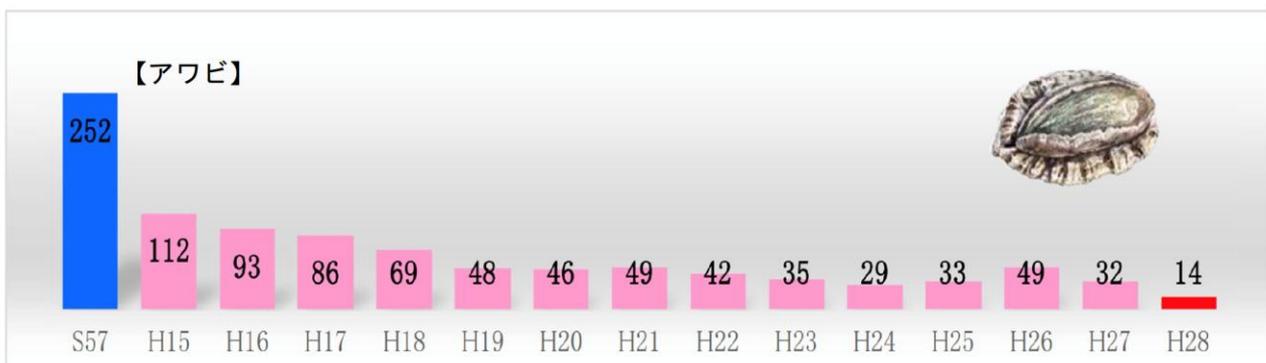
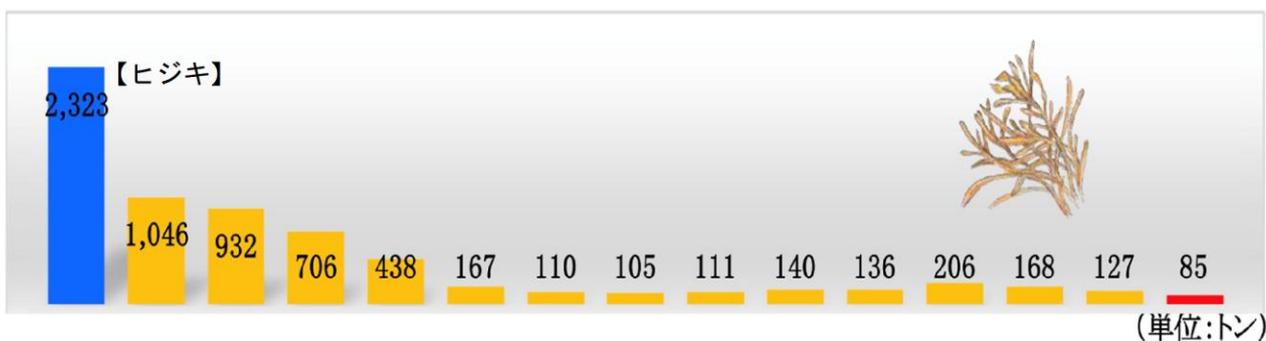
(2) 漁業の状況

基幹産業である漁協別漁業種別漁獲量及び金額(漁協取扱い)



磯資源の減少

(単位:トン)



対馬市 対馬沿岸藻場再生計画 平成30年10月 対馬市

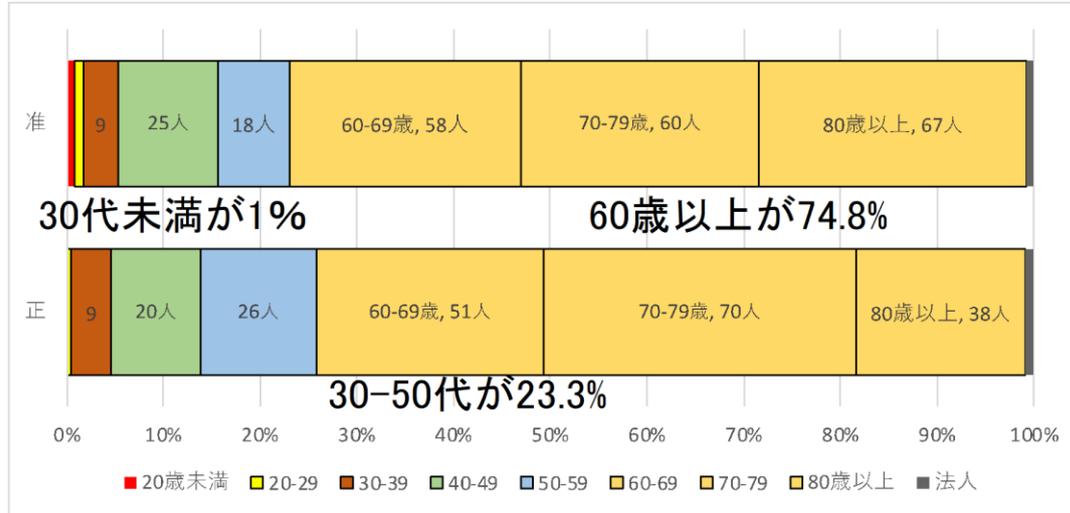
上対馬町漁協の組合員数

R2年度

参考資料

正・准別	専業者	兼業者		その他(法人)	合計
		第1種	第2種		
正	202	6	7	2	217
准	79	10	152	2	243
合計	281	16	159	4	460

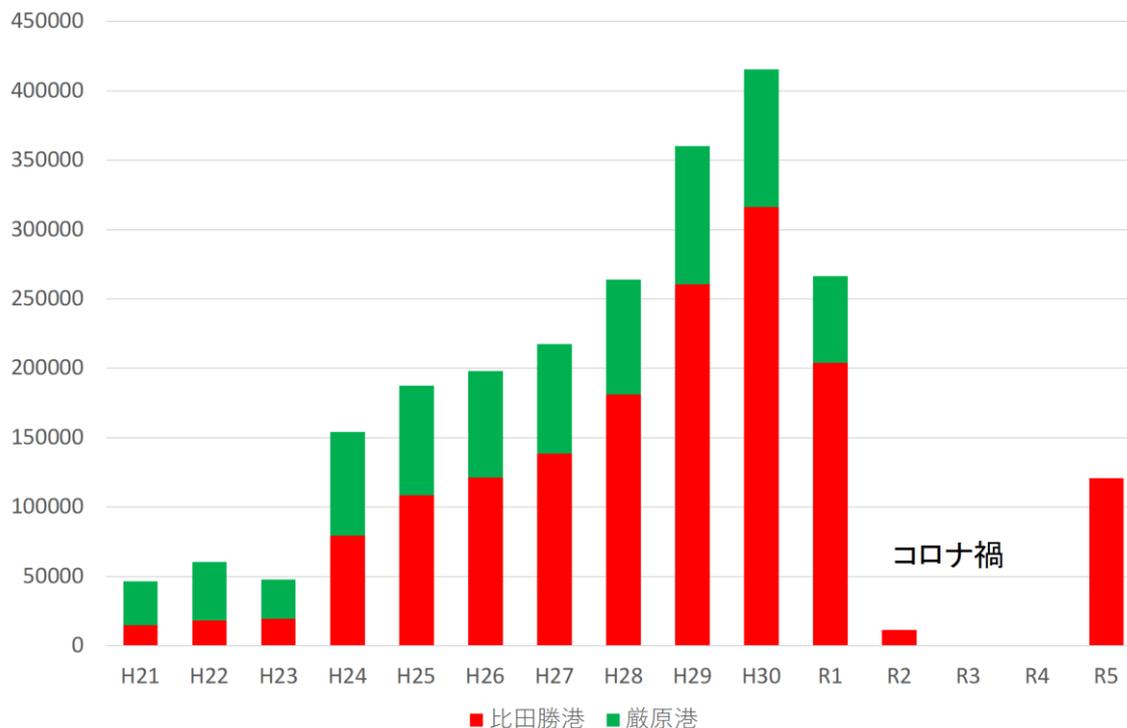
上対馬町漁協の組合員の年齢構成



(3) 観光の現状

韓国人観光客の出入りデータ

参考資料



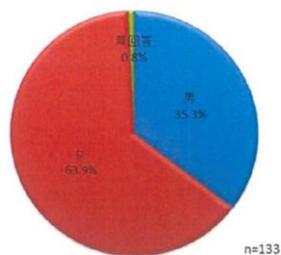
韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

⑤ アンケート調査結果

Q1 性別と年齢をお知らせください。

性別	人	%
男	47	35.3%
女	85	63.9%
無回答	1	0.8%
合計	133	100.0%



年齢	人	%
20才未満	9	6.8%
20才～30才未満	19	14.3%
30才～40才未満	22	16.5%
40才～50才未満	25	18.8%
50才～60才未満	24	18.0%
60才以上	14	10.5%
無回答	20	15.0%
合計	133	100.0%



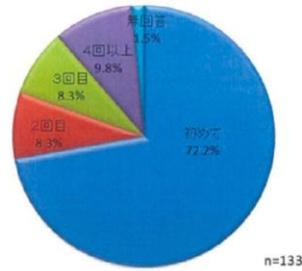
H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

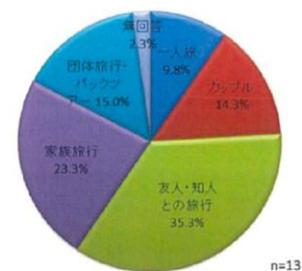
Q 5 対馬市へこられたのは何回目ですか。

対馬市訪問回数	人	%
初めて	96	72.2%
2回目	11	8.3%
3回目	11	8.3%
4回以上	13	9.8%
無回答	2	1.5%
合計	133	100.0%



Q 6 今回の旅行形態は次のどれですか。

旅行形態	人	%
一人旅	13	9.8%
カップル	19	14.3%
友人・知人との旅行	47	35.3%
家族旅行	31	23.3%
団体旅行・バックツアー	20	15.0%
その他	0	0.0%
無回答	3	2.3%
合計	133	100.0%



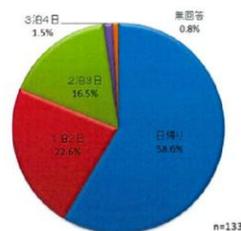
H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

Q 7 今回の旅行の日程は次のどれですか。

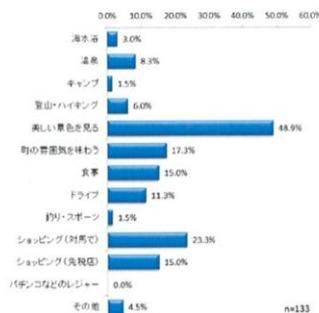
旅行日程	人	%
日帰り	78	58.6%
1泊2日	30	22.6%
2泊3日	22	16.5%
3泊4日	2	1.5%
それ以上	0	0.0%
無回答	1	0.8%
合計	133	100.0%



旅行日程では「日帰り」が最も多く58.6%、次いで「1泊2日」22.6%、「2泊3日」16.5%となっており、短期滞在型の観光旅程となっている。

Q 8 今回の旅行の目的は何ですか。(3つまで)

旅行目的(3つまで)	人	%
海水浴	4	3.0%
温泉	11	8.3%
キャンプ	2	1.5%
登山・ハイキング	8	6.0%
美しい景色を見る	65	48.9%
町の雰囲気を味わう	23	17.3%
食事	20	15.0%
ドライブ	15	11.3%
釣り・スポーツ	2	1.5%
ショッピング(対馬で)	31	23.3%
ショッピング(免税店)	20	15.0%
パチンコなどのレジャー	0	0.0%
その他	6	4.5%



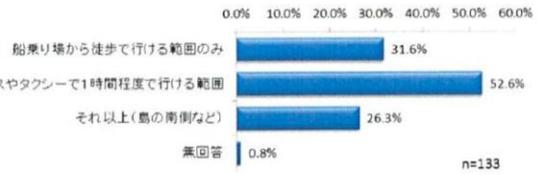
H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

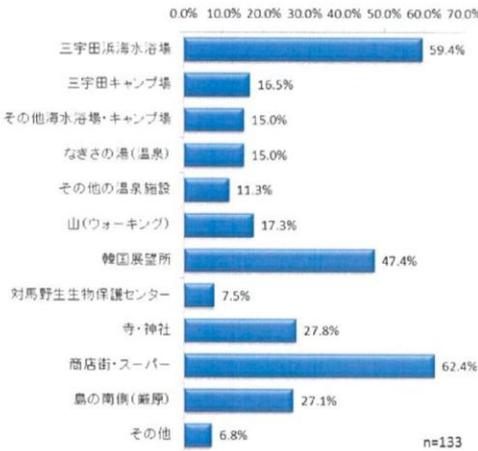
Q 9 対馬市での行動範囲。(複数回答)

対馬市での行動範囲(複数回答)	人	%
船乗り場から徒歩で行ける範囲のみ	42	31.6%
バスやタクシーで1時間程度で行ける範囲	70	52.6%
それ以上(島の南側など)	35	26.3%
無回答	1	0.8%



Q 1 0 対馬市で訪問された場所はどこですか。(複数回答)

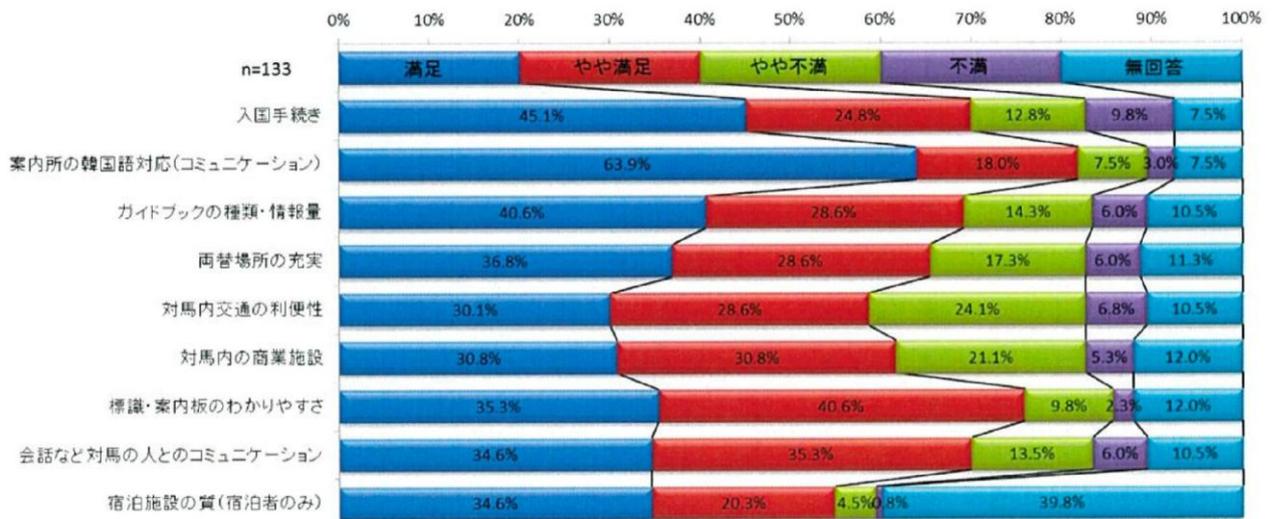
訪問場所(複数回答)	人	%
三宇田浜海水浴場	79	59.4%
三宇田キャンプ場	22	16.5%
その他海水浴場・キャンプ場	20	15.0%
なぎさの湯(温泉)	20	15.0%
その他の温泉施設	15	11.3%
山(ウォーキング)	23	17.3%
韓国展望所	63	47.4%
対馬野生生物保護センター	10	7.5%
寺・神社	37	27.8%
商店街・スーパー	83	62.4%
島の南側(厳原)	36	27.1%
その他	9	6.8%



H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料



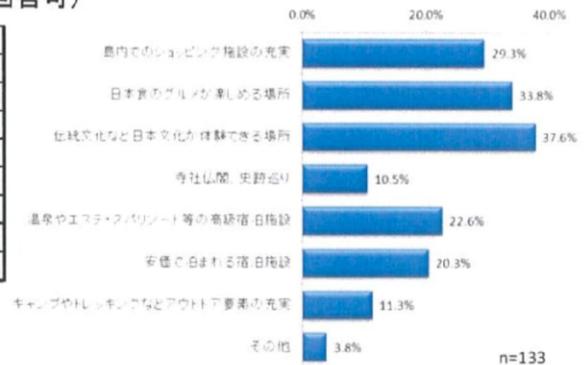
H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

Q 1 2 対馬の観光に求めるものは何ですか。(複数回答可)

対馬の観光に求めるもの(複数回答)	人	%
島内でのショッピング施設の充実	39	29.3%
日本食のグルメが楽しめる場所	45	33.8%
伝統文化など日本文化が体験できる場所	50	37.6%
寺社仏閣、史跡巡り	14	10.5%
温泉やエステ・スパリゾート等的高级宿泊施設	30	22.6%
安価で泊まれる宿泊施設	27	20.3%
キャンプやトレッキングなどアウトドア要素の充実	15	11.3%
その他	5	3.8%



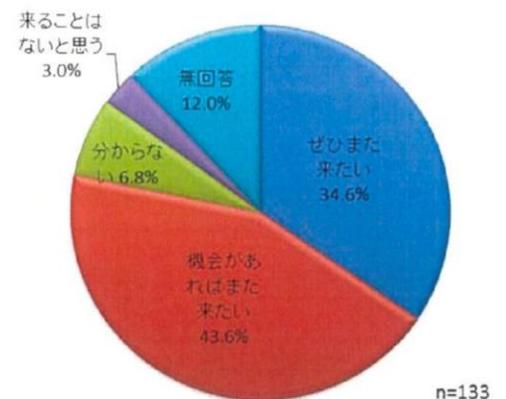
H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

韓国人観光客の10年前のニーズ

参考資料

Q 1 4 対馬にまた来たいと思いますか。

対馬にまた来たいと思うか	人	%
ぜひまた来たい	46	34.6%
機会があればまた来たい	58	43.6%
分からない	9	6.8%
来ることはないと思う	4	3.0%
無回答	16	12.0%
合計	133	100.0%



H25年10月実施 韓国人観光客受地調査

(4) 公共交通の現状

参考資料

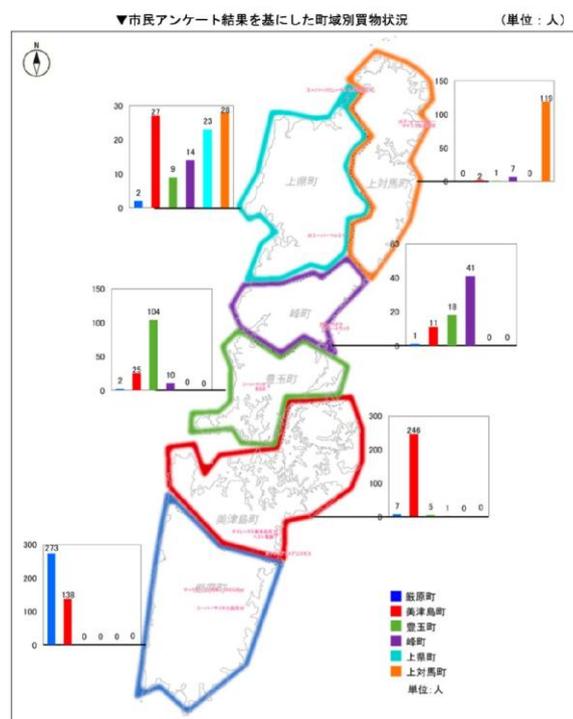
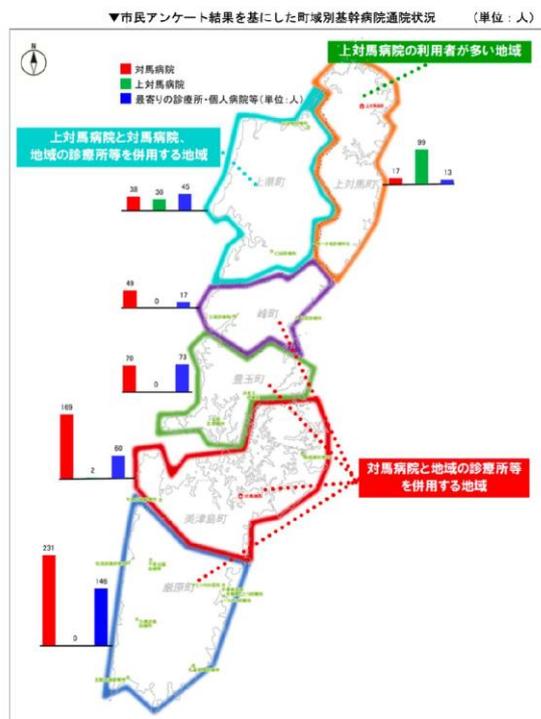
▼対馬市の公共交通路線



対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

参考資料

上対馬地域の交通状況

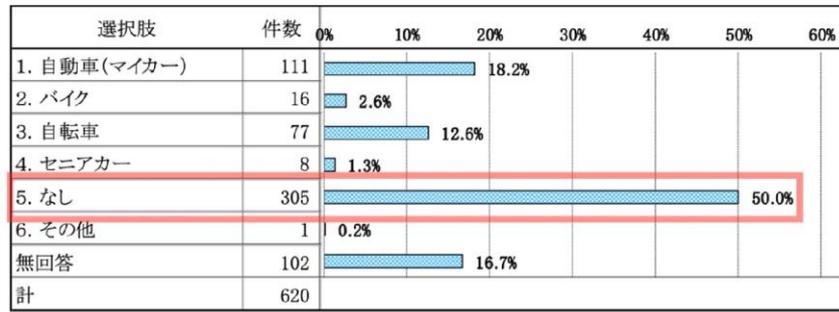


対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

所有している乗物

▼高齢者アンケート

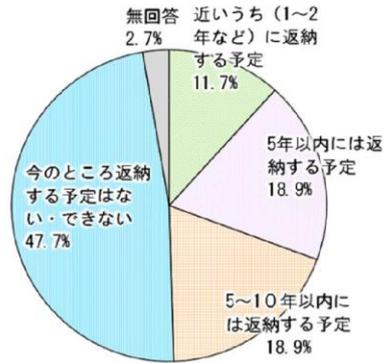
参考資料



▼高齢者アンケート

免許返納予定

選択肢	件数	比率
1. 近いうち(1~2年など)に返納する予定	13	11.7%
2. 5年以内には返納する予定	21	18.9%
3. 5~10年以内には返納する予定	21	18.9%
4. 今のところ返納する予定はない・できない	53	47.7%
無回答	3	2.7%
計	111	100.0%



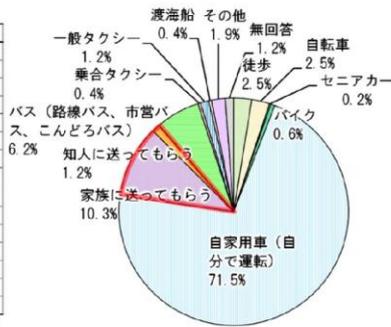
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【通院時の移動手段】

▼市民アンケート

選択肢	件数
1. 徒歩	13
2. 自転車	13
3. セニアカー	1
4. バイク	3
5. 自家用車(自分で運転)	368
6. 家族に送ってもらう	53
7. 知人に送ってもらう	6
8. バス(路線バス、市営バス、こんどろバス)	32
9. 乗合タクシー	2
10. 一般タクシー	6
11. 渡海船	2
12. その他	10
無回答	6
計	515

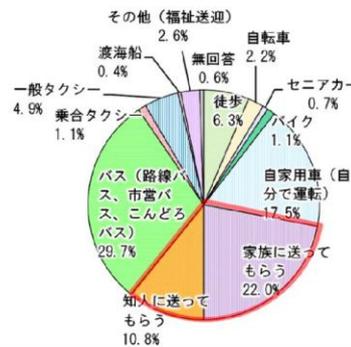
複数回答による集計除外6名



▼高齢者アンケート

選択肢	件数
1. 徒歩	34
2. 自転車	12
3. セニアカー	4
4. バイク	6
5. 自家用車(自分で運転)	91
6. 家族に送ってもらう	118
7. 知人に送ってもらう	58
8. バス(路線バス、市営バス、こんどろバス)	159
9. 乗合タクシー	6
10. 一般タクシー	26
11. 渡海船	2
12. その他(福祉送迎)	14
無回答	3
計	536

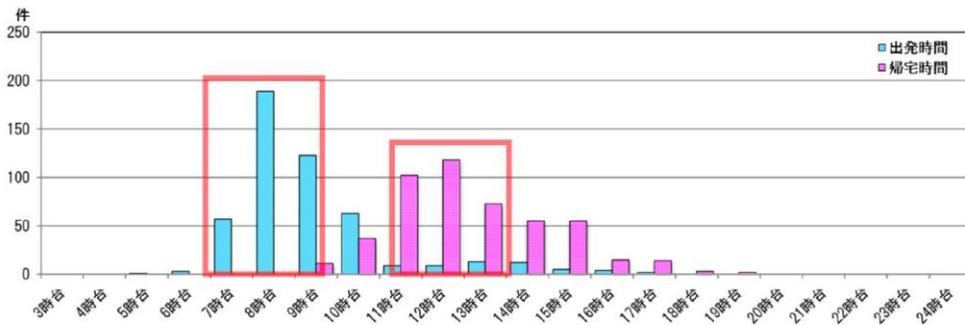
複数回答による集計除外22名



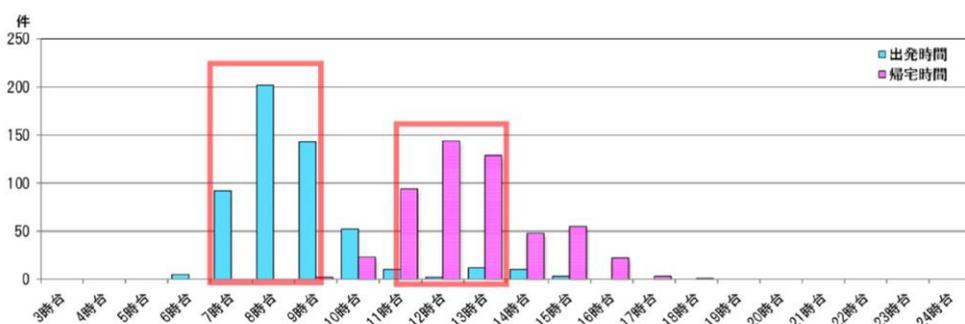
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【通院時の出発・帰宅時間帯】

▼市民アンケート



▼高齢者アンケート



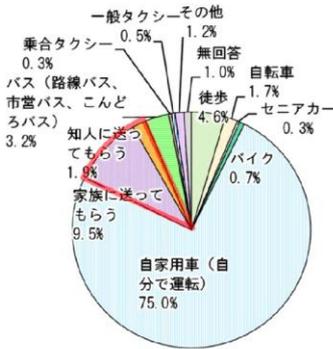
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【買い物時の移動手段】

参考資料

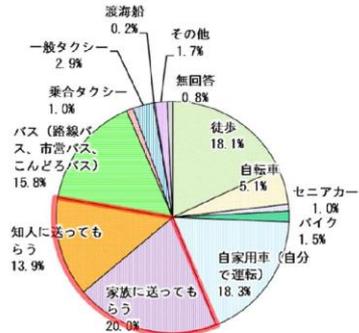
▼市民アンケート

選択肢	件数
1. 徒歩	27
2. 自転車	10
3. セニアカー	2
4. バイク	4
5. 自家用車(自分で運転)	441
6. 家族に送ってもらう	56
7. 知人に送ってもらう	11
8. バス(路線バス、市営バス、こんどろ)	19
9. 乗合タクシー	2
10. 一般タクシー	3
11. 渡海船	0
12. その他	7
無回答	6
計	588



▼高齢者アンケート

選択肢	件数
1. 徒歩	95
2. 自転車	27
3. セニアカー	5
4. バイク	8
5. 自家用車(自分で運転)	96
6. 家族に送ってもらう	105
7. 知人に送ってもらう	73
8. バス(路線バス、市営バス、こんどろ)	83
9. 乗合タクシー	5
10. 一般タクシー	15
11. 渡海船	1
12. その他	9
無回答	4
計	526



複数回答による集計除外29名

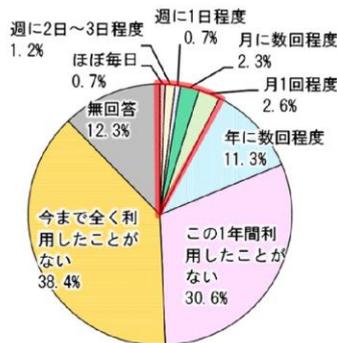
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【路線バスの利用頻度】

参考資料

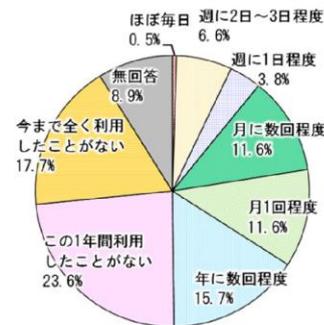
▼市民アンケート

選択肢	件数
1. ほぼ毎日	4
2. 週に2日～3日程度	7
3. 週に1日程度	4
4. 月に数回程度	14
5. 月1回程度	16
6. 年に数回程度	68
7. この1年間利用したことがない	185
8. 今まで全く利用したことがない	232
無回答	74
計	604



▼高齢者アンケート

選択肢	件数	比率
1. ほぼ毎日	3	0.5%
2. 週に2日～3日程度	40	6.6%
3. 週に1日程度	23	3.8%
4. 月に数回程度	71	11.6%
5. 月1回程度	71	11.6%
6. 年に数回程度	96	15.7%
7. この1年間利用したことがない	144	23.6%
8. 今まで全く利用したことがない	108	17.7%
無回答	54	8.9%
計	610	100.0%



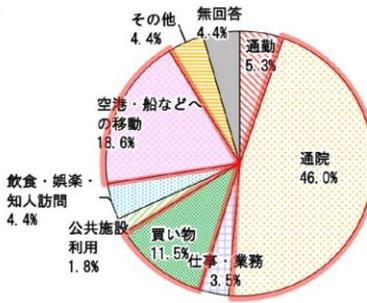
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【路線バスの利用目的】

参考資料

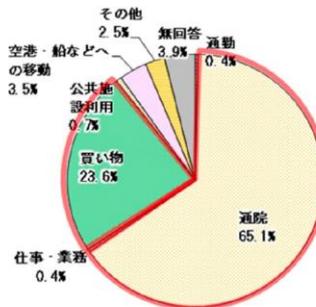
▼市民アンケート

選択肢	件数	比率
1. 通勤	6	5.3%
2. 通院	52	46.0%
3. 仕事・業務	4	3.5%
4. 買い物	13	11.5%
5. 公共施設利用	2	1.8%
6. 飲食・娯楽・知人訪問	5	4.4%
7. 空港・船などへの移動	21	18.6%
8. その他	5	4.4%
無回答	5	4.4%
計	113	100.0%



▼高齢者アンケート

選択肢	件数	比率
1. 通勤	1	0.4%
2. 通院	185	65.1%
3. 仕事・業務	1	0.4%
4. 買い物	67	23.6%
5. 公共施設利用	2	0.7%
6. 飲食・娯楽・知人訪問	0	0.0%
7. 空港・船などへの移動	10	3.5%
8. その他	7	2.5%
無回答	11	3.9%
計	284	100.0%



複数回答による集計除外20名

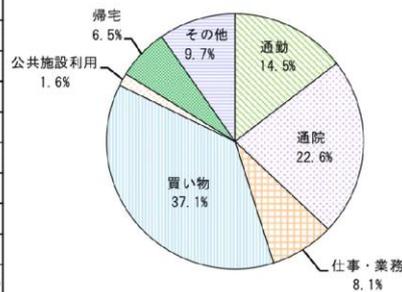
対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

【利用目的】

参考資料

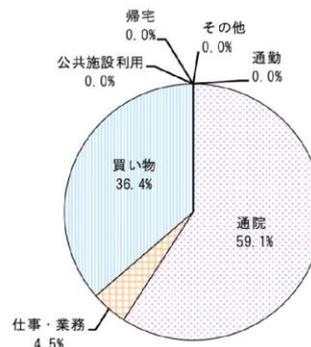
▼路線バス

選択肢	件数	比率
①通勤	9	14.5%
②通院	14	22.6%
③仕事・業務	5	8.1%
④買い物	23	37.1%
⑤公共施設利用	1	1.6%
⑥帰宅	4	6.5%
⑦その他	6	9.7%
無回答	0	0.0%
計	62	100.0%



▼乗合タクシー

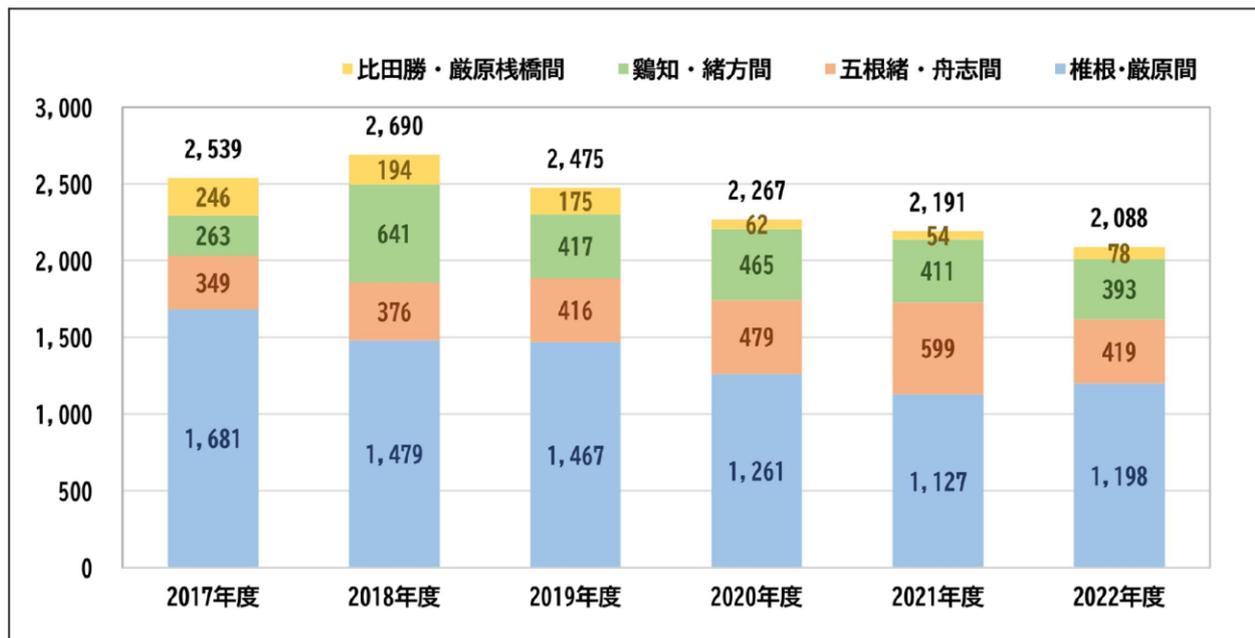
選択肢	件数	比率
①通勤	0	0.0%
②通院	13	59.1%
③仕事・業務	1	4.5%
④買い物	8	36.4%
⑤公共施設利用	0	0.0%
⑥帰宅	0	0.0%
⑦その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	22	100.0%



対馬市地域公共交通計画 (R6年3月)

▼乗合タクシーの利用者数の推移

(単位：人)

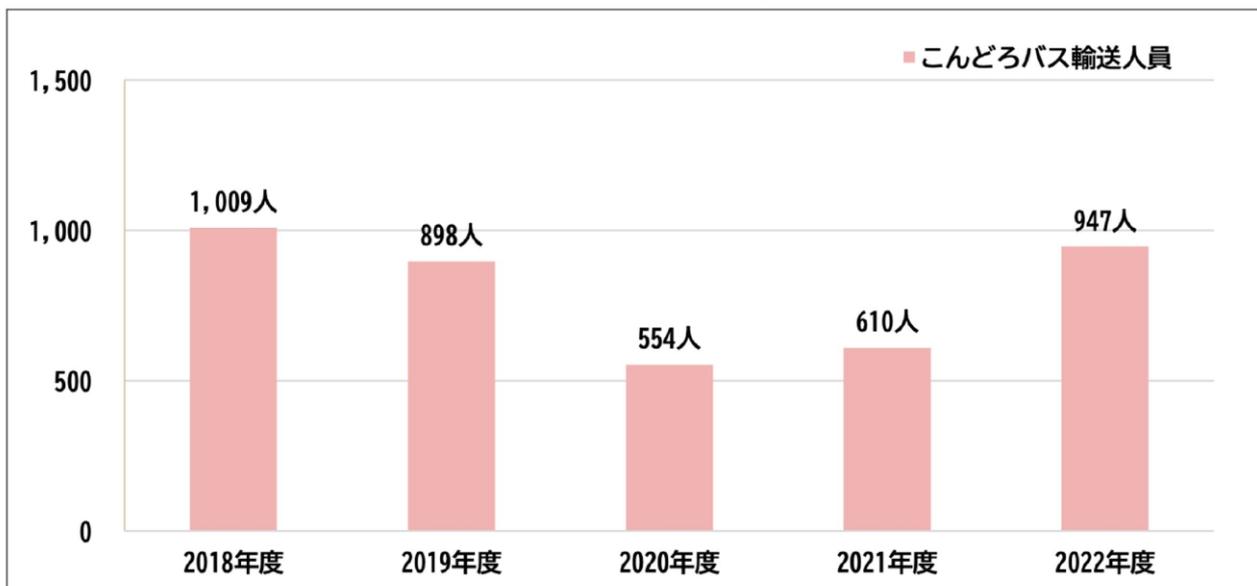


出典) 運行実績(年度集計)を基に作成

対馬市地域公共交通計画(R6年3月)

▼こんどろバスの利用者数の推移

(単位：人)



出典) 運行実績(年度集計)を基に作成

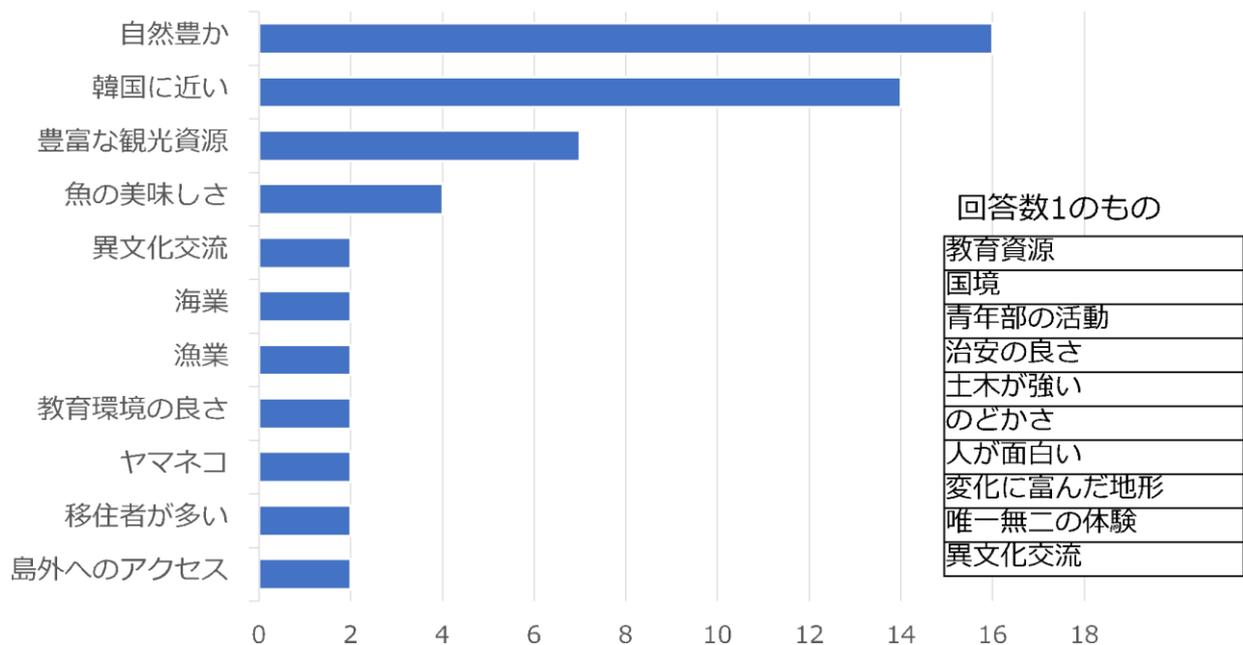
対馬市地域公共交通計画(R6年3月)

(6) 北部対馬市民アンケート

大人たちへのアンケート調査

回答者数42件

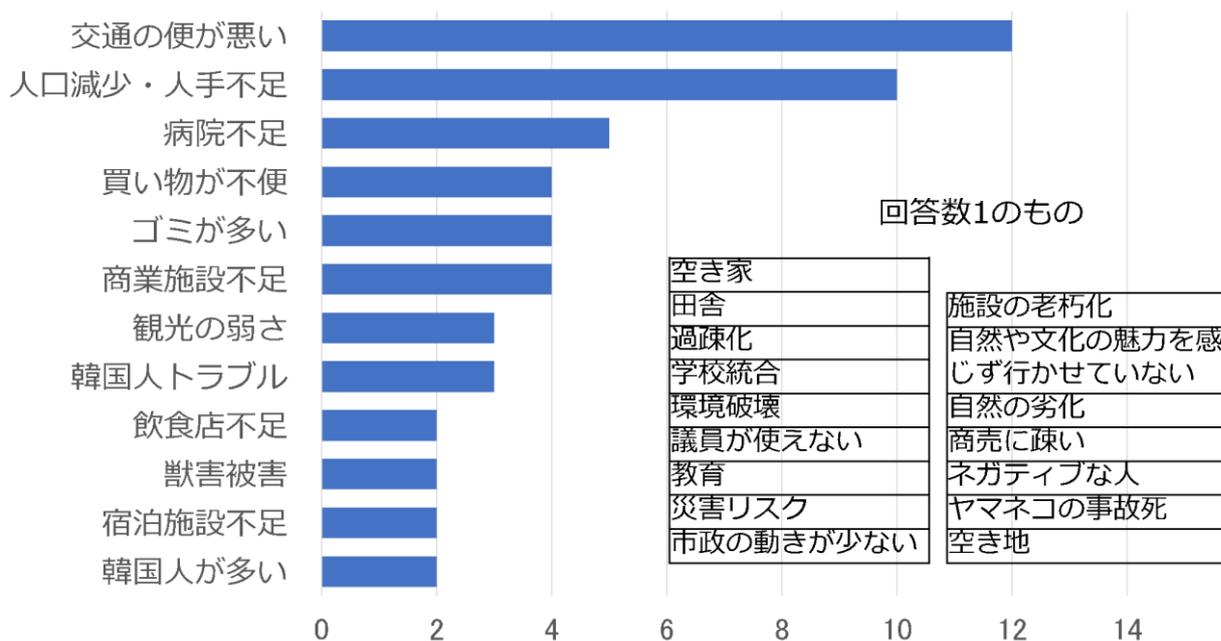
北部対馬の魅力・強み・期待・チャンス



大人たちへのアンケート調査

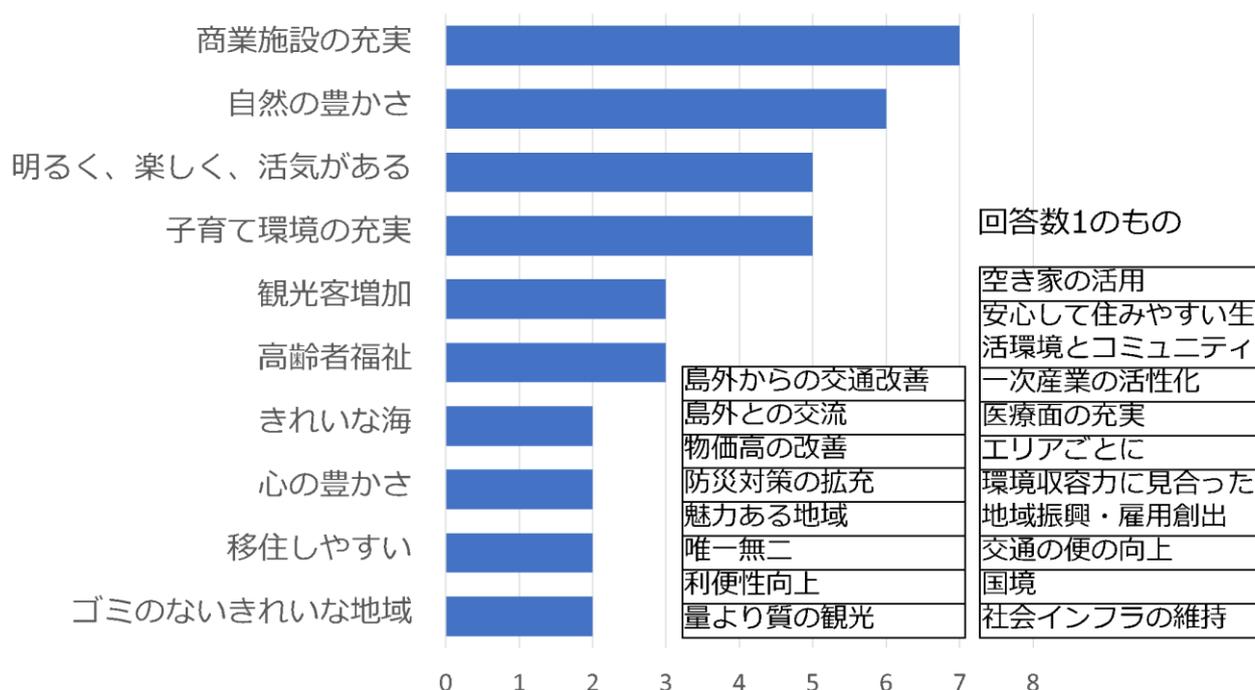
回答者数42件

北部対馬の課題・弱み・不安・リスク



大人たちへのアンケート調査

北部対馬はこうなって欲しい（ビジョン）



参考：大人たちへのアンケート調査回答から

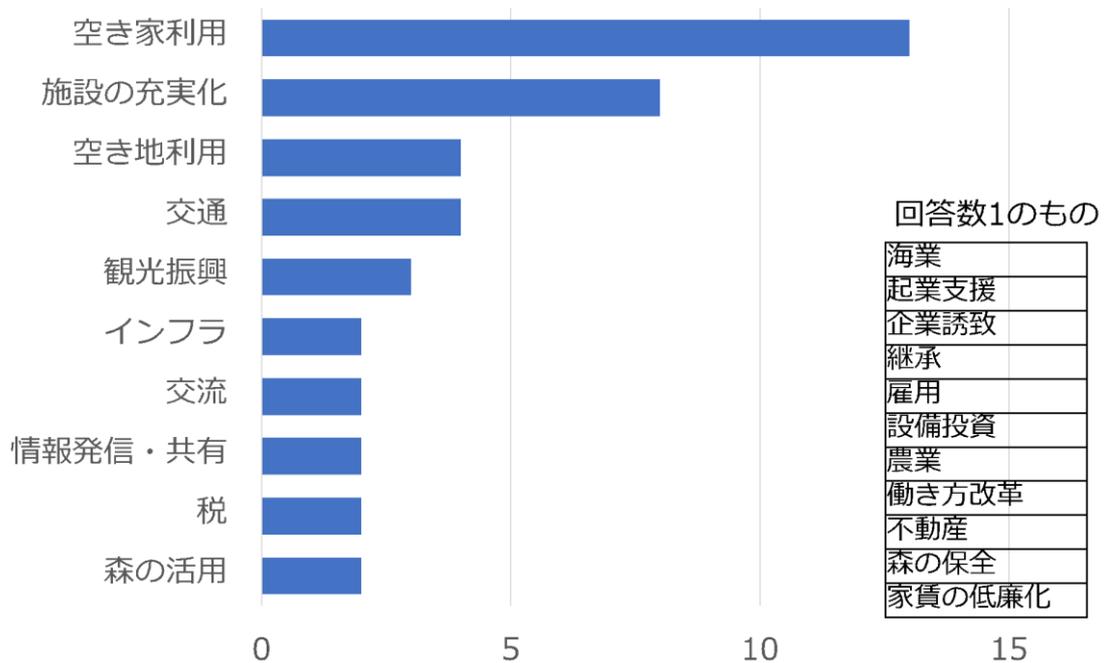
北部対馬はこうなって欲しい（ビジョン）

環境保全やSDGsの意識を高く持ちながら、社会インフラ(病院および歯科、診療所、整体マッサージ、理学療法リハビリ、教育およびスポーツ施設、交通機関、運送業、金融機関、消防防災、水道ガス燃油電気、電気通信設備業、下水処理、土木、建築、社会福祉介護など生活支援公共サービス、警察、司法書士、法律相談、小売業、飲食宿泊業、葬祭業、神社仏閣、農林水産協同組合)を維持できるように、環境収容力に見合った地域振興をすすめ、雇用を創出し、安心して住みやすい生活環境とコミュニティをみんなで知恵を絞り合意形成を図りながら、希望あふれ幸福度の高い場所にしたい。

上対馬：商業観光エリア、国際港には外国人向け日本的エンターテインメントが出来たらよい。
（運営主体は本土からエンタメの企業を誘致できたらという浅はかな思いもあるが）。東海岸線沿いの海を活用する事を「海業」に期待。

上県：居住エリア（佐須奈）、農業エリア（佐護）、工業エリア（仁田）など大枠のエリアを作り、人口は減りつつも無駄のない暮らしの出来る地域になればよい。

大人たちへのアンケート調査 課題解決のアイデア



大人たちへのアンケート調査 チャレンジしたいこと

- ✓ 観光客がお金を落とす仕組みを作る（体験型観光ツアーの商品開発、三宇田周辺のリゾート開発、水産業従事者を増やす、高レベル放射性廃棄物最終処分場の誘致を含めた新たな産業の創造）
- ✓ 修学旅行生やインターン学生、家族連れ観光客(地元住民も含む)などを対象とした漁業体験アクティビティの異業種連携事業（自然に触れる機会や環境保全・自然との共生の大切さ学び対馬を好きになってもらう。旅行プランが北部対馬だけでも満足度を上げ、経済相乗効果をアップさせる。）
- ✓ 子どもが対馬では気軽にコーヒーが飲める場所や遊べる場所、時間がつぶせる場所など娯楽施設が乏しいので、機会があるならそういう店を開きたい
- ✓ ビジネスチャンスも多い場所なので起業したい
- ✓ 商店街の整備（1箇所で食事も買い物もできる場所）
- ✓ 生業の創出/店舗の開業/カフェ開業
- ✓ 海業/魚をたくさん釣る
- ✓ 海辺での宿泊施設等の運営、国際交流/観光振興
- ✓ 農業・食品加工にチャレンジ中/田植え(2名)/ジビエ料理
- ✓ 自然を活かしたこと。果樹や野菜を育てたい。
- ✓ ツシマヤママネコを守る活動
- ✓ イベントもあるが、もっと広報に力をいれる。SNSの活用する

【アンケートフォーム】

北部対馬の未来を共に描こう！アンケート

(仮称)北部対馬アクションプラン策定に向けたご意見稿です。北部対馬で暮らし、働き、学ぶ皆さんや対馬出身の皆さんが、北部対馬の未来を描き、共に行動していくためのアクションプランを作っていきます！皆さんのご意見・アイデアをお待ちしています。

saltchikashisato@gmail.com アカウントを切り替える

共有なし

*必須の質問です

1. 北部対馬の魅力・強み・期待・チャンスは何ですか？

回答を入力

2. 北部対馬の課題・懸念・不安・リスクは何ですか？

回答を入力

3. 北部対馬の未来（こうなって欲しい）というイメージはどのようなものですか？

回答を入力

4. 北部対馬でチャレンジしたいことは何ですか？

回答を入力

5. 北部対馬の課題解決のアイデアやご意見をお聞かせください。
公共交通、空き家・遊休地の活用、教育、働き方改革、観光・交流等

回答を入力

6. お名前 (任意)

回答を入力

7. 性別 *

男性

女性

その他: _____

8. 年齢 *

1. 10代

2. 20代

3. 30代

4. 40代

5. 50代

6. 60代

7. 70代

8. 80代

9. 90代以上

9. 居住地 *

その他の方は、居住地の市町村名をお書きください。

1. 上対馬町

2. 上黒川

3. 絆町

4. 雄玉町

5. 美津島町

6. 彦摩連町

その他: _____

10. 対馬居住の方はお住まいの地区名をおしえてください。

(回答例: 佐波奈、古里、内山、豆蔴、三萩等)

回答を入力

11. ご連絡先(任意)

*返信やお知らせが必要な場合のみメールアドレスまたは電話番号を入力してください

回答を入力

12. 公開の可否

*ご意見をホームページや報告書で紹介させていただく場合があります。

公開してもよい

匿名で公開してもよい

公開しないでほしい

送信

フォームをクリア

Google フォームのパスワードを返信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 - 利用規約 - プライバシーポリシー

Does this form look suspicious? 報告

Google フォーム

(7) 北部対馬子どもアンケート

子どもたちへのアンケート調査

問1 北部対馬はこうなって欲しい (ビジョン)

問2 今の暮らしで困っていること

問3 大人になったら対馬で暮らしたいか

問4 元気にするためのアクション

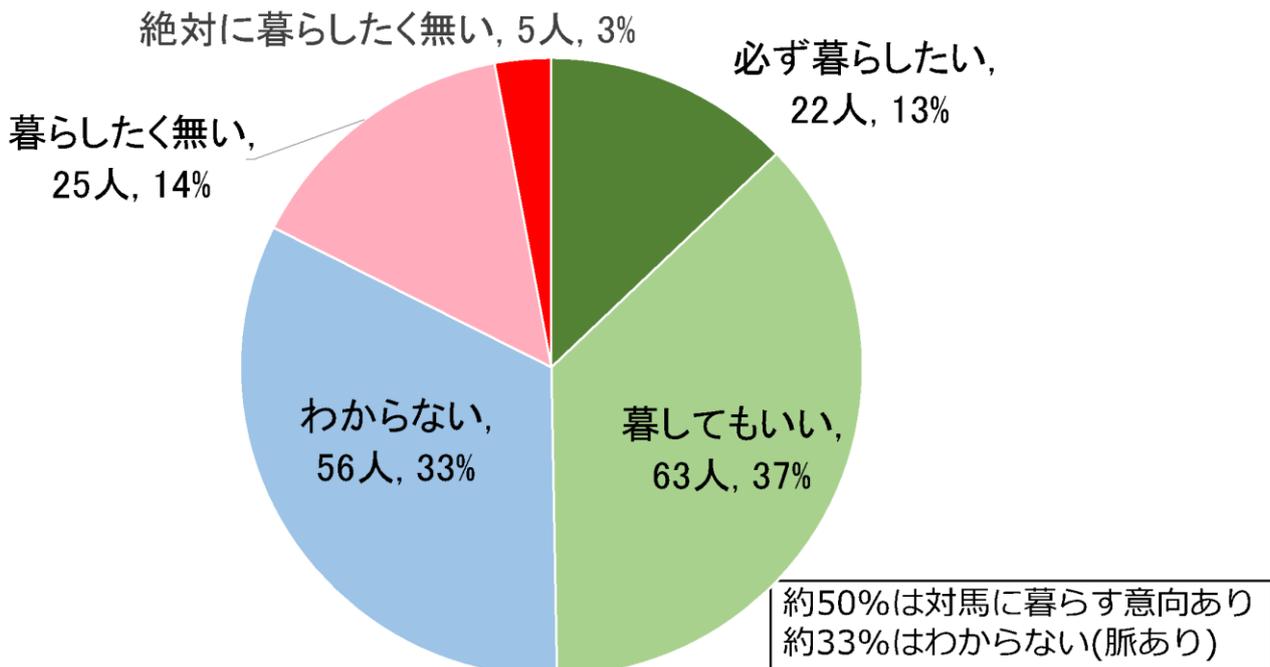
学校	学年	回答数
仁田小学校	小学校5年	3
仁田小学校	小学校6年	6
佐須奈小学校	小学校5年	7
佐須奈小学校	小学校6年	8
比田勝小学校	小学校6年	18
比田勝小学校	小学校5年	17
佐須奈中学校	中学校1年	5
佐須奈中学校	中学校2年	6
佐須奈中学校	中学校3年	7

学校	学年	回答数
仁田中学校	中学校1年	3
仁田中学校	中学校2年	7
仁田中学校	中学校3年	8
比田勝中学校	中学校1年	17
比田勝中学校	中学校2年	15
比田勝中学校	中学校3年	12
上対馬高校	高校1年生	9
上対馬高校	高校2年生	25

合計173名

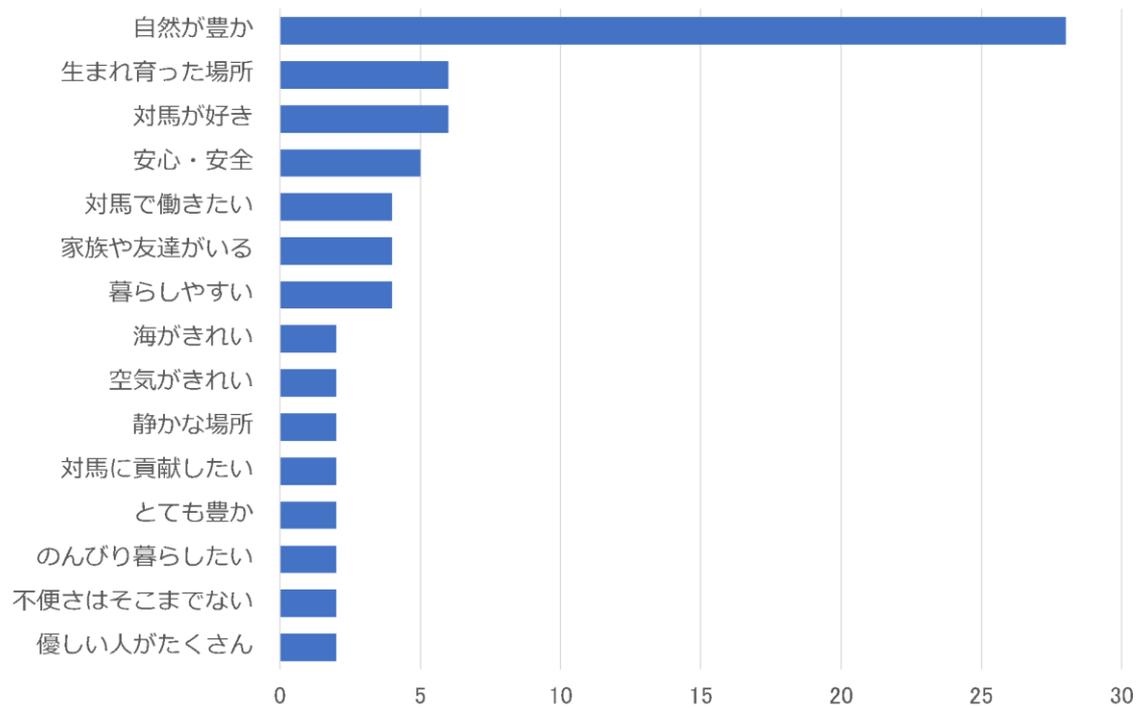
子どもたちへのアンケート調査

大人になったら対馬で暮らしたいか



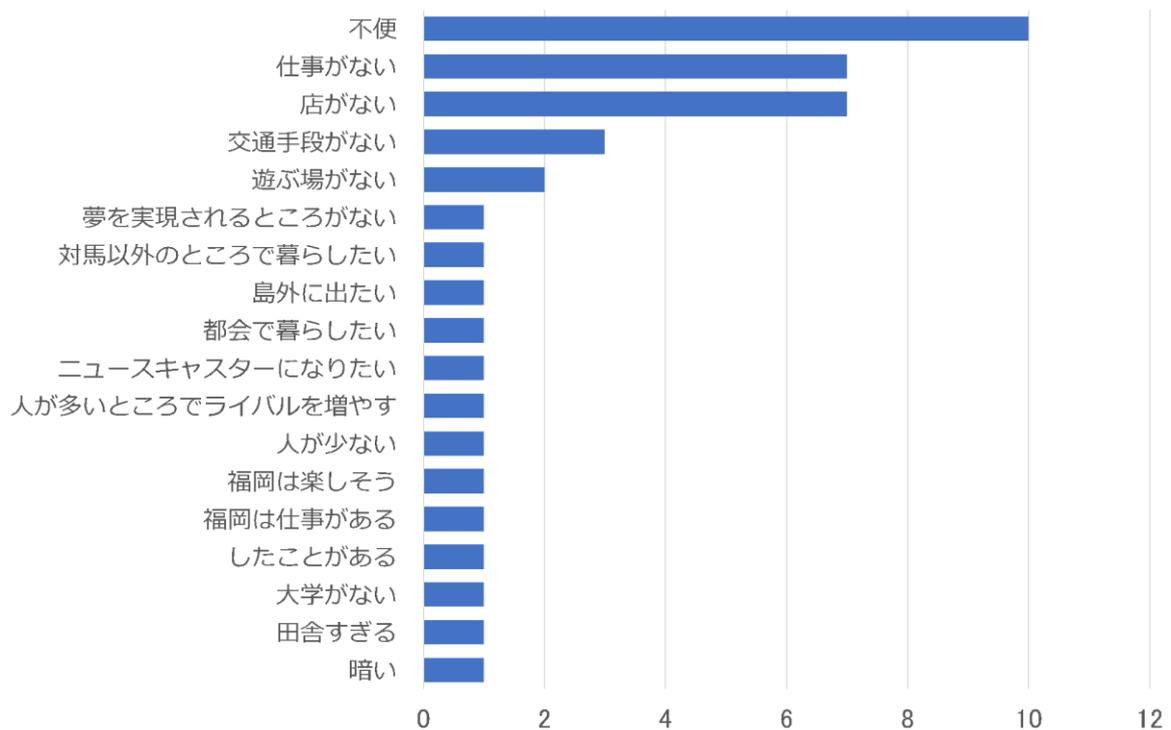
子どもたちへのアンケート調査

必ず暮らしたい/暮らしてもいい理由



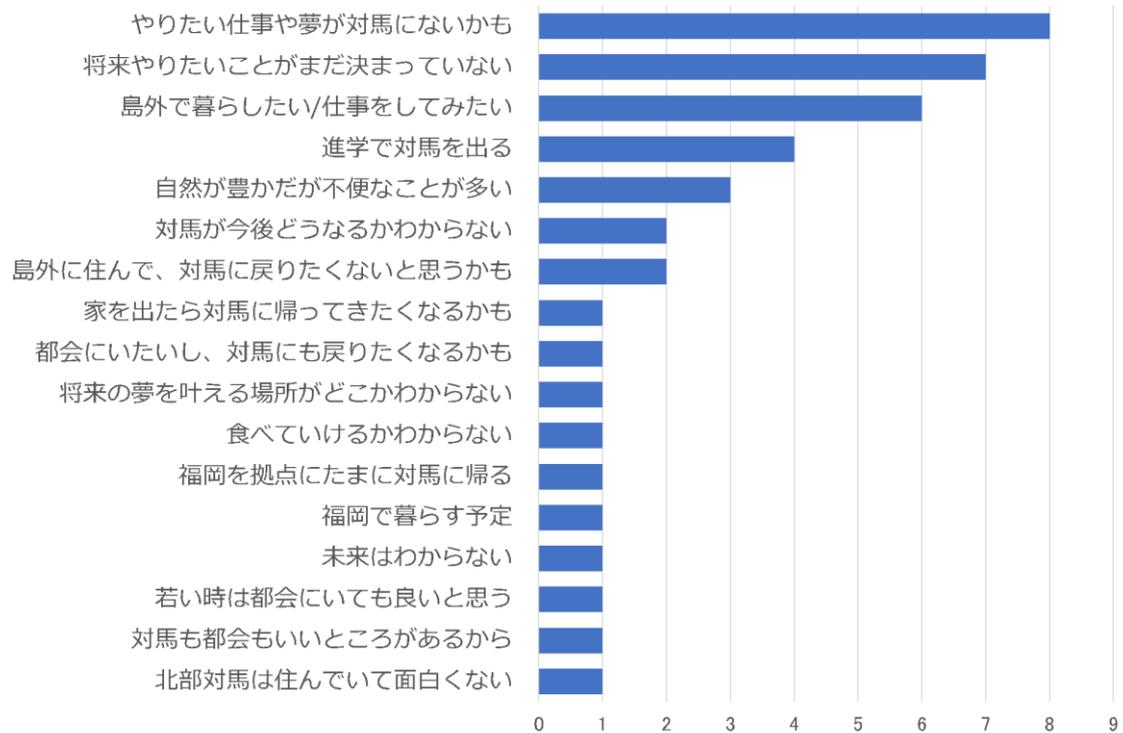
子どもたちへのアンケート調査

必ず暮らしたくない/暮らしたくない理由



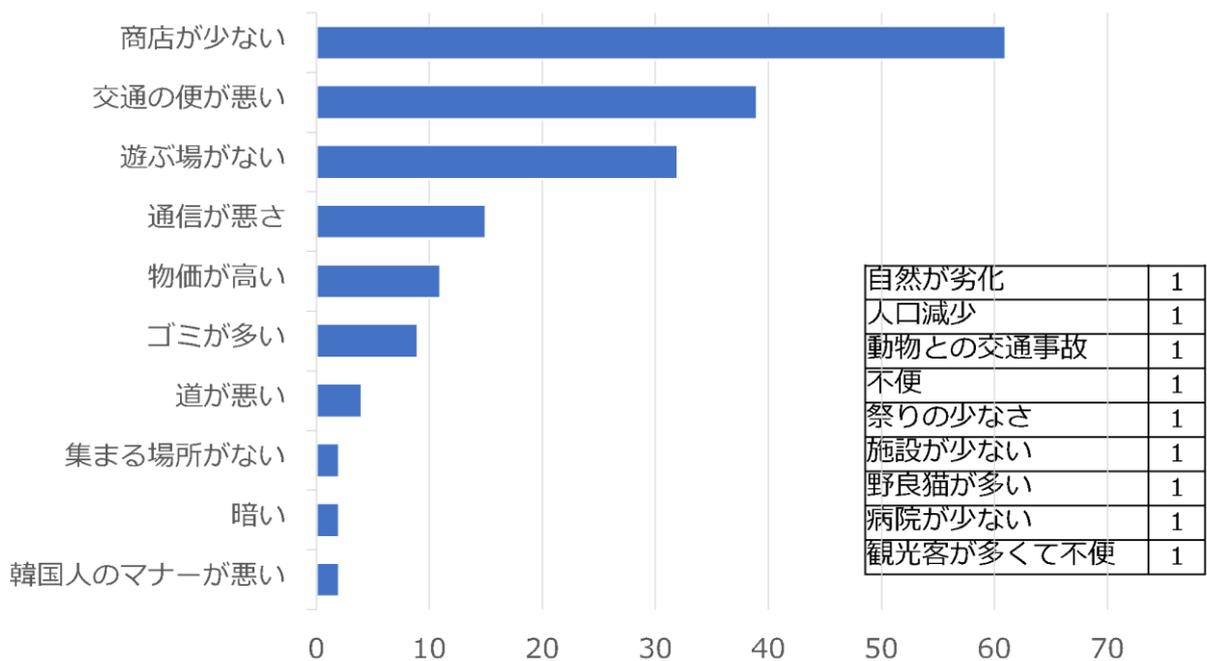
子どもたちへのアンケート調査

対馬に暮らしたいかどうか、わからない理由



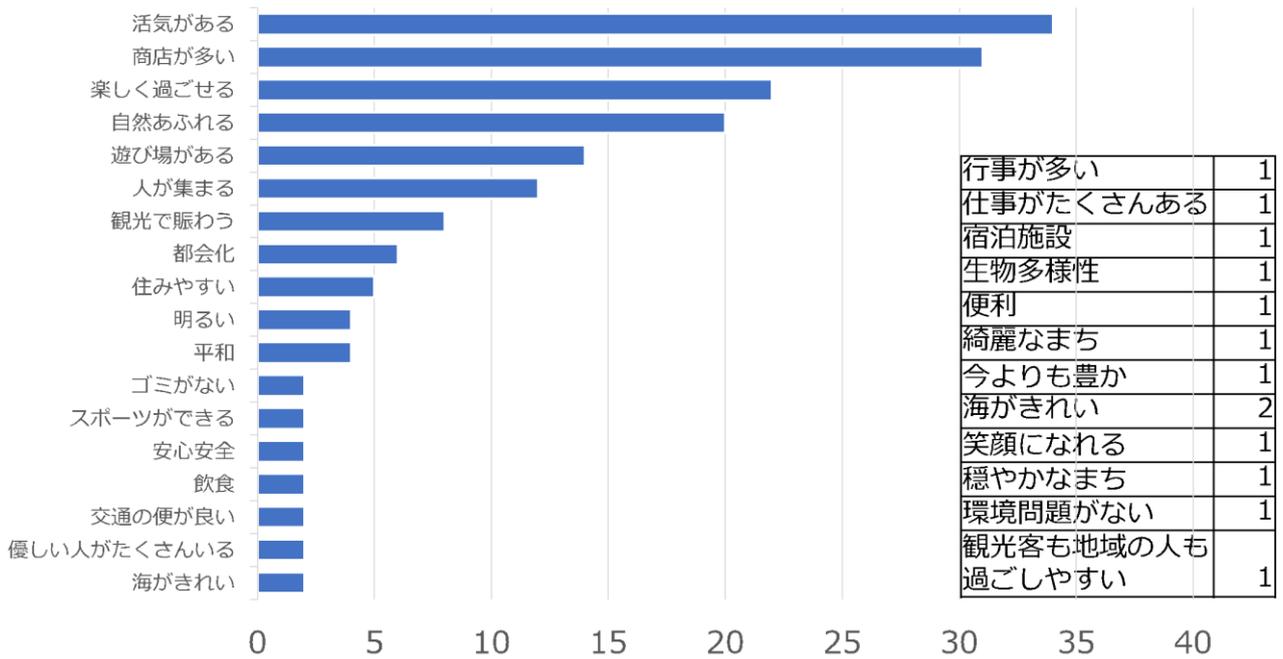
子どもたちへのアンケート調査

今の暮らしで困っていること



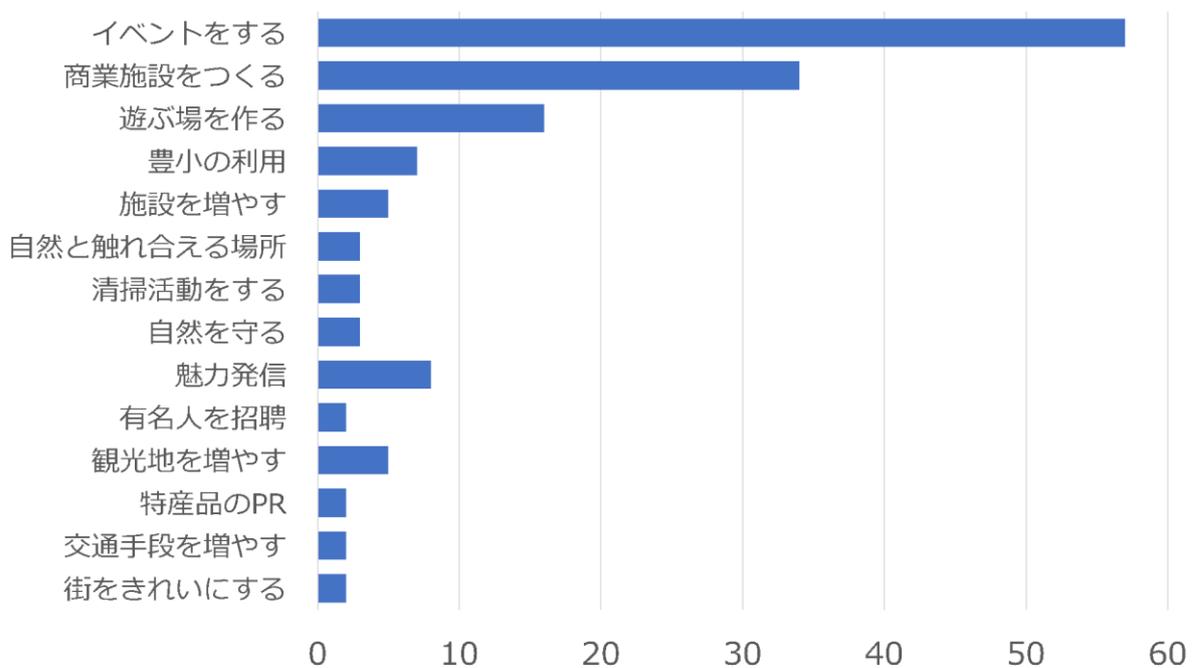
子どもたちへのアンケート調査

北部対馬はこうなって欲しい（ビジョン）



子どもたちへのアンケート調査

元気にするためのアクション



子どもたちへのアンケート調査

イベントをするの具体的な回答(一部抜粋)

- ✓ 北部対馬でしかできない伝統文化に関われるイベントや行事。
- ✓ どこの人でも参加できるフェスを開催する（埋立地や三宇田浜など）。
- ✓ 北部対馬の大人や子供で協力してクリスマス会を浜久須の体育館を借りて開催。例えばビンゴや、マシュマロキャッチ、鬼ごっこ、貨物列車など。
- ✓ 子供祭り会（シーランドで子供がショーをする祭り）
- ✓ 自衛隊基地でイベントを開く
- ✓ 自然を生かしたイベントをする（木でできた製品を販売する）
- ✓ 対馬の綺麗な海を作るためにゴミ拾いをする
- ✓ もっと観光客が対馬に来てくれるように対馬ならではのキーホルダーなどを子供達を作りそれを広めるイベント
- ✓ バスなどの乗り物を使って地域の方々と交流
- ✓ 田植え体験(佐護ツシマヤマネコ米などのことも伝える)
- ✓ 対馬も国スポを行う
- ✓ 高齢者が多いから散歩大会
- ✓ 韓国との交流会
- ✓ 一ヶ月に一回、イベントを行う。（料理教室、スポーツ、ハンドメイドなど）

【アンケートフォーム】

みんなのアイデアを教えてください！

saitochikashisaito@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

共有なし

* 必須の質問です

1. これからの北部対馬はどのようなところになったらよいですか？

回答を入力

2. みなさんが今、対馬でくらししていて、お困りのことはありますか？

回答を入力

3. 大人になっても、対馬でくらしたいですか？

- 必ずくらしたい
- くらしてもいい
- わからない
- くらしたくない
- 絶対にくらしたくない

4. その理由は何ですか？

回答を入力

5. 北部対馬を元気にするためのアイデアはありますか？

回答を入力

お名前

回答を入力

6. 性別 *

- 男性
- 女性
- その他: _____

7. あなたの学校は？ *

- 比田勝小学校
- 比田勝中学校
- 佐須奈小学校
- 佐須奈中学校
- 仁田小学校
- 仁田中学校
- 上対馬高校

学年は？ *

- 小学校5年生
- 小学校6年
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生
- 高校1年生
- 高校2年生
- 高校3年生

送信

フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [利用規約](#) [プライバシーポリシー](#)

Does this form look suspicious? 報告

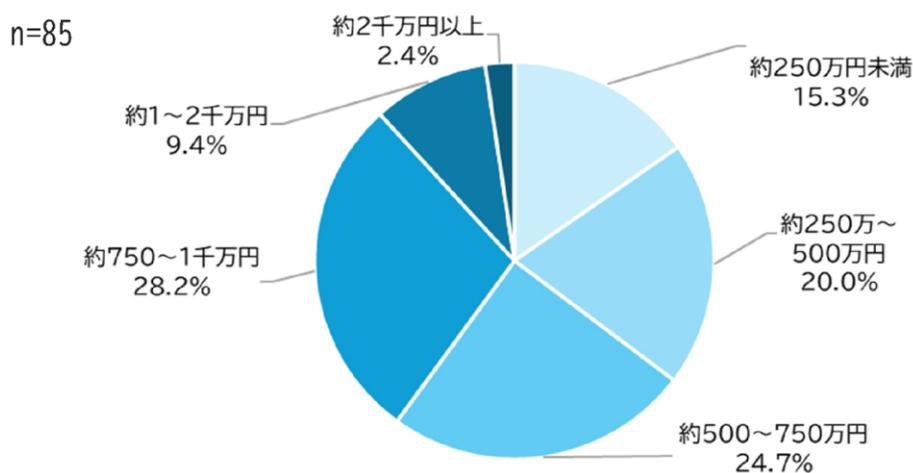
Google フォーム

(8) 韓国人観光客アンケート

- 調査の目的
比田勝港を利用する韓国人観光客の来訪行動
釣りに対する意向の把握
調査期間 令和7年1月
- 調査方法 比田勝港国際ターミナルでのアンケート表、
QRコード配布、声掛けにて回答依頼
- 回収状況 90票

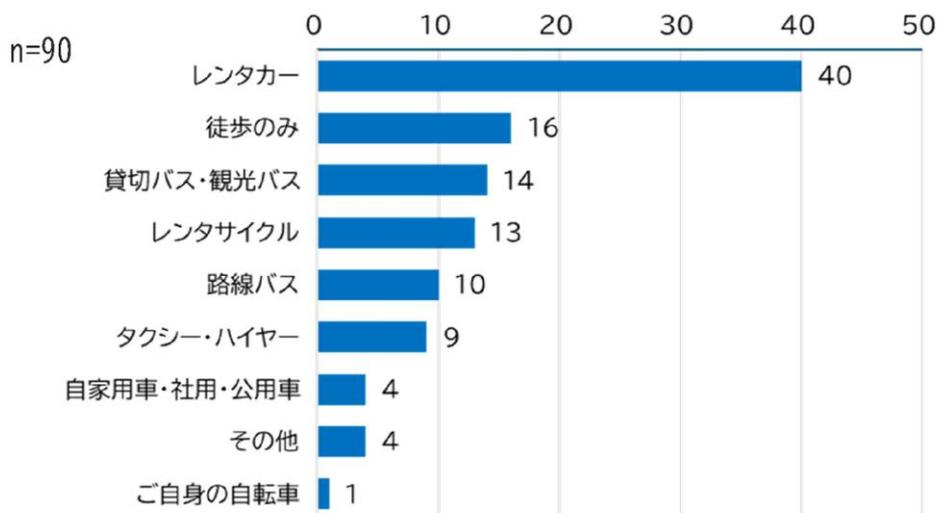
世帯年収

- 約3割の来訪者が世帯年収「約750万円～1千万円」
- 約2.5割の来訪者が世帯年収「約500～750万円」
- 約2割の来訪者が世帯年収「約250～500万円」
- 約1割の来訪者が世帯年収「約1～2千万円」



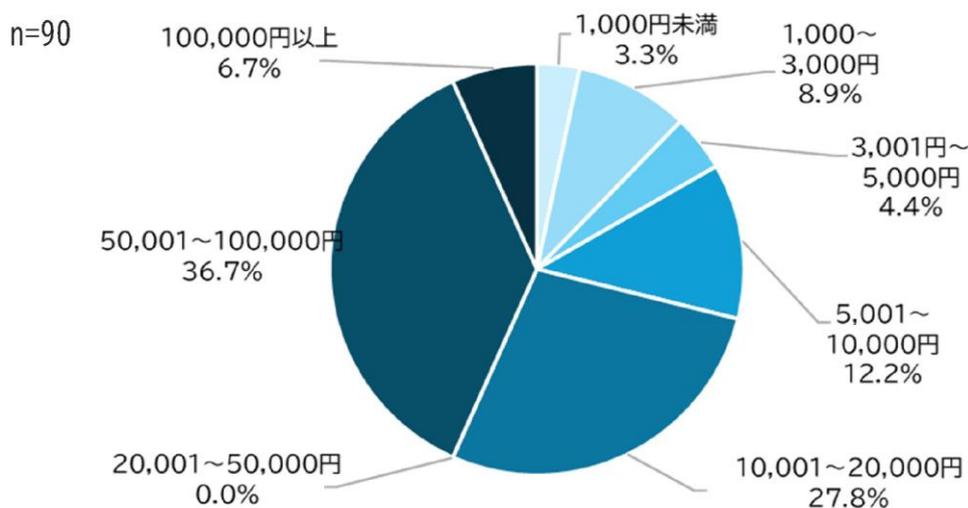
島内での交通手段

- 「レンタカー」の割合が突出して多い。
- 次いで、「徒歩のみ」、「貸切バス・観光バス」、「レンタサイクル」となっている。



観光消費額

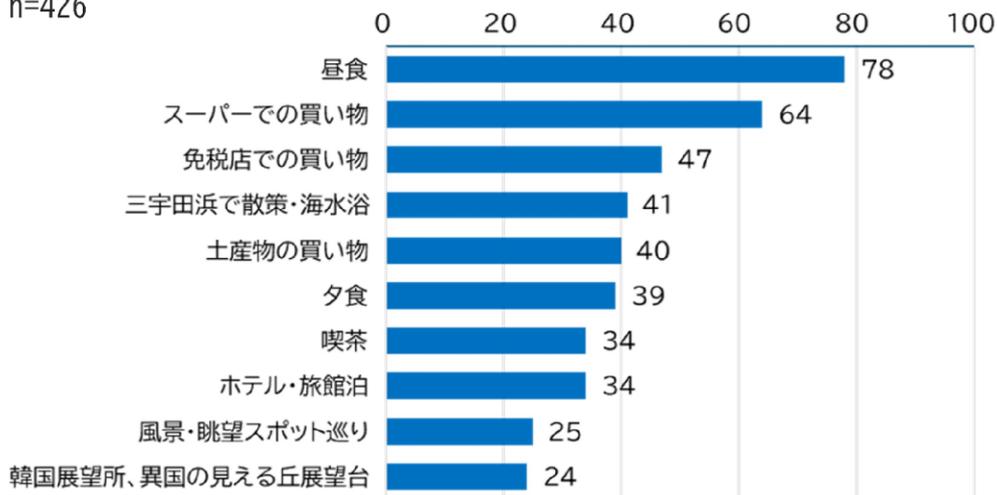
- 約3.5割の来訪者が「5万円～10万円」消費している。
- 約3割の来訪者が「1万円～2万円」消費している。
- 約3割の来訪者が「1万円未満」消費している。



比田勝港周辺で行ったこと

- 「昼食」が最も多く、「スーパーや免税店での買い物」が次に多い。
- 食事や買い物以外は「三宇田浜」「風景・眺望スポット」「韓国展望所」が主な目的地となっている。

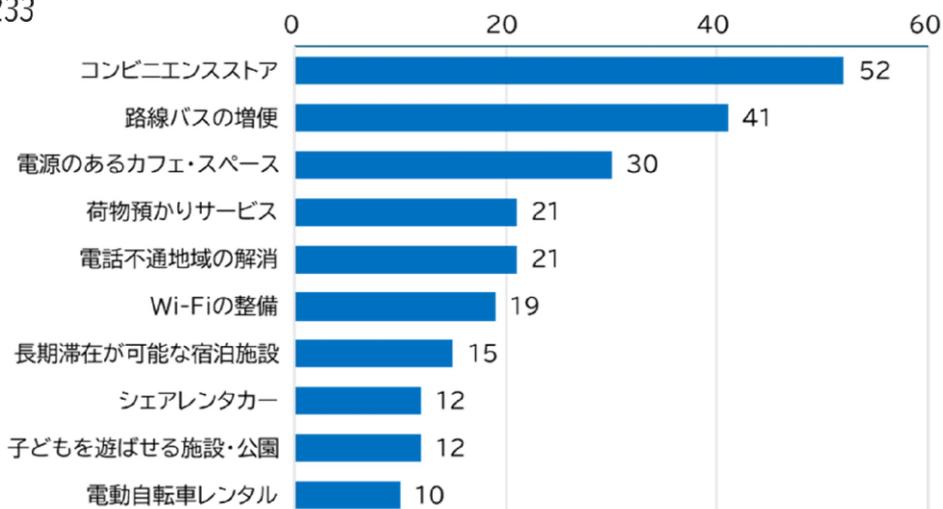
n=426



ほしい施設サービス

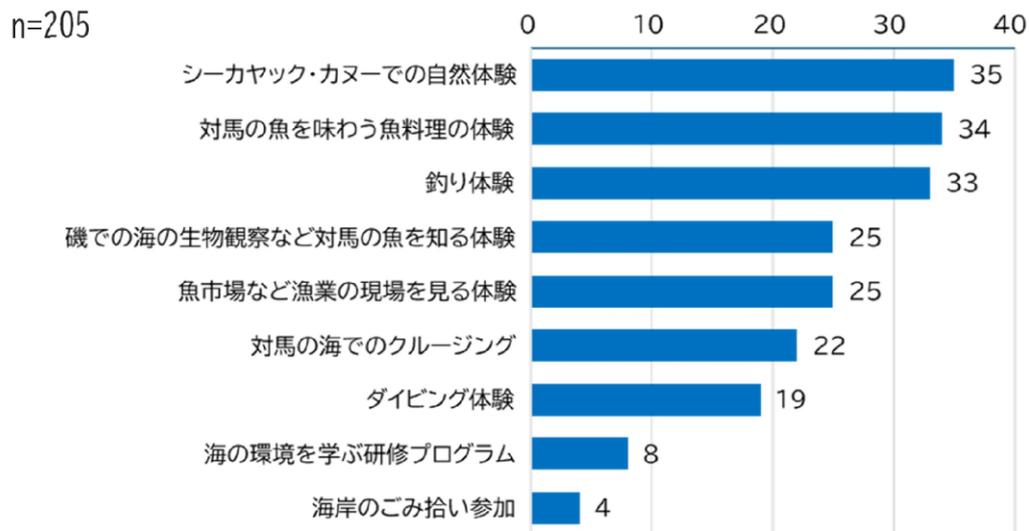
- 「コンビニエンスストア」が最も多く、次いで「路線バスの増便」、「電源のあるカフェ・スペース」のニーズが高い。

n=233



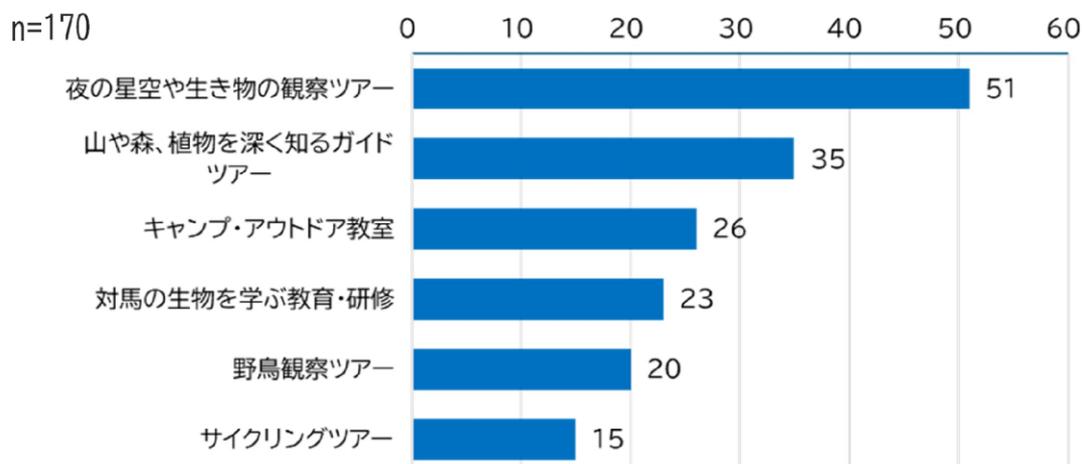
やりたい「海」の体験

- 「シーカヤックでの自然体験」、「対馬の魚を味わう魚料理の体験」、「釣り体験」が特に多い。



やりたい「里山」の体験

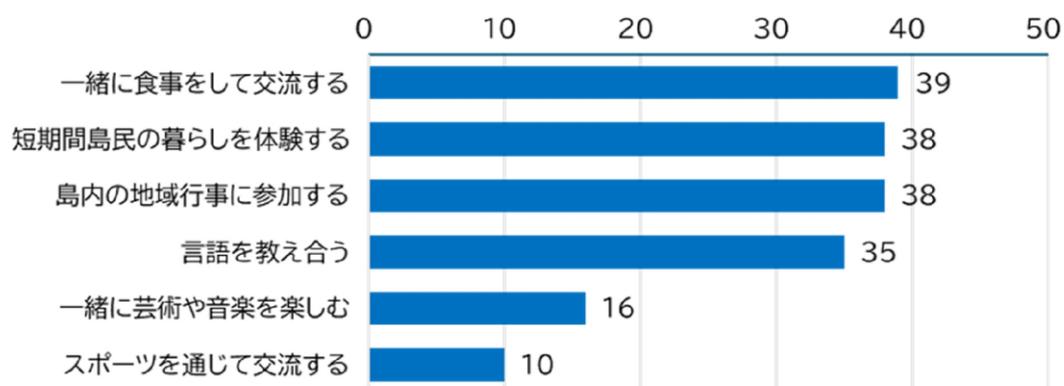
- 「夜の星空や生き物の観察ツアー」が突出して多い。
- 次に「山や森、植物を深く知るガイドツアー」、「キャンプアウトドア教室」、「対馬の生物を学ぶ教育・研修」が多い。



やりたい「交流」の体験

- 上位から順に、「一緒に食事をして交流する」、「短期間島民の暮らしを体験する」、「島内の地域行事に参加する」となっている。

n=176



4 北部対馬地域活性化検討委員会の運営支援

(1) 第1回

項目	内容
日時	令和6年11月8日(金)
場所	上対馬総合センター
参加者	29人
実施次第	<ul style="list-style-type: none"> ○会長・副会長選出 ○会長挨拶 ○趣旨説明 ○ワークショップ① アクションプランの目的・目標・方針、北部対馬の現状と課題 ○ワークショップ② 北部対馬のあるべき姿・ビジョンの設定 ○ワークショップ③ 北部対馬で最優先に取り組むべき論点 ○まとめ

第一回 北部対馬地域活性化検討委員会(11月8日(金)開催) ワーキングまとめ

日時 令和6年11月8日(金) 13時30分～15時45分

場所 上対馬総合センター

検討委員会委員名簿

所属	職名・役職	氏名
対州馬保存会	会計事務員	松村浩二
対馬観光物産協会	事務局長	西護
(株)国際ライン対馬(国際航空関係)	課長	山口正光
(株)インタープロセス(国際航空関係)	代表取締役	比田勝亨
対馬観光物産協会上対馬部会	上対馬部会長	今村純一
国境マラソンIN対馬実行委員会	実行委員長	今村純一
あじさい祭りパラグライディング対馬大会実行委員会	実行委員長	平山美登
上対馬漁業協同組合(海業振興モデル地区事務局)	代表理事組合長	八島康平
上対馬南漁業協同組合	代表理事組合長	神田満男
佐須奈漁業協同組合	参事	小宮通昌
上県町漁業協同組合(伊奈地区)	参事	高田清志
対馬農業協同組合上対馬支店	支店長	米田昌隆
対馬森林組合	北部支所長	瀬崎克喜
対馬市商工会	理事	武富泰一
比田勝郵便局	局長	平山康人
十八親和銀行比田勝支店	支店長	大坪利晴
対馬市社会福祉協議会	理事	宮原勝美
長崎県立上対馬高等学校	校長	望月聡
教育委員会学校教育課(中学校担当)	主幹兼指導主事	阿比留喜盛
教育委員会学校教育課(小学校担当)	主幹兼主任指導主事	春田潔
対馬振興局管理部	部長	野口健一
対馬野生生物保護センター	首席自然保護官	柴原崇
上対馬振興部	部長	原田勝彦
上県行政サービスセンター	所長	田村竜一
しまづくり推進部	部長	三原立也
観光商工部	部長	阿比留忠明
農林水産部	部長	平川純也
建設部北部建設事務所	所長	山口博邦
保健部北地区保健センター	所長	須川純子
教育委員会北地区教育事務所	所長	木寺晃三
消防本部北支署	署長	武末幸喜
株式会社 対馬地球大学	代表取締役	高野 清華
移住定住者(島おこし協働隊OG)		庄司絵里加
上対馬振興部地域振興課	島おこし協働隊	橋田ゆかり
公募委員		築城慎一
公募委員		前野貞美

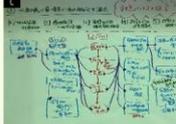
次第

1. 開会
2. 会長・副会長選出
3. 会長挨拶
4. 趣旨説明
5. 事務局からの説明とワークショップ①
・アクションプランの目的・目標・方針等
・北部対馬の現状と課題
6. 事務局からの説明とワークショップ②
・北部対馬のあるべき姿・ビジョンの設定
7. 事務局からの説明とワークショップ③
・北部対馬で最優先に取り組むべき論点
8. まとめ

ワークショップの様子 A～Eの5グループに分かれてワークショップを行いました。

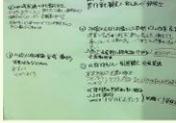










37

事業者等・議員ヒアリングでのご意見（ビジョンや考え方）

事業者等ヒアリング

- ・ 若者が暮らしていける、都会から戻ってこれる仕事やインフラがあること。
- ・ 人口減少を食い止めるためにはまず雇用の課題解決。インフラの維持・改善。
- ・ アイデアはあるが、どうして実現したらいいかわからず一歩が動けない人が多い。
- ・ 何かしないといけないが、何をしたらいいかわからず途方に暮れる。根本的な解決が必要。
- ・ 市民が、ブランディングや戦略的なビジネスをする視点を育てて、売り方や売れるモノ・サービスをつくる。
- ・ 対馬の交通費が高いのは課題だが、高い旅費を払ってでも行きたい対馬にしたい。
- ・ 資格がとれる専門的な学校があれば。教育も民間の力が必要。
- ・ 比田勝から大浦、泉のコンパクトな環状線の整理。定期便（右回り、左回り）があったら便利。コンパクトに韓国人が気軽に周遊できる。

地元議員ヒアリング

- ・ 新しいことをやるよりも今ある資源（馬事公園、棹崎公園、千依峙山など）を観光地・地域の集まる場としてしっかり整備して欲しい
- ・ 公共施設の管理が財政負担になるので、集約していかないといけない
- ・ 思い切った施策を打たなければ、もう若者は途切れてしまう
- ・ 漁業が衰退すれば人口が激減するため、最も重要
- ・ 一芸をもった移住者や、地域を応援してくれる人が来てくれる地域を作ることが一番大事
- ・ 商売人は観光客を大歓迎する一方で、生活への影響を懸念して歓迎しない住民が多い。その両者がうまく結びついていくことが重要。

第一回 北部対馬地域活性化検討委員会（11月8日（金）開催）ワーキングまとめ

A班

1 北部対馬の現状と課題

- ＜インフラ・空き家＞
- 空き家のマッチング見つからない
 - 携帯の電波の速度が遅い
 - 土砂災害からの復旧に時間がかかっている
 - （対馬ではあまり不足にはなっていないが）将来的に食料の確保が心配

- ＜子ども・遊び＞
- 子育て層の意見を取り入れてほしい
 - 子どもを室内で遊ばせる場所が少なく、ゲームで遊ぶことが多い
 - 漁業種があるので、楽しく遊べる海辺、貝を獲る等ができる場所が欲しい
 - 漁港での釣り禁止が多い。釣りができる場所を発信したい。
 - 遊び感覚を持ちたい。大人が一息つける場所、子どもの遊び場が重要。

- ＜観光＞
- ライトな観光はあるが、ディープな観光が不足している。ガイド人材育成が重要。
 - コアなコンテンツとして山の歴史ガイドを行い、お金が落ちるようにしたい。
 - 団体客のコントロールを考える必要がある。バスガイドが根拠のない話をしていることもあるため、何を伝えるか等も要求したい。

- ＜担い手＞
- 対馬高校の留学生（外国語を話せる人）を自身の会社で採用したいがない。
 - 地域でやりたいことに対して、特に高齢者はどうやったらいいかわからず動けない。たくさん情報を渡してどのようにしたらいいか教えてくれれば高齢の人も動けるし手伝いたい。

2 北部対馬のありたい姿

- ＜観光は量から質へ、価値観を転換＞
- 量から質へ！「数」ではなく「満足度」や「愛着」を指標にしていく転換をし、地元との交流のある観光を展開したい。
 - 韓国以外のお客さんにも目を向け、世界的に注目される地域へ

- ＜文化や集落それぞれの個性を残す＞
- 文化の継承 お祭り、どんとやきが出来なくなっている。担い手が減っていくからこそ、形を変えてできないか。
 - 地域性が平準化されていく不安がある。本来それぞれの集落単位で個性がある。個性を生かしながらしめていく！

- ＜やりたいことが対馬でできる！＞
- 魅力のある仕事を見つけていくことができる地域
 - 産業別のビジネスのパターンなど知れたら対馬での仕事がイメージしやすい。情報が欲しい。
 - 住み続けられる（Uターンしやすい）地域にしたい！

3 優先的に取り組むべき論点

① 地域交通の利便性の向上	② 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	③ 多様な人材確保・育成、働き方	④ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	⑤ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」仕組みをつくらぬか？	「使いたい人が使える」仕組みをつくらぬか？	どんな人材をどう集めてどのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として何をどう整備すべきか？
・ライドシェアで足りないところを補い、観光客の足になること。	・学ぶ場、交流の場、働く場の充実	・一次産業に就業できる人を増やすため、生計が立てられることを示す ・一番安定して稼げる選択肢が公務員では移住者や担い手が増えない。公務員よりも民間で稼げるようにしたい。 ・対馬に住んでくれる人を地域側が離さない。応援する。 ・AIの推進には電力量が10倍必要	・対馬を好きな人を心やすするためには、対馬を知ること学ぶこと、交流すること。	

B班

1 北部対馬の現状と課題

<<仕事>>
 ○対馬生まれの人が島に留まらず、労働人口が少ない
 ○選択肢が少ない
 ○特に林業・運送業で働き手が不足している
 ○家族で赴任せずに、父親だけの単身赴任が増えている

<<医療・子育て>>
 ○医療面、子どもの預かり面で子育て世帯の負担が大きく子育てにくい

<<教育>>
 ○学びに選択肢が少ない ⇒何においても選択肢が少なく悪循環に

<<人口減少>>
 ○全国的に減っているため元々の奪い合いになっている
 ○高齢者のみの集落が増えている

2 北部対馬のありたい姿

<<地元と内地の調和がとれた社会に>>
 ○対馬出身者が戻ってきたくなる×島外から移住したくなる島へ
 ○基幹産業×観光のバランスがとれた地域に
 ○対馬出身者の10歳の子どもが「対馬に戻ってきたい」と思える島へ（楽しみがある・仕事の選択肢・安心感）

<<しっかり循環させる効率的な社会に>>
 ○交流人口の出入りは多い地域にも関わらず人口増加につながらない
 ○辺鄙な場所でも人が集まれば仕事は生まれてくる。効率性と集中が必要

<<あるものを活かす仕組み>>
 循環…人・仕事・利益・情報 } コーディネーター・監督が必要
 マッチング…すでにあるものを活かせる仕組み (バランス・効率性の判断)

3 優先的に取り組むべき論点

<p>⑥ 地域交通の利便性の向上</p> <p>「行きたい場所に行ける」仕組みをつくれなにか？</p> <p>・短距離のシャトルバスを増やし、乗り継ぎしながら目的地へ移動できる仕組み ・高齢者の通院をやすく</p>	<p>⑦ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用</p> <p>「使いたい人が使える」仕組みをつくれなにか？</p> <p>・豊小学校 ⇒キャンプ場、子どもの預かり施設に</p>	<p>⑧ 多様な人材確保・育成、働き方</p> <p>「どんな人材をどう集めてどのように活用していくか？」</p>	<p>⑨ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化</p> <p>「対馬らしさ」等を学べる魅力的な学校を作れないか？</p>	<p>⑩ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点</p> <p>国際観光・交流の拠点として何をどう整備すべきか？</p> <p>・権現山、千俣山→バスが通れる道路の整備（井口浜と合わせてリゾート化）</p>
--	--	---	--	--

C班

1 北部対馬の現状と課題

<<人口減少・少子高齢化>>
 ○北部対馬地域の人口減少及び少子高齢化に伴い、あらゆるところで人手不足（後継者不足）の課題が生じている。以下は、人口減少によって起きている課題を上げている。

<<自然>>
 ○山や畑（里山）、海も同様に自然環境を維持管理できる人手が少なくなり、自然環境が劣化、さらには自然災害のリスクが高まっている。

<<交通>>
 ○島内の移動手段が脆弱。車に乗らない高齢者等にとって生活が不便な状況になっている。
 ○レンタカーを利用できない国内観光客にとって、公共交通機関で北部対馬に行くのは非常にハードルが高い。国内観光客の誘客が課題。
 国内観光客の交通利便性向上にあたっては、ジェットフォイルで本土と北部対馬を結ぶよう推進されたい。
 ○国際船ターミナルの立地から韓国等外国人観光客が多く、公共交通の利用に関しては強みであるものの、韓国人の受入体制が課題となっている。

<<仕事>>
 ○10年前くらいから、各職業で人手不足となっている。事務職員等も少ない状況である。
 ○顕著に人手不足と思われるのは水産業や建設土木、運送業である。
 ○働き手を募集しても入ってこない。やりたいとおもう仕事が少ない。
 ○子どもが楽しめる場所、居場所が少ない。公園や雨の日に滞在できる場所が欲しい。

<<情報発信>>
 ○上記課題が沢山あるが、一方で、北部対馬には自然や程よい田舎感など、地域の魅力や宝物は沢山あり、それらを情報発信したり、魅力を今後どうしていくかという一体的なビジョンを持っていないのが課題。
 ○ビジョンを持って戦略立てた情報発信をすることができれば、北部対馬を好きになってもらい出会いや移住に繋がる可能性も期待できる。

2 北部対馬のありたい姿

「生涯一貫した学びや交流を通じた暮らしができる」

<<ライフステージに応じた学び・交流>>
 ○高校生：魅力ある高校として、北部対馬の良さを伝えたり、北部対馬でしか経験できない科目（農業・林業・水産業等）がある。地域の先輩から学び交流できる。
 ○大学生：大学で島外に出て行ってしまいが、対馬に戻れる居場所がある。
 ○若者：働ける場や起業できる環境がある。自分のやりたいことができる場であり、自由に働き方暮らし方の選択肢がある。仕事や暮らしには先輩達の知恵やワザを教えてもらったり、休耕地等の活用もできるなど、地域資源を活用した暮らしが選択肢できる。
 ○ファミリー：家族ができ、子どもが楽しめる場所ができる。子どもも、地域の先輩から学び交流することで新たな北部対馬の担い手として成長する。
 ○名人先輩：①～④の世代に知恵やワザを伝授する。交流する。

<<地域資源の活用>>
 ○休耕地等を活用できる環境により、若者等の一次産業の関わり、学び交流を増やすことができる。
 ○遊休施設（廃校等）を活用し、学び交流の場になり、また、雨の日にも過ごせる居場所となりえる。子育て環境の充実も繋がる。

<<観光客等の交流>>
 ○上記雨の日にも過ごせる居場所により、観光客もまた、雨の日にも滞在できる場所として活用が展開できる。
 ○休耕地や遊休施設の活用においては、島外企業等が参画・活用することで新たなビジネス・産業の創出や雇用増、さらには人口増加に寄与する。

3 優先的に取り組むべき論点

<p>⑪ 地域交通の利便性の向上</p> <p>「行きたい場所に行ける」仕組みをつくれなにか？</p> <p>・高齢者等の交通手段の確保（特に通院や買い物の移動手段）</p>	<p>⑫ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用</p> <p>「使いたい人が使える」仕組みをつくれなにか？</p> <p>・雨の日にも過ごせる場所づくり ⇒子どもも観光客にとっても雨の日にも過ごせる場所をつくる。身体が動かせる場所であり、家族が安心して遊ばせられる場所が良い。 ・企業への遊休施設等の貸出し・マッチング事業 ⇒遊休施設や土地を活用してもらえるようなどんな施設・資源があるか情報を一元化して公開発信する。</p>	<p>⑬ 多様な人材確保・育成、働き方</p> <p>「どんな人材をどう集めてどのように活用していくか？」</p> <p>・ライフステージに応じた一貫した人づくり ⇒高校生：上対馬高校の魅力化や国際交流の取組強化 ⇒学生：対馬に戻って学び交流できる、戻ってこれる居場所づくり ⇒若者：遊休施設等の活用・マッチング、ふるさと教育、名人から学び交流できる ⇒ファミリー・子育て⇒雨の日にも滞在して学び・交流の機会がある ⇒名人・先輩：後輩の若い世代に北部対馬の知恵やワザを伝承できる機会がある ※そもそも「対馬らしさ」とは何かを突き詰めることが必要</p>	<p>⑭ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化</p> <p>「対馬らしさ」等を学べる魅力的な学校を作れないか？」</p> <p>・韓国人向けの日本語講座 ・対馬の名人さんから学ぶ交流する取組 ・ふるさと教育 ・上対馬高校の魅力化</p>	<p>⑮ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点</p> <p>国際観光・交流の拠点として何をどう整備すべきか？</p> <p>・海浜振興の実現 ⇒釣り等を含むマリッジジャーの展開 ⇒雨の日対策 ・観光客受入体制づくり ⇒公園や劣化した施設の活用充実化 ⇒公衆トイレの整備改善 ※そもそも韓国人観光客が何を目的に観光に来るかの調査が必要。</p>
---	---	--	--	--

D班

1 北部対馬の現状と課題

◀人口流出▶
○比田勝への移住者は増加も、定住が課題である。
○北部はアクセスの課題から、中部南部への移住もある。
○子ども・出生数の少なさ、学校の維持・企業の維持に課題がある。

◀交通の課題▶
○救急医療環境として、道路交通に課題あり（上対馬病院はあるが、対馬病院へは1.5時間、島外への救急搬送も課題）
○島外からのアクセスの悪さ（飛行機も高額）
○1時間で海外へ行ける航路の活かし方を考える必要

◀情報の少なさ▶
○若い世代、田舎暮らし希望者へ情報が届いていない
○魅力の多様化が求められる（様々なターゲットへの訴求が必要）

◀産業▶
○都会にあってもここにはないものはビジネスチャンスになる（ダンス教室など）
○漁業環境の変化による課題（温暖化による海水温上昇、出現する魚種の変化）ただし全国的にみると恵まれた漁場
○漁業者の減少（上県漁協正組合員100人から45人、売上10億から5億）
○各産業の担い手不足、働く場の問題、魅力発信の必要

◀人間性▶
○厳原とは別世界の生活環境、文化（放っておかれないあたたかさ）
○人の温かさは価値
○女性の活躍できる環境や文化がほしい

2 北部対馬のありたい姿

◀島外からの来訪円滑化▶
○比田勝にジェットフォイルの就航を求める

◀島内の移動改善▶
○小集落での高齢者の一人暮らしが不安

◀自然環境の保全▶

◀魅力情報の発信▶
○ターゲットを見極めて発信
○地域に誇りを持つこと、行きたい・行ってみようを実現させる
○島外の知り合いの会社などで対馬のプレゼンをしたい

◀消費拡大▶
○お金が落ちる仕組みづくり
○韓国との近さを活かす方策
○飲食店の賑わいもあることを活かす・さらににぎわいをつくる

◀ゴミ問題の解決▶
○漁港、磯場の釣りゴミ問題

3 優先的に取り組むべき論点

<p>⑩ 地域交通の利便性の向上</p> <p>「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないうか？</p> <p>・ハード（道路整備）だけではなくソフトの仕組み（ライドシェアなど）も必要 ・ライドシェアは雇用創出につなげられる ・運転手不足の解消の方策としてもよし ・長期的な視点</p>	<p>⑪ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用</p> <p>「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないうか？</p> <p>・空き家が使えたらできることはある</p>	<p>⑫ 多様な人材確保・育成、働き方</p> <p>どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？</p> <p>・外国人労働者の確保は考える必要があり。</p>	<p>⑬ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化</p> <p>「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？</p> <p>・上対馬高校での国際交流コースで島外からの学生誘致、韓国からも短期留学できたい ・水産を学べる仕組みを検討 ・和食を学ぶ学校をつくる ・対馬で楽しめる趣味を持つ親を育てることも</p>	<p>⑭ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点</p> <p>国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？</p>
--	---	--	---	--

E班

1 北部対馬の現状と課題

○住居、車、暮らすための情報不足。特に情報が北部は少ない。島外から働くとき困る。
○空き家が多い ←仕組みがほしい
○若者が少ない、働き手の高齢化、70才まで働く！？ 人手がほしい、苦しい
○人口減少のスピードが速い、若者が島外へ
○インバウンドは増える、人は少ない
○宿泊、飲食などはインバウンドでいいが、国内は厳しい現状。質を上げた観光業が必要。
○漁港、港湾施設全国1位 未利用率高い
○集落の維持が厳しくなっている
○比田勝港を物流（貿易港へ）→早ければ来年1月テスト運航
○比田勝までの道がまだ悪い
○物価が高い（スーパー）
○佐須奈はシャッター街
○鹿校がもったいない

2 北部対馬のありたい姿

○海洋ゴミの処理、再利用ができる施設を対馬に作ってほしいと思う。毎年島外に出すのに経費がかかる（北部対馬）
○山の木が災害で海に出る。山主に処分費を出してもらった方がよい。
○森川里海が広がっている 森の適切な管理
○環境を大切に！！貿易ができたらいい！！
○対馬の海を守る 外来船舶（他県）の乱獲 国の力で海域管理ルール守れ！
○人口を増やす（社会増）
○北部は海業をやっているのだから（釣りに）
○空き家の活用（住む所）
○若者がリターンできる北部対馬 戻るために助成してほしい
○コンパクトシティ
○交流人口を増やす
○鹿校活用→民間へ
↓
グラウンドが広いので陸上養殖で使いたい

3 優先的に取り組むべき論点

<p>21 地域交通の利便性の向上</p> <p>「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないうか？</p> <p>・高齢者の通院がネック ・新たなバス導入（病院用バス） ・韓国人がバスいっぱい、高齢者がかわいそう ・通勤時に便乗させてガソリン代程度支払う、すでに進んでいる取組</p>	<p>22 公共の遊休施設や土地、空き家の活用</p> <p>「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないうか？</p> <p>・畑が使用されていないとこ多い ・農作業も観光に使えないか？体験型</p>	<p>23 多様な人材確保・育成、働き方</p> <p>どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？</p> <p>・兼業OK 自由な働き方</p>	<p>24 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化</p> <p>「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？</p> <p>・漁業に依存しすぎず、新しい考え方、働き方を導入していく必要がある。いつまでも漁業が今の状態ではない。 ・上対馬高校で水産科（小型船舶漁師）普通科と併用←船舶免許を取らせる</p>	<p>25 北部対馬らしい観光振興・交流拠点</p> <p>国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？</p> <p>・鹿校利用した多様な施設 ・ハローワーク、ワーキング→フリーストック窓口、そこに行けばなんとかなる施設 ・北部対馬の特色ある取り組みに対して、ふるさと納税とガバメントクラウドファンディングの高輪で予算確保</p>
---	--	---	--	---

(2) 第2回

【実施概要】

項目	内容
日時	令和7年3月13日(木)
場所	上対馬総合センター
参加者	26人
実施次第	○趣旨説明 ○各種調査結果の報告 ○基本方針と全体構想の説明・協議 ○作業部会の状況説明と協議 ○今後の計画策定の進め方説明

【基本方針と全体構想についての協議内容】

グループ	内容
A	<ul style="list-style-type: none">・ 韓国人が来る地域であるので、韓国の方、島民、国兄のふれあいの場をつくること・ 星空を活用、寝転がってみるようなコンテンツを持つこと・ 道路の倒木など、景観がよくなるような整備を行うことが必要・
B	<ul style="list-style-type: none">・ 便利と不便、支えあえる地域の安心感を大事にしたい・ 担い手の問題について、75歳以上の方を活用してもらって、交流も健康も生まれることを目指す。孤立しない、内地の子供たちのところへ行かずに、対馬の暮らしを楽しめること・ 北部でつくる、上対馬上県が思い浮かぶことが重要。豊かな自然が特徴、国境の地域であることを押していくことが大事。九州との距離感も違うので、北部は自然保護・ 高校生の8割は島外へ出る。就職したい高校生もいるので、上対馬高校で韓国語、水産関係の学びもできることを企画されているので、高校生を担い手に、コミュニテイスクール・ 放課後に友達と遊びたい、交通の部分の壁。バイク通学を認めることで放課後のある生活をつくってあげたい。仲間意識を強めることで、その後の島の暮らしに影響を与える・ 国際ターミナル主変に、観光拠点としての大きな施設が、待合も、子供たちが集まることも、雇用が生まれる・ 海業の展開も重要・ バスの大浦右回り、左回り、観光、高校生、高齢者も乗り合わせできるように整備したい
C	<ul style="list-style-type: none">・ 暮らしの中で、住んでの方が安心して暮らせること、韓国人との交流ができればいい・ 幸せに暮らすことが観光客にも魅力的にうつるはず・ 今住んでる方、特に高齢者の方が安心して暮らせるまちになること・ 交通の便がわるい、仕事があれば、島に残れる・ 海がきれいだがアクティビティ日体がない。・ 土日の子供の居場所がない。・ 一つの業態を一つの会社がやるのではなく、紅茶を出す、ケーキ、場所を貸す人が三社で一つの事業をやる・ 自然が豊か、昔は磯で遊んだが、今は厳しい。ニナをひろうとかやってた。磯の開放を土日祝日限定で、漁協がお金をとってやる。家族できた方が遊べる

	<ul style="list-style-type: none"> ・海に親しむと、海ごみ回収の協力体制、ボランティアに参加する方も増えるのではないかな。 ・学校、野外で遊ばせない、島の子が魚のことをわからない状況。親の責任で、管理をきつくしないほしい
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマネコのところ、対州馬も加えたい。集落でも買われてたことがあったのを聞くと、学校で大衆場に触れ合えること、土日週末どうするかを考える。癒しにもつなげられる ・馬の世話も登録制で、ボランティアでもふれあい、お世話ができるしくみができたらいい ・ビジョン案、国境の豊かな自然と交流により の部分を膨らませたらいい。 ・学校教育、子供たちがもっとのびのびと個性豊かに特色ある学校になると、対馬に移住したい家族も増えると思う。 ・教育現場では、人づくりのワードを入れられたと考える。小さいときから地域を、対馬を好きで育つ子供たちがいることが素敵。対馬が好きだから戻ってきたい子供が増えたらと思う。仕掛けとして、ふるさと教育がやられているが、先生方も地域の名人、暮らしの名人とのつながりを学校でつくること、コーディネータ的な方がいれば進められると思う。 ・のびのびと子供たちに育ててほしい
E	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と賑わいのバランスが難しい。対馬にしかないことを打ち出す ・子どもたちからお店が少ない意見、無印とか島村とか、担い手がいない問題もあるので、今の既存の商店の事業承継、地元の天ぷら屋さんも残してほしい。 ・子どもたち、8割は出ていくが、子育て環境は上対馬は良いはず。治安が良い、病院は不安だが、帰ってくる子供たちのための環境づくり、チャレンジできる環境をつくること ・海士町ないものはない、連携することもできる ・国境マラソンのコースを循環する交通手段があるといい。 ・イベントに力を入れる、野外ふえすなども ・上対馬、国境に近いことが強みである。観光客だけでなく、地元に住む人がいないと事業は難しくなるので、済みやすいまちを維持しながら、安心してチャレンジできる環境をつくることをビジョンに入れていきたい。

【作業部会、具体事業の掘り下げについて】

グループ	内容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家活用、公共交通 ・空き家活用については、ゲストハウスが北部に少ないことが挙げられる。上対馬高校に当たらないコースが出るときに、生徒が住むところがない、新たに箱モノを立てるのは難しいので、空き家の活用ができれば。 ・北部にジビエの解体施設、豊の学校の大きな施設で、体育館を使ったスポーツ合宿、佐護では活用されているが ・公共交通については、タクシー会社、夜も特に少ないので、ライドシェアを進めたい ・スクールバスの活用も便数をもっと増えないと。一般市民も利用しやすい仕組み、自動運転などの新しい技術導入も必要になってくると考える。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・国際ターミナル周辺で、一回バス駐車場、2回以上にお店が入るのを考える部会を考える。残ってほしい地元のお店が入ってもらうこと、コミュニティカフェ、プリクラで学生が集まれる。商業施設をつくること。高校生のバイ

	<p>ともできるようにする、韓国の人との交流、卒業後の働き方も考えられる、バイターン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジビエの部会を上対馬県でつくる。北部ではいのしししかを埋設、活用できないことが多い。 ・そば道場でもジビエ使えるのではないか ・どこでも仕事ができる人、ノマドが働ける場、アイデアも導入できる ・地元の伝統文化を広める会、ダンス教室を運営しているが、アイゴ連もあり、太鼓とダンスの融合はできないか、子供たちのアンケートでも北部対馬ならではの伝統文化の話が子供たちから出て売るのは貴重、広く関心ある方を集めて、どんなイベントで、国境マラソンウィーク、前後で楽しんでもらえる時期、国境マラソンウィーク部会もあると思う。そこでお店を出したい事業者が担う部分も出てくると思う。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通について、高齢者の足の確保が難しい。例えば今ある循環バス、病院、比田勝ターミナルの本数を増やす、公共交通でなくても循環交通ができないか。上対馬県観光地をめぐるといったコースがあるといい。観光地に詳しい方、ガイド役割を担いながら事業展開できないか。 ・既存の施設の集約化、そば道場に図書館を併設するような、複合化の検討がしたい。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、不動産、移住者の空き家探しはニーズあり。空き家バンクはあるが、使い勝手がよくない部分もある。だれに聞けばよいか、情報を整理することもできる。協力者は出てくるとお能が、民間になると核になる人を作るのが課題。 ・公共交通機関は、現状のやり方では難しい。ライドシェアのような手法を使うこと、現状では車に乗せて金をとる、法の整備など運転手の安全面の評価ができる仕組みがあるとできると思う。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・事業としても空き家を活かすことができる。問題は仏壇があること、資材を捨てること、これらをクリアすると今新築を立てるのは大変なので、改修は現実的。 ・不動産がない、物件を探している人は多く、必要 ・雨の日の遊び場、子供たちへの場所の提供。安心して過ごせる。韓国人もそう。学校を改修して実施できるか ・水耕栽培なども学校施設を利用してできるのではないか ・国際ターミナルの埋め立てを進めて駐車場を増やすこと、 ・市の規制緩和、公務員の土日の時間を使って、会社でも副業の規定を見直す。日曜日の保育所などの担い手解消になるといい

5 ヒアリング調査

(1) 事業者ヒアリング

日付	実施先	調査者	場所
9/11 (水)	株式会社ティースリー 対馬みうだペンション オーナー 比田勝 孝史 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	対馬みうだペンション
	MADO 宮城 佳奈 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	MADO
	築城 慎一 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	島めし家 北斗
9/12 (木)	観光物産協会西 護 氏 永留 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	観光物産協会
	大野 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	
	地域づくり課有江 氏	MIT 吉野 LB 山内(佳)	市役所別館第 2
9/13 (金)	橘田 氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	MIT
	(株)島の宝 朴 氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	MIT
	今村商店 今村 純一 氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	今村商店
	細井 氏 藤原 氏 築城 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	古里
9/14 (土)	株式会社タケスエ 武末 聖子 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	タケスエ
	武末 祥人 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	MADO
	小林 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	久兵衛商店
9/15 (日)	フラットアワー 錢本 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	フラットアワー
	協働隊 荒井 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	空港ロビー
	協働隊 釜坂 氏	MIT 吉野 LB 齋藤	空港ロビー
9/16 (月)	ちろもの宿/小川工務店関係者 (元島 おこし協働隊) 小川香織氏	MIT 吉野	MIT
10/2 (水)	理研ハウス DAEMADO ホテル 中村 氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	DAEMADO ホテル
	古場さん	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	つしまカフェ

交通についての意見

- 不足する交通を補完して満足度を高められるサービスが欲しい。配車アプリがあったら良い。（宿泊事業者）
- 宿泊者への無料送迎サービスは行っているが、個人が自由に動くために使うタクシーが足りていない。夜間と、昼の韓国からの船便到着の時間に特に必要になる。（宿泊事業者）
- 佐須奈方面はアクセスが悪い。（飲食事業者）
- 自転車に乗っている韓国人を多く見かけるが、交通手段が無くて自転車を選んでいるのではなく、自転車に乗ることそのものを楽しんでいる。韓国では自転車に乗ることが少なく、勉強や仕事为中心で遊ぶ経験が乏しいため、日本に来て解放している。（飲食事業者）

交通についての意見

- 利用実績は少ないかもしれないが、予約制の周遊タクシーがある。（対馬市としては、「ライドシェア」が一番可能性があるのではないか。）（飲食事業者）
- こんどろバスは上手く運営されていると思うため、こんどろバスを韓国人観光客が利用しやすくできないか。（飲食事業者）
- ドライバーの高齢化への対応が必要。（観光事業者）
- 上対馬は利用実績は少ないかもしれないが、予約制の周遊タクシーがある。（観光事業者）
- 自家用車の相乗りサービスは対馬で成り立つかもしれない。ヨーロッパにBlaBlaCarというサービスがある。1席ずつ同乗者を募ることができ、同乗希望する人はオンラインで予約可能。（観光事業者）

交通についての意見

- 10時〜と、15〜16時にニーズが集中する。その時間帯以外は交通事業者も人手に空きがあるのではないか。（交通事業者）
- バスが通る場所しか行けない。その解決策として、レンタサイクルの拡充が必要。糸島では行政単位で10〜100台自転車を借りていて、自転車専用レーンを整備している。行政が厳原も上対馬も自転車を整備し、対馬一周できるような形にできないか。（宿泊事業者）

施設活用についての意見

- 物件情報は人づてに聞くことが多い。空き家バンクなのか、網羅的に情報を把握している窓口があると良い。（宿泊事業者）
- 古民家を使いたい人と貸したい人をマッチングすることは、韓国人には合わない。韓国人は現代的な建物を好むため、古い古民家のニーズが少ない。（飲食事業者）
- 佐護や舟志などは古民家があるだろうが、荷物や仏壇がネックになって貸しにくいことが多い。風が通らず老朽化していく状況にある。（飲食事業者）
- 巷には仏壇の引き取りシステムや、ロッカーのような遺骨管理システムはあるが……。 （観光事業者）
- 壱岐は民間工務店 + デザイナー（+市の担当）のグループで移住者に空き家を提供している。（商工事業者）

施設活用についての意見

- 対馬だったら野外フェスなどできそう。そういったものができれば遊休施設も活用できるのではないか。ただし、韓国人は地元の人が教えてあげないと何も知らない。地図に書いても見ないため、こういう場所がありますよと情報を教えたら、旅行会社もほぼ無料で使えるということがわかれば、儲かるために使ってくれる。（飲食事業者）
- 韓国のスポーツ団体を対馬に誘致して、合宿や練習拠点にしては、という話もある。済州島は暖かいから選ばれるが、済州島は吹雪が凄いい。対馬の方は雪が降らない。野球場やテニス場もあるので使える。市役所隣のイベントホール（500人収容）も年に1回しか使われない。埋めるような施策を旅行会社と話し合っ、て、どういった形でやるのか話し合っている。一事業者と行政が話し合うよりは、行政同士＋事業者で話し合っ、てはどうか。（飲食事業者）

人材・働き方についての意見

- 10～20年後を考えるときに、国全体の状況を考えて設定していいと思う。人口の全体が減り、外国人が増えることを前提とした検討が必要だと思う。（水産事業者）
- 第三者への事業承継も進めて行かないといけない。人材バンクのような、長崎県のセンターがある。継げることなら第三者でもという人はいる。（商工事業者）
- 若い人が中心となった社会づくり、若い人が集まってくれる街になった方がよい。中学生・高校生が対馬で働きたいと思える、島外からの学生が来れる何かがあれば。勉強は、対馬独特の海や自然の勉強ができて、就職までできるように。研究ができるようになり、空き家を改修して、航路が増えてという好循環につながるとよい。（商工事業者）

人材・働き方についての意見

- 地域の行事が守れない。今後若い世代がいなくて大変になる。（観光事業者）
- 漁業者は地域存続に重要な役割を持つ必要な存在。（水産事業者）
- 漁業者の兼業は考えにくい。漁業者は魚を取ることに専念すべきと考える。販売は漁協や他の方に任せていいと思う。魚が獲れなくなった地域で6次化がすすめられたらと思っている。漁師は漁獲に誇りを持つべき。（水産事業者）
- 夜間や土日に働く人が居ない。（交通事業者）

人材・働き方についての意見

- 10～20年後を考えると、国全体の状況を考えて設定していいと思う。人口の全体が減り、外国人が増えることを前提とした検討が必要だと思う。（水産事業者）
- 第三者への事業承継も進めて行かないといけない。人材バンクのような、長崎県のセンターがある。継げることなら第三者でもという人はいる。（商工事業者）
- 若い人が中心となった社会づくり、若い人が集まってくれる街になった方が良い。中学生・高校生が対馬で働きたいと思える、島外からの学生が来れる何かがあれば。勉強は、対馬独特の海や自然の勉強ができて、就職までできるように。研究ができるようになり、空き家を改修して、航路が増えてという好循環につながると良い。（商工事業者）

観光についての意見

- 入島税や宿泊税の導入は良いと考えるが、それに見合うおもてなしが必要。（宿泊事業者）
- 観光地でありながら現金しか使えない。巖原も比田勝もそれを変えようとならないのが課題。必要ないという認識を変えるには、行政がどう入ってもらうか。基本的な部分から取り組んでほしい。（観光事業者）
- ごみの問題がある。船会社が資金を出してゴミ袋や灰皿を無料でお客さんに配布したり、観光地にゴミ箱を無償で設置するので回収してくれないかということをして市に打診したが、返事が来ない。対話の場を増やしていきたい。（観光事業者）
- 対馬には壱岐や五島と違う売りがある。交流する場があれば、比田勝に留まらず、佐須奈に行ったり、足を伸ばして滞在してもらえる。（飲食事業者）

観光についての意見

- 三宇田浜は良いところだが、子どもの遊具など、遊ぶスペースをつくってほしい。木にブランコつけるなど、観光名所にもなる。こどもを車に乗せたり降ろしたりするのが大変なので、一か所で遊べると助かる。波が高くなったら海で遊ぶのをやめて遊具で遊ばせる選択肢ができる。（観光事業者）
- 三宇田浜はTSUSHIMAやMIUDAと書いてある場所が必要。写真撮る場所がない。韓国人は特に見た目を重視するため、観光地に映えるワンポイントがあると喜ばれる。（観光事業者）
- 対馬は国境の島なので、日韓は大切。しかし、現状は韓国人のリピートは少なく、長期滞在が難しい。漁家民泊は韓国人にもウケが良い。また、島っ子留学のようなものが韓国のトレンドであり、流れが変わってきている。何も変わらない田舎に期待が高まっている。（飲食事業者）

観光についての意見

- トイレが不衛生だという不満が多いが、公衆トイレばかり増やすのはリスキー。トイレは有料施設にくっつけて全体数を減らすべき。維持管理のコストも下げられる。（観光事業者）
- 韓国はそばが人気で、済州に行ってもそば屋がある。韓国人にとっては魅力的なのに、ただ見て買い物して帰るだけになっている状況はもったいない。（飲食事業者）
- 今は正直裕福ではない韓国人が来ている。ランチは1100円で提供しているが、3000~4000円で刺身を盛り付けてくれというお客さんもいる。IT会社の社長など、パチンコするために来て、ある程度お金を持っているのに使う場所が無いからカップ麺やタケスエで買って帰る人もいる。提供する側の供給が足りていない。お金出せば豪華なものが食べられるという選択肢（海鮮丼など）があれば。（宿泊事業者）

観光についての意見

- 対馬のイメージは魚なので、鮮魚の仕入れは毎日発生しないが、BBQやランチなどの予約が入ったときや日本人団体が入ったときに、対応できる調達先があると良い。（宿泊事業者）
- 親近感やつながりを生むこと。対馬での経験を通じて日本への印象や見方が変わることを期待したい。（観光事業者）
- 未利用の漁港をセーリングやヨットの観光ハーバーとして整備してはどうか。富裕層をターゲットに、自分の船で訪れやすく、停泊しやすい環境を整える。例えば、おしゃれなレストランを併設し、ヤシの木を植えるなどして演出すれば、富裕層に魅力的な滞在先としてアピールできる。候補地としては、大浦周辺や、鰐浦が考えられそう。（観光事業者）

教育についての意見

- 堂々と対馬出身と言えるようになっていくことを目指したい。今の子どもたちは対馬のことが好きな子が多い。（水産事業者）
- 根幹は教育。都会的な偏差値主義の価値観には抗えないのか。対馬に置いて、偏差値の高さではなく、島で高収入になる教育の方が重要ではないか。（水産事業者）

その他についての意見

- コンパクトシティは実現できないか。比田勝は車を一か所に駐車して、図書館（今は土日空いていない）、役場、こども園、小学校など施設を集約すると、歩く動きが生まれる。徒歩圏内にすれば、ビジネス参入できそうな場所が作れる。（観光事業者）
- 韓国人は勢いがあるが、無理と思ったら撤退も早い。コロナで多くが撤退した。今対馬にいる韓国人の多くは、ずっと対馬に居続ける人。（観光事業者）

(2) 議員ヒアリング

令和6年度（仮称）北部対馬アクションプラン策定業務委託
議員ヒアリング調査実施リスト

日付	時間	実施先	調査者	場所	頁
12/16(月)	8時30分～ 8時45分	糸瀬 雅之 氏	MIT 吉野	電話ヒアリング	2
12/18(水)	10時00分～ 11時25分	坂本 充弘氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	上対馬振興部 2階	2
	14時00分～ 15時45分	脇本 啓喜氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	上対馬振興部 2階	4
12/19(木)	13時00分～ 14時20分	春田 新一氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	上対馬振興部 2階	5
12/20(金)	10時00分～ 11時00分	島居 真吾氏	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)	MIT	9

議員ヒアリング調査結果

実施先	糸瀬 雅之 氏	調査者	MIT 吉野
日時	令和6年12月16日(月) 8時30分～8時45分	場所	電話ヒアリング
主なヒアリング調査項目			
<ul style="list-style-type: none"> ・上対馬の計画は10年前に作っていたのにその後の評価・改善をしていないで、また新しい計画を作るのはおかしいのでは。それだったら作ったことのない上県のアクションプランを作って欲しい。 ・計画を作っても予算がないからできないことが多い。むしろ予算を用意してもらった上で、その範囲で計画を作るのが本来ではないか。例えば3億円を上県の振興に使えるからどんなことをやるかの計画を作るという流れ。 ・委員の選定方法に疑問がある。上県の地元女性や地域の人がほとんど入っていない。上県の商工会の女性部とか佐護・仁田の女性などにも話を聞いて欲しい。「女性議会」や「子ども議会」等を開催して意見を出してもらってはどうか。同様に、若者の意見を聞いて欲しい。 ・新しいことをやるよりも今ある資源（馬事公園、棹崎公園、千俵薪山など）を観光地・地域の集まる場としてしっかり整備して欲しい。千俵薪山は、道が悪いし、頂上に休憩所やトイレが欲しい。 ・佐護の廃校の活用はうまくいっていないようだが、経営が悪いのか、人を呼び込めていないよう。補助金を使うだけでなく、行政が主体に事業として予算をつけて整備を進めていくべき。 			

実施先	坂本 充弘氏	調査者	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)
日時	令和6年12月18日(水) 10時00分～11時25分	場所	上対馬振興部2階
主なヒアリング調査項目			
<p>■ 漁業・水産業の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根本的には人口減少が最も深刻な課題である。20歳過ぎに漁協に入ったが、その頃の上対馬漁協は非常に働き盛りが多く、60歳くらいの方は引退していた。現在は死ぬまで現役で働くようになった。 ・ 漁協は現実的には統廃合していかないと人がいない。 ・ 一本釣りをする人が減少している。不漁や時化が長く続くと漁業経営が厳しいという危機がある。今漁業をしている父親は子どもに継がせたいと考えていない。 ・ 高学歴にして福岡に送り込む教育スタイルになっている。「勉強をして学歴がある人材は対馬で働くにはもったいない」という価値観になった。 ・ 昆布は少なくなったが、根付資源の資源回復も努力していかないといけない。漁協では磯焼け対策に取り組んでいるがイスズミが本当に増えて厄介。 ・ 海業は初めての計画で、まだまだ今から。漁業の担い手がいるこの10年くらいの間での取組が重要。 ・ 上対馬漁協の水揚げする岸壁が一番古くなっている。県のほうにも陳情して漁協の前のエプロンが3m程度しかない。6mくらいにすれば急傾斜が緩やかになって荷捌きが楽になると思っている。イカ釣り船が年間4～5億くらいあり、ようやく20億に到達。組合員の水揚げが23億くらいのうちの地元が18億程度私のころはあった。 ・ アカムツ、アマダイにしても、タチウオにしても、ブランド魚なので売れる専門店がある。特大のアマダイが築地にいたが、今は豊洲に移転。特大が水揚げされたら空輸している。 ・ ただ、アカムツが少なくなったと聞いている。それでも値段は高くつくが。あまり獲りすぎると減ってしまう懸念ある。 <p>■ 交通の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船の往来はもちろんのこと、移動手段が自動車しかなく、まだまだ国道も含めて道路が整備されていない。私は道路のことばかり言っている。若い人は運転しても楽しくない。ドライブして楽しく。 ・ 国道。県に行ったときに国道整備の陳情はしている。国交省の先生に言って、対馬の道路整備を少しでも早く。国道整備の計画は大体あって、部分改修をやり続けている。10年前の計画を今実行している感じで遅い。 ・ 昭和57～58年くらいに対馬の国道2車線化を10年以内に実現してみせるといったが、もう50年経過している。まだまだ。 ・ 琴の道路河川トンネルを掘る予算がない。琴の予算がつかない。 <p>■ 教育・働き方改革・生活利便について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGs実践塾大学や企業から。受け皿づくりが課題。 ・ 兼業や副業も柔軟に。 			

- ・高齢者は病院と買い物に行く足がない。
- ・自衛隊が購入してくれる。訓練の滞在場所。浅海中学校。ただし豊の学校については施設が新しい。
- ・漁業は座学というよりは実践。後継者の教育に関しても漁業者から勉強させて指導している。漁業も厳しい。中途半端な気持ちで教えられない。
- ・千葉県柏市に組合職員を養成する学校がある。2階が教室、3～4階が寮。
- ・若い看護師さんがいない。いまは理想の職業ではなくなっている。介護もしないといけない。
- ・子育てでお金がかからない状況をつくっていかないと。
- ・国の補助でいろいろ8割がたやっている状況。予算の出どころが違うので柔軟に流用できない。独自策を打っていくのはできるが、交付税を受けても工事が遅れたりする。
- ・交付税の予算を増やしてもらうことはできる。
- ・H29～なので、R9年3月まで。国境離島振興の継続と、それ以上に予算を増やしてもらうお願いをして陳情書を携えていっている。無いと運賃が倍になる。本土から来るには今でも高い。

■観光について

- ・国会議員にも陳情し、昨年か一昨年か、韓国航路の混乗便が現実になったが、コロナで元に戻ってしまったことが残念。
- ・日韓関係が悪いときは大変。野党が政権をとるようになるとまた交流がなくなる。個人的に韓国の方と付き合いがある人もいるが、なんで行くんだといわれて交流がなくなる。
- ・魅力が味わえる場所を作る。遊園地でもいいし、若者が好きそうな場所があるかと言われたら何と答えてよいかわからない。韓国展望台は冬場が見えやすく、毎日見えるわけではない。

■自衛隊との連携について

- ・自衛隊が部隊編成を変える。国防上大事な島、国境の島だから。航空自衛隊の宿舎は豊にある。巖原は団地がある。陸上自衛隊増強のためには、訓練できる場所の拡充が必要。山の中で訓練。
- ・自衛官に猪鹿の対策してもらうのはできないか。

■その他

- ・女性にやさしい地域に。選挙が大変なので、理解してくれる夫がいないと立候補できない。

実施先	脇本 啓喜氏	調査者	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)
日時	令和6年12月18日(水) 14時00分～15時45分	場所	上対馬振興部2階
主なヒアリング調査項目			

■アクションプランの考え方について

- ・人口減少対策が本当に対馬の最重要課題なのか疑問。人口減少抑制はしなければならないが、減少していても住み続けられる島にすることに組み込んでいくことが重要（戦略的な撤退）。
- ・部設置条例について、DXの推進は何のためにしているか質問した時に、事務の効率化が図られて浮いた人材や時間を振興局や行政センターに配置して現場で働く人を増やすと答えたのに、それに逆行している。
- ・自然災害の激甚化に対して、担い手の課題がある。ほぼ全ての人が消防と北部建設事務所に入っており、災害が発生すると現場を見回って、ある程度早期に全体の被害状況把握ができています。人口が減少したらどうするのか、市役所の都合ではなく地域力を高めることを考えなければならない。アクションプランをしている人からも北部建設事務所を厳原に移動することに反対する声を上げてほしい。
- ・作業部会は自由な発想でゼロから始めてもよいのでは。対馬の将来のことを考えましようといってもハードルが高い。子育てのことについて話し合おう。文句がある人来てくださいますら来てくれるんじゃないか。細かくテーマを分けないと。こども園の行事があるときにヒアリングする。議員のこれまで吸い上げた意見を共有してほしい。杵岐のほうが、すぐ民間団体がすぐ立ち上がる。
- ・計画は毎年最低1回見直しを行い、見直したことについてもフィードバックしていただきたい。

■防災について

- ・自主防災組織化は人材がいらないから難しい。互助が効くような、どこが避難所なのか話す場が必要。AIやSNSを使えないお年寄りがいるため、避難所など集落で話をしていく必要がある。
- ・難民対策は、絵空事ではなく本当に考えておかないといけない。能登半島地震を見るとフェリーもつけない。本土も相当な被害がある中で、3日もストップしたらスーパーからモノがなくなる。農業も然り。非常食になるようなものをストックして、非常食を食べる日を作って非常食の循環を。浅海中学校のところに自衛隊を入れるのはそれもあるのでは。難民が来たら、仕切ってしまうえば隔離ができる。

■高齢者福祉について

- ・高齢者施設が本当に必要なのか。グループホームはつくったが、余っていくのでは。

■観光について

- ・富裕層向け観光は良いとは思いますが、カミソウなど立て直すには資材コストなど高騰しており採算が合わない。内装どころか食器から何かからしないといけない。富裕層向けにはやりたいが、難しい。

■雇用・担い手について

- ・経済的な豊かさの追求よりも、「お金がなくても幸せだと感じられればそれで良い」という環境づくり。昔からのおすそ分け文化など残っている。「本土並み」とよく言われるが正当な基準とは思わない。
- ・手当はしたほうが良い。福岡で出産する娘がいるときに、お母さんたちが泊まれる部屋を1~2増やして、ホテルに1週間付き添いの人も含めて泊まれるようにと提案している。

- ・不利益を受け入れてもらうために、納得してもらわないとしこりが残る。不利益を被る人に何らかの手当をする。
- ・公務員が民間に入っていくこと。出向は国や県にはいくことはあるが、民間へはあまりない。地域おこし起業人をもっとふやすのも手。
- ・行政がどうやって金を稼ぐかの提案をしてもらうのもよい。入域税は、九州郵船と飛行機でしか対馬に来ないから市長が提案して議会で可決されればとおる。

■公共施設の活用について

- ・公共施設のマネジメントにしたって、集約していかないといけない。これからの課題は、北部対馬だけではないが不利益を受け入れてもらうことを恐れずに市民に言って、市民も理解をすること。将来の子供たちのことを考えれば、それを受け入れてもらう必要があって、良いことばかりではなくて、最終的には良いことのために今は痛みを伴って不利益を被ることを受け入れていく。

実施先	春田 新一氏	調査者	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)
日時	令和6年12月19日(木) 13時00分～14時20分	場所	上対馬振興部 2階

主なヒアリング調査項目

■北部対馬各地域の現状について

- ・北部対馬といっても範囲が広く、集落の中にいろんな職業がある。上対馬の場合、漁業集落はなんとかやっけていける。しかし上県に行けば、佐護辺りはやはり農業が厳しい時代であって、なかなかマッチングができないような状況。仁田は建設業がある程度基盤を作っている。佐須奈ではこれまで公務員はいたが、宿舍が無くなっていくという現状からすると人口減少はどうしても止めることができないというのがこの北部の現状だろうと思う。上対馬だけなら何とかうまく計画がまとめられるような感じがするが、上県もとなると難しい。
- ・北部対馬アクションプランは素晴らしい。本当は早く着手しておかなければいけなかったのだが、中対馬が今順調に進んでいるため、上対馬もそれに負けず劣らず取り組んでいかなければならない。中対馬アクションプランでは神話の里、仁井を中心に取り組んでいる。中対馬は、中対馬振興部の本庁があるため人の出入りが多く、上対馬振興部の倍くらいの人数がおり、商店街もかなり弁当が売れている。役場も人が動くので人口はそれほど急激に減っているわけではない。
- ・小鹿、舟志、大増など東側が手薄な気がする。佐護は平地があるので担い手が確保できれば田んぼはまだまだいけるが、東側のこのような地域。佐護も青年が結婚しておらず、40代独身が多い。シャイな気質。そのため、人口が減る時にはもっと減る。

■漁業・水産業について

- ・やはり漁業が重要。漁業を何とかこれから維持していくために、様々な施策を打っていかなくてはならない。やはり漁業が衰退すれば人口が激減するため、最も重要だと考えている。漁業と観光を結び付けていけば、比田勝は、厳原、美津島に次ぐ町としての存在感を持てると思うが、なかなか韓国人観光客の取りあいであり、難しいところ。政治的な問題が韓国は多くあるため、いつどうなるか分からないという現状を踏まえなが

ら、「できる時に稼いでおく」という形で現状やっているのではないかと思う。そのため、韓国との関係が厳しくなれば、行政も厳しい。

- ・東側の漁業集落は高齢化しており、琴などは漁師はいるものの高級な魚やブランド化する魚を獲る人が少なく2～3人程度だと思う。琴は組合員18人、准組合員が29人で計47名は漁業の担い手がいる。
- ・上対馬漁協との統合は早くしたら良いと思うが、諸々お互いに貸し借りの問題があるのでは。なかなか先に進まない現状がある。
- ・上対馬は390名、上県は290名。平均が67才。ほとんどの地域の平均年齢は60才以上。20年後は本当に漁師がいなくなる。漁業は地道にやっついていかななくてはならないが、高齢が多く急激な人口減少が起きてくるため、行政としても難しい。

■若者の定着について

- ・若い人を地域に残そうと思ったら、思い切った施策を打たなければ、もう若者は途切れてしまう。いま福岡にいる対馬出身者は10万人ほどいるという。強制送還などするくらい、大きな施策を考えないと、地域おこし協力隊に頼んでいるようではもう先がない。
- ・変わった移住者や、地域を応援してくれる人が来てくれる地域を作っていくことが一番大事だと思う。
- ・漁業や建設業は1社に6人などインドネシアやフィリピンなどから外国人労働者を雇用している。彼らの住居は補助金で建てている。空き家も利用している。交通手段はバスと自転車。県が人材を斡旋している。
- ・韓国からの移住者は多くない。韓国が日本や対馬を嫌っていて交流があまりないため、韓国人はあまり対馬に住み着いていない。
- ・琴の空き家は数件、本土からの移住者がある。古里のパン屋さんも琴にいる。

■子どもの教育環境について

- ・文科省としても様々な制約があって、なかなか対馬にあった制約ではないため、先生方も大変苦労しているところ。また、学校の制約に対して、地域が応援できなくなってきたということが、子どもたちや大人が誇りを持ってないということが起きている。地域で遊ぶ子どももいなくなり、夫婦共働きだから子どもは下校すればゲームだけをするような子が多くなってきた。それで対馬に残って頑張ってくれと言っても難しい。その地域で遊んだこともないという実情だから。
- ・やはり都会派になっている。そのため、北部対馬アクションプランとしては、学校側とも協議して計画していかなければならない。
- ・子供の数が昔は多かったから、スポーツで遊ぶ子供、山で遊ぶ子供がいた。今は、子どもが少ないなりに、先生方と地域が知恵を出し合って教育することが重要。
- ・対馬も不登校といじめが多い。いじめも見えないので先生が全てを把握できない。完全な不登校は比田勝中学校においては1～2人しかいないが、週に2～3回しか登校しない子供が数名いる。学校に行かなくても義務教育のため卒業している。
- ・コミュニティスクールを導入しても学校の組織の中にあるだけとなってしまう、あまり変わらない。コミュニティスクールをつくることから良い人材やリーダーがいなければ機能しない。
- ・やはり子どもを動かすということは制限がかかるため難しい。いつでも活動できるわけではない。

- ・仁田小中学校も令和7年から保護者への説明会が始まり、統合しなければならず、また学校が減る。放課後はオンラインなど駆使してデジタル化したり、子ども食堂をしたりといった取り組みも大事かもしれない。
- ・上対馬高校は人が減って、専門分野がない。下宿をしたくない子どもは上対馬高校に通う。大学がないから島外にでるが、フリースクールを豊小に誘致するなど考えられる。
- ・子供のうちに対馬の自然の豊かさを知って出ていかないと、知らずに終わる。魚をとる体験、藻場を再生するなど体験してほしい。
- ・海を守るためには、行政側や県が予算を継続してくれることが重要。国の予算だけでなく、県の予算も、大きな予算をつけてくれないと海を守ることができないと話した。本当に島を守るならもうそういうことしかないですよと話した。今は国境離島振興を継続してやっていこうというだけの国からの予算。そうではなく、県が独自でこの島にはこれをさせて、ここに予算をあげるということを考えてもらわないといけない。

■高齢者の交流について

- ・高齢者に関しては、家に閉じこもるのではなく、誰かが指揮をとって、寄り集まってゲームをするなどが重要。交流機会を増やし、老人ホームに行くのを長引かせたい。
- ・共同生活は合う・合わないがある。あの人に来るなら私は行かないという人もいる。
- ・今は西泊と古里で10人くらい集まってグランドゴルフしたり、公民館で遊んだり、持ち寄り料理を作るなどやっている。1年に1回、2～3地域で集まって一緒に何かすると、高齢者も安心して行けるし、老人ホームに行くのを長引かせられる。集まれば、買い物に連れていくなど、助け合いのきっかけになる話もできる。

■観光について

- ・観光客については韓国政治家の中でどうなるかわからないが、現在は繁盛しているのでは。応援してあげないといけないから、北部対馬アクションプランにおいて観光は重要なこと。
- ・国の動向が変わると船もストップする。航路が定期航路ではなく、観光船なので、政府から力がかかると止めなければならない。なおかつ、また再開するのが難しい。
- ・三宇田浜は観光客が遊べる場所になっている。現在は茂木浜も気に入った人が結構おられる。
- ・南陽中は茂木浜に近く、移住者がいれば活用も見えてくるのでは。今は、人口がおらず町が寂れているためアクションが起きないが、10人15人集まれば利活用の提案も生まれてくると思う。茂木浜など、ごみごみとした所から離れて、いつでも昼寝をしたり、起きて仕事に行ったり、魚釣りしたりするような場所が、都会で疲れてしまった人には必要。

■洋上風力について

- ・話は先に進まなそうだが、現在2年目くらいで、調査のために国から4億ほど入っていた。2年間は反対があって予算を使わなかったためそのままプールしておいて、現在は鰯浦あたりを調査しているところ。
- ・売電が難しいため、誰も手を出す人がいない。韓国に送電することも難しい。かといって、規模が小さければ事業者が儲からない。
- ・五島の視察に2度行った。五島では洋上風力の下に魚がたくさんおりそこで漁をしている。五島は動きが早い。やはりトップの力か。

■交通について

- ・バスについては、県から補助が出ており、市も年間2億予算を出している。対馬交通の便数を増やすとなると対馬交通自体がお金を出さないといけなくなる。
- ・自家用車有償は何とかできれば一番良いが、これがまた様々な制約がある。白タクはお金を払わなければよいので、地域通貨やクーポン券を配るのは問題ないかもしれない。

■動ける仕組み（ヒト）について

- ・北部対馬でみんなが協力し合える形になることが重要。ある人は賛成、ある人は反対という状況では、なかなか前に進むことが難しい。委員の構成が偏ると、反対意見が足を引っ張る。そのため、委員は平均的にバランスをとり、そこで多様な意見交換をする場とする方が望ましいという意見が出ていた。商工会や観光物産協会などの事業者、商売をしている人は観光客にどんどん来てもらいたいと考える一方で、生活への影響を懸念して観光客を歓迎しない人もいる。その両者がうまく結びついていくことが重要。
- ・女性の意見も大事。前野真美さんは能力的に長けており、地域の方々よりも俯瞰して考えを持っている。そのため、下に何人か付けば、リーダー的に立ち回れる話があると思う。

■住宅について

- ・美津島に大々的な市営アパートが病院跡にできる予定がある。200世帯くらいか。高齢者は1階に入ってもらい、コンパクト化していこうという方針。1年に4億ずつかけて、6年で24億の計画。土地は長崎県から買っている。公園や高齢者が集う場所を作ったりする。基本的には2階建てでエレベーターが必要ない構造にする。10階建てほどの高層の方が良いという議員もなかにはいるが、それは対馬にとって面白くない。
- ・美津島には古い市営住宅があり耐震もできていないため、新しい市営アパートに移るような形。そのため美津島に人口が増えるわけではない。
- ・アパートの方が管理の手間が少なく、寒くないため、アパートであれば住みたいという人は多いはず。北部対馬アクションプランにもアパートを提案しても良いのではないか。場所は、病院ができるので網代が良いか。

実施先	島居 真吾氏	調査者	MIT 吉野 LB 齋藤 山内(佳)
日時	令和6年12月20日(金) 10時00分～11時00分	場所	MIT
主なヒアリング調査項目			
<p>■森づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海づくりの前に森づくりに取り組まなければならない。魚、アワビ、サザエがいなくなったのは、全て海からの栄養がなくなったから。 ・市としては森林環境譲与税が今年度1億数千万あるため、森づくりに携わる団体に投入すれば良いと考える。 ・地主が高齢化しており森林の手入れができない。また、材木を売った次はどのような補助金がもらえるのか分からないという現状がある。できれば地主を探して補助金のメニューを説明して活かしてもらいたい。 <p>■廃校活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃校になった後に教員住宅が余っているため、教員住宅を活用してもらえると一番良いが。豊はきれい。全島的に校舎や教員住宅が使える。 ・一番伝えたいのは、廃校の校舎できのご栽培をしてほしい。きくらげ、しいたけなど、菌床栽培は冷暖房の整備とカーテンで暗くできれば年間を通じてできる。これが一番活性化になるのではないか。 ・廃校の活用は全島的に情報発信の整理をして使いたい人に届けるのが良い。 <p>■自然環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海にはゴミもあるし、海藻が無く、山肌は土が見えて、対馬は自然環境が豊かなので来てくださいと言いきれなくなった。人間のせいで自然が荒れているので、人間の手で再生できるはず。 <p>■観光について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国に頼った観光をしていたらだめ。政権が変われば韓国から客がこない。やはり国内の人に魅力のある対馬市を知ってもらわないといけない。 ・壱岐まで5,000円で行けるのに、対馬まで12,000円かかるのであれば、魅力があっても対馬までなかなか来ない。 ・よその人に北部対馬に来てくださいと言えるような誇れる資源がない。 <p>■漁業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業でご飯をたべられるなら、若い人も残っていると思う。しかし、いま漁業で食べられなくなってきているため、島から出て行っている状況ではないかと思う。 ・組合員で海ごみの清掃はモア都市実施している。 <p>■韓国について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国人が空き家を買っていることに危機感を持っている。韓国が国策としてすればいくらでもお金を出すことができるし、参政権などがゆくゆくは問題になり、対馬にとって脅威になり得る。 			

- ・ 韓国人から雇われて釣りの受け入れをしている漁師もいる。韓国人の遊漁船事業者はいるが組合員にはなっていない。このままでは対馬の魚をとられるため、組合の理事会で1人500人集めようということで、遊漁船事業者を呼んで1度か2度説明をしているが、その後は全然話ができていないようだ。

■ 交通について

- ・ 高齢者の買い物や病院の足が必要。

■ 電波の問題について

- ・ 企業誘致など言いつつ、携帯の繋がらない場所がある。電波の繋がらない地域に企業が参入してこない。どこでも電波がとれるような仕組みを持っておかなければならない。

■ 教育について

- ・ 北部の子ども達で、看護学校へ行く子は多い。学校の地域で働いてしまうので、戻ってこない。対馬の学校で奨学金を出して、卒業後何年かは対馬で働いてもらう仕組みをつくったらいい。

釜山での旅行社、船会社、交流団体ヒアリング

■ 現状・課題

- 個人客の増加
- 日本は憧れの旅行先というより手軽な旅行先に変化
- 案内できる場所が少ない
- 旅行者マナーについて、情報・周知不足、異文化理解の機会が必要
- 滞在時間が少ない（韓国特有の旅行スタイル）
- 買い物での求める商品と現状とのミスマッチ
- 節約せずに食事をしたいという方は多い
- 韓国人を受け入れるコミュニティのニーズ
- レンタカーの車両不足、移動距離が長いことの問題 など

■ 可能性

- 売りにしてほしいのは釜山になくて対馬にあるもの（星空、蛍、森の中を歩くなど。海や海鮮は釜山にもある。）
- 定期的な交流イベント、航路船内での情報の改善、ガイドの育成
- 日本語学校の学生など、学生の参加プログラムの充実
- アーティストとの共同プロジェクトの実施 など

日時	対象
1/23 夜	YU MIN 氏 THE SSAN RENTACAR
<p><対馬のレンタカーの提供の状況について></p> <ul style="list-style-type: none"> • 韓国でインターネットを通じて旅行の手配や予約を行う旅行代理店を運営している。主に大阪と台湾のバスツアーを展開しており、今月は対馬でのレンタカー予約が約 700 台に達し、1,300 人が利用している。普段は 600 台前後の利用だが、今月は旧暦の正月で旅行の需要が増加しており、3 月にはさらに増えると予測している。 • 対馬のヒトツバタゴレンタカーや悠々レンタカー、今村さんのバジェットレンタカーなどと提携し、レンタカーの斡旋を行っている。そのため、仲介手数料を得ることができる。対馬ではカカオトーク（LINE のようなアプリ）を利用し、現地で問題が発生した場合の相談を受け付けている。レンタカーの会員登録者数は約 9,000 人、バスツアーの登録者数は 4,300 人であり、お客様が気になることがあれば、カカオトーク経由で連絡を受けている。 • 対馬には韓国の同業者も存在するが、レンタカーの在庫が限られているため、他の同業者との調整は難しい状況であり、連携もうまく取れていない。沖縄のレンタカーは在庫が 3,000 台あるが、対馬の場合はそれに比べて限られているため、特に週末は日帰り客が多く、利用者が増える傾向がある。その結果、車両が不足することがある。 • 提案として、地元レンタカー会社と貸出時間の細かいシフト表を共有し、返却後 1 時間内に他のお客様に貸し出すシステムを導入することが考えられる。例えば、翌日 11 時に返却した場合、その時間のまま貸し出さずにいるのは勿体ないと考えられる。 <p><韓国のライドシェアのようなものを対馬でも導入できないか？></p>	

・対馬で借りるレンタカーの代金に対して、ライドシェアの価格がどの程度になるかが重要なポイントである。タクシー会社を無視することはできず、反発があるため、今後の状況に注視する必要がある。タクシー会社も運転手が不足しているが、これは二種免許の取得や多様な規制が原因である。そのため、市民がライドシェアで運転や送迎を行うには、タクシー会社との折り合いをつける必要がある。

・韓国ではタクシー会社がライドシェアの申請を行っているが、タクシー会社の反発があり、ウーバーは韓国には導入されていない。タクシー会社は運転手の教育を行い、カカオタクシーの料金はタクシーとあまり変わらない。ただし、運転手の指名料もかかる。釜山ではタクシーが非常に多いため、予約なしで道端で拾うのが主流であるが、タクシーが捕まらない場所ではカカオタクシーを利用することが一般的である。また、地下鉄も非常に便利である。カカオタクシーには田舎まで運ぶサービスやアプリ（タバラ）があるが、市が補助を出しており、バス料金と同じように利用できるため、バスの代わりとなっている。しかし、対馬の場合、厳原から比田勝の往復に5時間かかることもあり、タクシー利用は非常に高額になり、利用が難しい状況である。

・対馬に訪れる観光客は、比田勝と厳原を結ぶ縦貫線の便数が増えることを望んでいる。ただし、さまざまな観光名所を巡りたいのでバスだけでは不十分であり、レンタカーの利用者が多くなる。ライドシェアの場合、運転手が何時まで対応してくれるかも課題である。また、比田勝と厳原間の長距離移動が可能かどうか、そしてその際の料金についても検討が必要である。2~3万円を支払って利用するのか、レンタカーを借りた方が安くなるのかが大きなポイントである。

・比田勝から大浦までのピストン送迎にはニーズがあるが、平日にそれに対応できる運転手がいるかは疑問である。以上のことから、タクシー会社の反発や料金、運転手の確保などの課題をすべて解決してから事業を始めるべきである。韓国ではタクシー料金が安く、公共事業として国の補助があり、物価も比較的低い。

・原付は事故のリスクが高いとされている。免許不要のバイク（電動キックボードなどの「特定小型原動機付自転車」）は、韓国人にとって運転に慣れていないため危険である。電動機付き自転車を利用している韓国人もいるが、上り坂と下り坂で苦勞している様子が見受けられる。

・（玖須氏）道の凸凹でカゴに入れた荷物が吹っ飛んでしまう韓国人観光客が多くいるため、何らかの対策ができないかと地元市議から問い合わせがあった。（梅野氏：市役所前の歩道の境目でそのような光景を何度も見かけた。）

<釣りのニーズ>

・釜山から対馬までの船で釣り道具を持っていくには別途料金がかかる。竿をレンタルできるサービスが必要。

・釣れる場所までどうやって連れていくか。釣具が載っている車ごとレンタルして、そのまま釣り場にいき、バックで止めて、車の中から釣るくらいのインパクトが欲しい。オート釣り場。噂になる。

・韓国には、クーラーがついている屋内の釣り堀サービスがある。バンガローの中で快適に釣りができる。

・1泊2日で釜山に旅行に行った時に、釣りに行く時間があるか。釣りをする目的で旅行にこななければいけないのが普通。対馬で釣りをさせたいのであれば、それを目的に観光客が対馬にくるように組み立てる必要がある。

・船で釣り場まで客を連れていくなら、3000-5000円/一人は高い。平日の釜山-対馬間の船賃が往復3000円（NINA）。

・帰りの船を待っている時間（2時間程度）でちょっと釣りをしてもらおうサービスがあっても利用する人はいるかどうか。2時間あるなら、店に入ってビール1本飲む方が良く思う人が多いのでは。

・比田勝の一番の問題は、ご飯を食べる場所がない。釣り客が魚を持ってきたら、捌いて海鮮丼などを提供してくれる店があったらいいかもしれない。韓国でも、テジョンデでは、海人さんの拠点で撮ってきたものを露店販売したり、食べさせる場所があり、有名な観光地になっている。

<韓国と日本の文化の違い等>

・ 韓国人と日本人は顔が似ているため、普段の暮らしや習慣の違いに戸惑い、誤解やトラブルが生じることがある。例えば、韓国ではお茶碗を持って食べる習慣がない。また、欧米の人が釜山で道端でビールを飲みながら歩くとカッコいいと思われる一方、韓国人が同じことをすると素行が悪いとみなされることがある。さらに、韓国の人が対馬に訪れた際に現地のマナーを知らないことでトラブルが発生することもある。静かな街に異質な観光客が訪れると、地元の人が不快に思う場合もあり、これは他の観光地でも共通している問題である。

・ 定期的に交流イベントを開催し、ゲームなど参加しやすい方法で対馬の文化を学んでもらうことが重要である。現在のところ、情報が十分に伝わっていないため、船のチケットに対馬での注意事項を明記するなどの工夫が必要である。船内ではやることがないため、乗船中にその内容を読んでもらうのが効果的である。

・ (玖須氏) 韓国のテレビ局で、日本の神社のマナー (知らないと恥ずかしい常識) を学べるクイズ番組があれば良いのではないかと思う。

・ 観光客は旅行先で写真を撮りたいと思っており、本物の神社に行く必要は必ずしもない。代替りの場所を別に用意して、そちらに誘導すれば良いのだ。ハウステンボスはその一例であり、行きやすい道路を整備し、商業施設 (キッチンカーなど) を併設することも有効である。

・ 最近、韓国の若者のマナーは改善されつつあるが、年配の人たちを変えるのは難しい問題である。大阪のおじさんやおばさんと同様で、アンケートも自分にメリットがない限り協力してくれない。年収 600 万円以上の層が多い釜山で、うまい棒 1 本ではアンケートに答えてもらえない。本当にそういった人々からアンケートを取りたいのであれば、目的を明確にし、回答に見合った報酬を渡すなどの対策が必要である。また、日帰りや 1~2 泊で海外旅行をしているため、単純に時間がないという事情もある。船会社と協力し、船の中でアンケートに回答してもらうのが最も効果的であると考えられる。

<その他、韓国について>

・ 韓国では Airbnb を利用して民泊を開業するためには、戸建てを所有している必要がある。集合住宅の場合、全世帯の許可が必要である。このため、タワーマンションなどが多い釜山では、民泊の運営はほぼ不可能である。

・ 地下鉄は 65 歳以上は無料で利用できる。高齢者は、さまざまな場所へのドライブのためにタクシーを利用することが一般的である。韓国には、高齢者向けの無料大学のカリキュラム (奨学金制度) が存在する。

日時	対象
1/24 9時半~	Moon Won-Kyu 氏 釜山韓日文化交流協会
<p><釜山韓日文化交流協会></p> <p>・ 創立 37 年目になるが、最初に交流したのが対馬・佐賀だと言われている。</p> <p>・ 当協会は国境マラソンのボランティア通訳の手配、釜山や周辺都市で高校生を対象とした日本語スピーチ大会があり、領事館とともに対馬の交流協会と一緒に主催として入るなどしている。</p> <p>・ 今も高校生スピーチ大会受賞者数名が対馬にホームステイや研修をしたりしている。泉の板井さんの民泊を利用。</p> <p>・ 領事館から日本国内に 7~8 日の研修で送り出している。(外務省傘下の日韓文化交流基金 という団体が事業を受けて実施、去年は地震を受けて能登半島を訪問している)。</p> <p><日本への印象の変化></p>	

・昔の韓国人は日本への憧れがあったため、「日本に行くこと自体が素晴らしい」という認識を持っていたが、今の若者は青少年の時期から肩を並べているイメージがあるため「日本と韓国は同じレベル」だと思っており、特別なものを求める。

・自然が好きな人はリピーターになるが、若者によっては、何度も行きたい場所ではないかもしれない。船で1泊2日でラーメンやとんちゃんを食べに行く等の手軽な旅行先と捉えている人もいる。

<新たな交流事業を立ち上げたい、拠点が上対馬にあると良い>

・長期的に交流や観光の面を考えるならば、上対馬に拠点があって持続的な交流ができればと考える。

・厳原に博物館や店舗などが集中している。上対馬の廃校を高校生や大学生が訪問し、宿泊ができればそれも良いが、難しければ近くの宿泊施設と連携して、廃校を拠点として地域の先生や文化人・韓国語通訳ができる方がボランティアまたはスタッフとなり、対馬でのコンテンツやプログラムを経験できれば、その拠点を中心として新たな交流事業を作ることが考えられる。

・少なくとも協会としては、廃校が利用できるのであれば、年に2回以上は活用して事業を実施したい。

・協会は日本語能力試験の受験を管理しているため、1万人程度に対馬への交流プログラムへの募集を情報発信することができる。(受験者は年間3万人で、日本に行きたい人もいる。N5~N1まで5段階あり、ほぼN1を目指して受ける。)

・会長が釜山外国語大学の元総長でほかの大学との繋がりもあるため、拠点ができれば大学に宣伝して日本語科のプログラムに組み込むことが可能。日本語科の学生は釜山地域だけでも2~3千人いるため、その学生が学校の支援を受けて対馬を訪問することが可能であれば良い交流になると考えられる。

・日本語科は日本の歴史や文学などを一般的に学ぶ学科であり、学生は対馬で日本人と話したい、日本のことを知りたいと思っているため、芸術や何かを作るなど、材料費をいただいで体験してもらうことなどができそうである。

・昔はホームステイがメインだったが、今はホームステイだけでは行くメリットがないと思う若者が多い。自分でSNSで友達を作ることができ、個人の観光で日本を自由に訪問することができるため、わざわざ交流プログラムに参加するメリットがないと考える人が多い。そのため、テーマ性のある特別な体験が1つ、2つあると参加の動機になる。

<ボランティア参加の可能性>

・日本ほど環境保全への認識が高くない。

・単にボランティア活動に参加するだけでなく、参加を通じて単位を付与したり、就職活動の際に有効な証明書を発行すること等、韓国側のサポートによって参加意欲を高めることが可能。今年度、国境マラソンのボランティア参加についても証明書を発行しようとしている。

・国が管理するシステムがあり、社団法人などは国の教育を受けて加入し計画書を出して参加者を募集、ボランティア参加者へポイントを付与することができる。結果、ボランティアは100~200時間など達成すると教育長賞などの表彰もある。

・韓国はまだまだ就職が厳しいため、ボランティアの機会を提供すると、高校生よりも大学生が動く可能性がある。

・日本で働きたいというニーズもある。しかし、最低賃金が韓国がここ数年で1万ウォンを超えた。最低賃金が月22万円くらいになる。いまは情報ネットワークも共有されているため、単にお金を稼ぐためには働きに来ないが、日本が好きだから日本に就職する。もしくは、英語や日本語が高いレベルで必要になるため、韓国側の企業に入ろうとするとハードルが高いことから、次の選択肢として日本を選ぶ。一番優秀な人は日本に留学することはあっても就職する人は少ないと考えられる。

・釜山には日本語のスタディグループがあり、700人ほど所属して毎日ソミョンのスタディルームに集まっている。毎日レベルごとに10-15人集まって、勉強している。週末は午前から勉強会が開催されていて、釜山に留学している日本人も参加して交流をしている。

「そこそこ」交流団体が運営している。リーダーが若い方で30代後半。日本との交流を促

進するネットワーク団体も作っているので、協会と連携して何かできないかと話している。

<対馬の若者コミュニティとの交流>

- 日本語を勉強しに対馬に来る際には、釜山の若者は、近い年齢の人と話したいかもしれない。対馬に行ってもお年寄りの発音が濁るため聞き取りづらい。
- 日本語を勉強している釜山のグループや大学に対馬のことを案内してもらうように声をかけるのは可能。ソウル行くより対馬行く方が安い可能性がある。平均的に往復1万円で対馬に行けるのであれば、学生も来るだろう。
- 北部対馬の韓国人を受け入れるコミュニティがあった方がよい。団体が対馬を訪れたときは、対馬の中の青年会などとの座談会など、交流する機会が欲しい。釜山から来た人に特別なことをしなくても、楽しいテーマで話せたら良い。日本人と話したいという考えをもっていても、内気で話せない人が多いため、そのような場があれば小さなグループで良いので、話し合うような企画があったら良い。

<お金を払ってでもやりたいこと、得るものがあることが重要>

- (吉野氏) 空き家のDIYなどを一緒にすることは考えられるか。→釜山から対馬へ行ったら、対馬からも来訪して相互交流してもらいたい。少なくとも参加者がお金を払ったら「なぜお金を払っているのに苦労しないといけないのか」と思うため、見返りが無いと思われぬようにプログラムを組むと良い。
- (カンジェ氏) シーカヤックをペアで漕いでみようとか、観光視点で楽しみを作るのもありでは？→アウトドアのアクティビティについての興味関心は千差万別だが、日本語を勉強する韓国人は内気な人が多い。子供の頃からアニメやゲームが好きで日本語に関心を持った人、青少年時代に趣味に没頭した人が多いためそうなる。高校時代から基礎的な会話ができている人も多い。

<アウトドアの体験について>

- 年に2~3回山に登るのは大丈夫な人もいるが、山に登りたくないという女性もいる。釜山には海水浴場が近くて日常的にみるものであるため海への憧れがなく、わざわざ海水浴場に行かなくても良いと思う人が多い。
- (カンジェ氏) 日本では、健康や自然やコロナもあって自然志向の若者が増えており、ヨガや瞑想など、すこし見直すような動きがあるような気がするが、韓国ではどうか。→釜山ではそのような雰囲気は感じない。コロナでキャンプをする人は増えたが、特別健康を気にしている人は少ない。韓国人はおおざっぱな人が多い。高齢化に入っており人生100年時代を健康に過ごすため、ジム通いをする若者が多く、年配者までも年齢に合わせて健康管理している。

<対馬での長期滞在の可能性について>

- 大学生が長期滞在して、対馬に学びに来るのは現実的には難しい。プログラムがしっかりとしており、大学の単位として認めもらえるようなものがあれば、大学も許可をするかもしれない。
- 釜山ではまだノマドワーカーやフリーランス、起業をするような若者は多くないと感じる。大手の会社に就職している普通の社会人が多いため、社会人が長期で対馬に滞在するのはあまり想定できない。

<社会人向けのプログラム>

- 社会人向けのプログラムは、リピーター向けに週末を充実するプランにした方がよい。最近では下関が人気。金曜日の夜5~6時に港に行き、翌朝現地入りして、日曜夕方に下関を出発し月曜の朝に釜山に着き、そのまま出勤できる。

<日韓関係や社会情勢の影響>

- コロナ前の日韓関係の悪化の影響はあったが、民間の観光や交流は維持したい。協会としては活発に交流すべきとは思っている。国の予算以外は、民間資金で交流継続できることもある。協会は国の補助なしで運営しているため、影響は大きくないと考える。

- 大学が出せる予算は決まっています、東京などに行くのと比較して対馬は経費がかからないため、自腹で行くハードルは低い。また、大学や協会の補助があればなおさら行きたいと思ってもらえる。

<日韓の文化の違い等>

- 今のところ異文化やマナー普及啓発の教材は無い。お互いの理解が難しいため、そのようなツールは必要。最近、国際結婚した Youtuber が、日韓の文化の違いを動画にしていた。日韓コンテンツが流行っている。
- 日韓の国際結婚は多い。韓国人男性が日本人女性への憧れを持っているパターンがある。韓国人女性の気が強いので、温かな日本人女性が良いと思っている人も多い。
- 文化の違いをイラストや動画にして、対馬行きの船内で流すと良いと思う。

<交流プログラムをつくって案内することは可能 >

- 協会としても、対馬からの団体が釜山に来るのであれば、交流プログラムを作って釜山を案内することは可能。
- 「そこそこ」も、若い子が多いし、日本人観光客に対して手数料をもらってガイドしたい。日本人と話もしたいと言っている。
- 釜山で日韓交流を進める団体は多くあるが、団体同士の連携は少ない。釜山韓日親善協会は元々企業人や政治家で作っているが、2000年以降は組織体制や活動内容が変わってきている。JC(日本青年会議所)は今年から日本との交流を活性化させていくと聞いている。企業や商工会など中心の交流になると想定される。
- 釜山とソウルでは親日度合いが違い、釜山の方が親しみを持っている気がする。それは、距離が近いことや、カラオケなどの日本の文化が釜山から入ってきていることなどがある。

日時	対象
1/24 11:20~	キム氏 クォン氏 釜山事務所
<p><釜山事務所の事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> • 釜山事務所の業務としては、釜山で展示会や交流会があるときに通訳、マラソンの受付厳原港まつりの参加、通訳も担当している。 <p><対馬側の観光客受け入れに限界がある></p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ明けの釜山から対馬への観光客は、個人客が明らかに増えている。バスがなくて手配ができないため、対馬側の受け入れ規模には限界があり、団体を多く受け入れられなくなっている。 • 船会社が2社入り改善もみられる。ダイヤが加わると客は増えることが想定されるが、見どころが無い。どんな客層が増えるかは分からない。 <p><観光の見どころの少なさが課題></p> <ul style="list-style-type: none"> • 烏帽子岳、八幡宮、和多都美神社は入れないため、案内できる場所がなくて困っている。修善寺は地元が嫌がるためいけない。万関展望台は入口が分かりにくく老朽化が課題。 • 韓国人の旅行スタイルは「パッと見る」感じ。 • 1泊2日なら行けるところも決まってくる。厳原までに2か所くらい寄っていく。寄れる場所が限られているため、選択の余地がない。 • 文化の違いなどは事務所が作成しているパンフレットに掲載している。 <p><食事にこだわりたい人の増加></p>	

・昔は安く済ませたい人が多かったが、今はお金を節約せずに食事を楽しみたいという人が増えている。おせち料理を購入したいという珍しい問い合わせもあった。

<レンタカーの利用について>

・レンタカーは、比田勝は利便性が高い。韓国は赤信号でも左折できる場面があるが、日本では赤信号は進んではいけないため、誤って事故になることがある。

・コロナ禍以降、40～50代の日本語を話せない韓国人グループでもレンタカーで周遊するケースがみられており、新たな変化だと感じている。

<買い物の利便性や満足度の向上にむけて>

・個人の観光客はシャトルバスがあるとさらに買い物が増えると考える。タクスエスーパーでシャトルバスを出してほしい。シャトルバスを出すとタクシー会社に文句を言われるのかもしれないが、タクシーは2～3台しかなく、完全に不足している。自転車を使うのは若い人のみで、バスと自転車が競合することはない。(買い物に行く人が増えればシャトルバスもそれほどないので、帰りはタクシーを呼ぼうとなるなど、むしろ互いに利益が増える相乗効果が起きそう。)

・ドンキホーテがあればという声が多い。

・対馬で韓国人向けに何を売ればよいかを知りたいければ、福岡のドン・キホーテなどで韓国人韓国客が何を購入しているのかを1日観察するだけで手に取るように分かる。

・インターネット上で購入した商品の写真の投稿をみるのも良い。韓国のネイバーで対馬に行こうというネットカフェ?があり、購入した写真が載っているが、シャンプー・ボディソープ・洗剤なども購入している写真がある。香りの評判が良い商品などがある。

・韓国人観光客は日本の商品(サロンパス、キャベジン、太田胃散など)を購入する。お土産で配るほか、自分自身でも使う。SNS上では薬剤師が自分が日本に行ったら買うものというオススメ商品を紹介する動画をアップしている。

・美津島の無印良品が人気がないのは、レンタカーでしか行けないことが理由かもしれない。峰のダイレックスはお酒が安くて行く人がおり、わざわざ比田勝から自転車で行く人もいほどである。食堂は並ばないといけないためスーパーで惣菜や弁当を購入する人も多くいる。

<旅行者マナーの問題やトラブルについて>

・旅行マナーが悪いのは年配の方。

・八幡宮は、七五三などでお祓いをしている最中に勝手に中に入ってくる観光客があり、旅行会社としてその期間は立入禁止にするようになったにも関わらず、それでも問題が解消されなかった。管理者の家にも入る人がいた。

・日本では神社は神聖な場所だが、観光客は単に観光地として行っている。和多都美神社は、観光地ではないため、観光目的で訪問してほしくないと言宮司が考えている。韓国人ガイドとしては、お客さんに「これはしてはいけないですよ」と強く言いづらい立場にある。

・(齋藤氏) マナーを守れない人がいるのは、文化的な背景や習慣の違いか?個人の問題か?→和多都美神社のタバコ問題を例にすると、ツアー商品における和多都美神社の位置づけは、比田勝から厳原へ向かう途中で一度休憩をしてとるタバコ。場所やシチュエーション等によってそれぞれで、明確に区別できない。

・和多都美神社がどれくらい我慢したのか、なぜ怒っているのか十分理解している人もいる。しかし、現在の課題はマナーを守らなかった当事者ではなく、無関係な韓国人が神社側から怒られていること。その様子を目の当たりにして怖い思いをしている子どももいる。

・(対馬市認定ガイド制度を作って、認定ガイドが案内する条件付きで、立ち入りできる神社や場所があったら良いのでは。地域住民のプライバシーや権利を守らないと観光地として成り立たないので、日本人のガイドも含めて勉強したガイドでないといけな。資格や仕組みを整えるのが良いかもしれない。)

日時	対象
1/24 14:00~	LEE, Kyu Jeoung 所長 LAND Japan
<p><個人客の増加></p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ前後で人数が減ったが、以前に比べると個人が多くなっている。個人については船や宿の手配を受けている。今後、船便が増えたとお客さんが増えるが、どんな方が増えるかはわからない。 • LAND ジャパンでは、個人ツアーを受け入れている。対馬のホテル（丸屋など）やレンタカーと提携している。 <p><行ける場所が増えることが大事></p> <ul style="list-style-type: none"> • 立ち入りできないスポットが増えたため、魅力が減少したと思う。前は和多都美神社や烏帽子岳が見られたが、それが見られないから、お客さんの満足度が下がっている。 • 韓国人はヤマネコにあまり関心を持っていない。 • 森の中を歩いていくような企画はどうか？そこに今どういう遊びやメニューがあったら喜ぶか？→喜ぶと思う。トキセキを運営する韓国人と仲が良い。佐須奈の森も3箇所一緒に回ってみたが、結構魅力的な場所だった。上対馬は下対馬よりも魅力が多いと感じている。森は韓国人観光客の目玉になりうると思っている。 <p><トレッキング・オルレについて></p> <ul style="list-style-type: none"> • トレッキングは2時間半程度の時間で歩けると良い。以前は登山が流行っていた。トレッキングは高齢層がターゲットになりそう。自然はソウルにはないので売りになる。 • オルレとトレッキングの定義は異なる。オルレにはブランドがある。また、韓国の文脈のオルレと、日本で展開されているオルレは違う。オルレの道には基準が設けられている。 <p><夜食べたり、遊べる場所があると良い></p> <ul style="list-style-type: none"> • 上対馬は、夜は何もできない。厳原は夜9時までお店が開いているが、上対馬は食堂が無くて食べたり飲んだりできない状況で問題。上対馬のホテルは東横イン、テマドホテルなど良い。食事は目的ではない。夜の遊び（厳原くらいのにぎやかさ）がほしい。 • ラーメン屋さんのようなお店がもう数件あれば。まる福ラーメンは夜営業をやめた。昼だけでお客さんがいっぱい、夜は仕込みのために店を閉めている。 <p><ツアーの企画・料金></p> <ul style="list-style-type: none"> • 上対馬でご飯を食べて、厳原へ行って泊まり、翌日は南で過ごすツアーを行っている。1泊2日で1万5千円~2万円、週末は2万9千円（船の価格が違う）。山田の（ヒトツバタゴの）バスは、前は4万5千円だったバスが、いまは7万円と料金が上がっている。 • 高額な旅行商品は売れない。6万円程度のホテル観察ツアーを組んだことがある。2泊3日で20名程度の規模で売れた。 • ガイドは10人ほど雇用している。釜山旅行特攻隊のガイドはほぼ独学で、日々情報収集している。「こうしゃべってください」とは言えない。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> • 無印良品には良いものがない。品物が本州と違う。対馬で売れるものを持ってきているから、韓国人からすると魅力がない。来たお客さんもすぐに出ていく。 <p>1/24 14:55~ チョン・ボンギユ氏(理事) クォン・ギフン氏(課長)、釜山旅行特攻隊へのヒアリング</p>	

- 釜山旅行専門ということで、釜山から出発する船舶（パンスター、ビートル）のチケットを手配している。
- ツアーパッケージは、ユニオンジャパンという会社に手数料をもらって企画・調整してもらい、レンタカーの手配はパクさん。朴さんを通じて、うちだけの旅行を作っている。
- 対馬で企画したときには連携できるとありがたい。
- (吉野氏)スタディツアーや、海ごみの問題、環境のことを学ぶ学習、ツシマヤマネコに取り組む減農薬の農家、学ぶツアーも日本人には提供している。→韓国では、団体旅行よりもこれからは個人旅行が増えるため、個人旅行者に提供できるものを探している。私も子供が高校生で、韓国の親が考える体験を提供するのは違うと思う。韓国の親のニーズが、韓国の親は子供にどんな体験をさせたいかを把握し、対馬に合うかどうかを検討した方が良い。例えば、旅行は家族で一緒に行くが、親はカフェでコーヒーを飲んでいる間に、子供が何かの体験する場合がある。日本はみんな一緒に体験させる。子どもだけ対象のプランがあってもいい、子供が学んでいる間に、親が遊ぶなど。
- 釜山では動物園がないから、動物がある街に車で行く。釜山では星が見えないが対馬では星が見えるとか。蛍が見えるとか、釜山になくて対馬で得意なものが売りになるだろう。
- 韓国人は海水浴場に行かない。釜山でもアクアリウム（ウォーターパーク）があるため海水浴場に行かない。汚れるし面倒だから。海水浴場はあまり良い方法ではない。
- 比田勝にはカフェがない。100名くらい入るカフェがあれば人気になる。「大人はカフェ、子供は遊び」のような場所があると良い。
- トレッキングルートがあると良い。(6-7年前の台風で倒木があるが、整備すれば権現山のトレッキングコースは十分な距離になる。花海荘から浜までの遊歩道もある)
- SNSで宣伝すれば、情報はすぐに拡散される。面白いコンテンツがあれば、人は集まる。Youtuberなどインフルエンサーが多い。インフルエンサーに対馬の宣伝（ショートムービー）を発信してもらっている。

日時	対象
1/23 夜	Jeon Younghwa 氏 DAEA EXPRESS SHIPPING
<p><DAE の対馬便就航について></p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でこれまでの船を売却した。免許は売らずに持っていた。対馬の航路をやめることはない。いつかは再開すると考えていた。昨年、厳原の新ターミナルの開設に合わせて再開しようと考えていたが、今のタイミングになった。 DAE は 20 年間、航路運行の実績がある。誘客は、DAE ホームページ 30%、旅行者（パッケージツアー）40%、オンライン（ポータルサイト、チケット販売の旅行会社：釜山旅行特攻隊等）20%、釣り客・自転車など 10%。 今回再開するシーフラワー号は、韓国の東の海で 9 年くらい運行していた船で、平均速度は 32 ノット。比田勝まで 1 時間 20-30 分、2 時間 10 分-30 分。 高速船入港許可書は、両国からもらわないといけない。許可証を申請して許可が降りるまでに 3 ヶ月間かかる。1 ヶ月前に申請した。 (梅野氏)厳原の運航スケジュールは？→3 月の運行は、月水土日、比田勝-釜山。火木金は厳原-釜山。金曜日だけは、帰りは厳原から比田勝を経由して、釜山へ。 <p><釣り客の値段設定について></p> <ul style="list-style-type: none"> 料金は釣り客・自転車の客は金額は同じにするが、一般の観光客よりも高くなる。釣り具は 40-50 セット、自転車は 20-30 台まで積載可能。釣りの季節は冬なので、釣り客の存在は、旅行会社としてはありがたい。釣り客の荷物の制限は、クーラーは 30ℓ を 1 個、 	

アイスボックスは2個までの制限を設けて運行する予定。釣り客に関する制限は3社で統一しようと考えている。

<今後の規模拡大について>

・（玖須氏）比田勝港のターミナルは3社以上船が入ると建物が狭いため、拡張工事も検討しないといけないかもしれない。釣り客の荷物がどのくらいスペースをとるかに寄ると考えている。→船と船の間隔を40分置いているが、ターミナルの増築ができれば、もう少し時間がかからなくなると考えている。

・（玖須氏）今回のシーフラワー号450人が定員と聞いているが、以前800人くらい乗れる大きな船をDEAが対馬に就航していたが今後大きいのにする計画はあるか？→所長は対馬の航路再開に尽力して、再就航できた。今後うまくいけば、2000tの600人乗りの船に切り替えていきたいと思っている。2018年度、オーシャンフラワーⅡを売って、600人乗りの船を買う予定を立てていたが、日韓の関係悪化や2019年度コロナで行けなくなったので購入しなかった。今後改めて購入する可能性がある。購入を断念した2000tの船は、当時200億ウォンだったが、今は400億ウォンになっているようだ。今済州島の方安定した運航になったら、見通しが立つ。オーシャンフラワーⅡは800人、2500t。

・パンスターとNINAの就航の開始時、ノベルティグッズを提供していたので、DEAの就航の時も提供する。就航は厳原港から。

・利用者飲み込みは？→お客さんがいることに間違いはない。2018年は往復80万人。去年は往復38万人。それを考えると増える余地があり、DEAが参入したら、50万人までは増えると推測している。

・（玖須氏）運航調整会議でCIQがよく言われたのは、船会社同士で話し合ってほしい。

<対馬側の受入体制について>

・（吉野氏）対馬側からすると当時オーバーツーリズムでおもてなし不足・受け入れ不足があった。今後もそれが懸念される。→以前に対馬の受入キャパに対する調査をしたことがあった。今は旅行会社がホテルを販売している。民宿の商品が見えていなかった。対馬はホテルより民宿の方が魅力があると思うため、民宿利用が増えればと考える。飲食店は、個人の方は確かにお店に並んでいるが、観光客が増えれば、対馬に新しい店も増えてくるのでは。

・（齋藤氏）体験メニューとして船会社として期待することは？→パークゴルフの利用を考えている。屋内の体験は思いつかないので、課題として考えておきたい。

・（吉野氏）観光客と地域で廃校の活用など一緒にできないか。→昔は周遊することが目的だったが、今はここで何かをした、それを写真に撮ってSNSに載せる。そういうアイデンティティが大事。「やったことを残すこと」が大事になってきている。インスタ映えするような場所に行ってネットに載せたい。

・トレッキングはインスタ映えしないと韓国人は惹かれない。わざとインスタ映えする場所を人工物でいいから作った方がよい。釜山の観光地ソミョン（甘川文化村？）では街の壁に絵を描いてあり、有名になった。その絵をバックにして写真を撮る。日本には昔からあったストーリーを売りにするのもいいが、今作ったら100年後には、ストーリーになっているので、新しい目玉のものを人工的に作ってもいいのでは。

・（齋藤氏）対馬の地元で業者が作ったツアーをDEAが売るということはできるのか？→是非お願いしたい。対馬の場合、年齢によって旅行のタイプが異なる。高齢者はパッケージツアーを好む。若い人が対馬の何が良いと言っているかということ、着いたときに感じられる異国の雰囲気。高い食べ物ではなく、コンビニで何か日本のものを購入しているという感覚を楽しんでいる。日帰り客も、大きなキャリーケースを持ってきて、買い物をする。船は荷物のサイズで追加料金がない。

・（カンジェ氏）対馬の住民と観光客と一緒にできることはないか→検討する。

<対馬から釜山に行く便の対馬の人の利用について>

・（カンジェ氏）韓国人が朝対馬に着いて、帰りは対馬から釜山に戻るダイヤだが、対馬の人が朝釜山に行って、夕方に戻るというようなパターンは想定できないか。土曜日

は、9時20分の対馬発の便は人を乗せずに戻るが、それに対馬の人を乗せられないか。→検討する。

日時	対象
1/25 12:00~	Kin Kun Wooさん RYUN
<p><アーティストによる伝統市場の再生></p> <ul style="list-style-type: none"> • village から歩いて5分~10分のところ。釜山大学の近くのAGITという場所は、昔は幼稚園だった。場所の割に安いのをどう活用できるか考えるのがアーティスト。2008年に空間を作った。作ったら人気が出て、人が注目し集まるホットプレイスになった。空間は結果的に売ることにして、伝統市場の中に入ることにした。伝統市場は90%空き店舗だったが、0%になった。アーティストが入ったことによって土地の価格が最大3.5倍になった。土地の価格を上げてくれるお兄さんというニックネームになった。 • いろいろやってきた結果、土地の価値を上げる方法が芸術だと気づいた。一方で、速度を早くやってしまうと、芸術家はその土地から出ないといけなくなるということが分かった。ゆるやかにやっていくこと、土地を所有しなければならないということに気づいた。それは必ずしも一人で所有するわけではなく協同組合などでも良いと思う。 • 商店街の会長までやったが、最終的には売った。故郷をつくるような概念で作るのが大事。なぜかという、10年後20年後、力をいただくことができる場所になる。持続可能というのは言葉だけでなく、しごとやコミュニティを作っていくことが大事。村づくりに関連したアプリケーションを作った。 • プロジェクトを通じて、商店街には移住者が20名を超えた。最初はアーティストだったが、これからは多様な人が入ってくる兆しがある。 <p><RYUN VILLAGE></p> <ul style="list-style-type: none"> • 都市から近くて、学校が周辺に多いというメリットがある。 • 都市に近いというのは今の時代において大きなブランディングの一つ。その理由は、都市の視点と田舎の視点の両方を持ち合わせることができるから。 • RYUNというブランドで製品づくりが始まった。お茶(OEM、地域の産品×ブランド)をはじめ、様々な商品を作り始めている。 • Wealth careの事業をしている。子供は自然と触れながら、お母さんたちはピラティスする。 • こういうプログラムは大企業から依頼が来ることも。大企業はこういうプログラムが好き。 • 法人としてやっている。釜山国際映画祭の誘致も行った。 • ウェルネスを全国にやってる人が増えたためそのネットワーキングの祭りをここで行った。 • 地域性とWealth careを組み合わせる産業を作るイメージ。3階建ての物件で1階がゲストハウス、2階がライブスペース。土地の価格を上げてしまったという面もあるので、自分たちの場所でコンテンツをつくるということに集中している。 <p><対馬と釜山の共同プロジェクト></p> <ul style="list-style-type: none"> • コロナ前から対馬でやっていきたいと思っていた。 • 日本の事業体との連結ができれば嬉しい。民間で協定を結ぶとやりやすい(招待状や連携協定など公的に結んでいると財団とかの助成金を使いやすい) • 2月から申請時期に入るが、日本の団体とパートナーシップがあるということを示したい。 • (齋藤) 対馬側のカウンターパートには何を求めるか? →観光、空間。対馬側で必要な技術や人を釜山から提供することができる。まずはやってみないと知ることができないため、やりながら進めていきたい。 	

- 具体的に釜山と対馬が何を一緒にできるか具体的に出てこないといけないと思う。観光、食、教育、ヒーリング、お祭り・イベントなど。韓国から船で1時間で行ける外国は対馬の他にはない。
- 自然さえ綺麗であればこういう映像が作れるのでブランディングできる。サウンドスケープという手法で、土地の音を集めて音楽をつくることもできる。
- シェフを対馬から派遣、釜山から対馬へ派遣するのに充てられる韓国からの助成金がある。民間は自治体と一緒に申請する必要がある。2月から始まる申請に応募して実行することが可能。
- 1年間ワークショップなどでまちづくりを計画して、2年目から実行していくことも可能。これからパートナーシップ・覚書をかわす（電子でも問題無い）。

6 デジタルプラットフォームデジタルプラットフォーム運営支援

- ・ 対馬市の公式ウェブサイトに策定プロセスなどを掲載
- ・ プラットフォームのあり方の検討（LINE チャットや公式 LINE の活用等）



7 基本方針の設定

計画策定の目標・方針

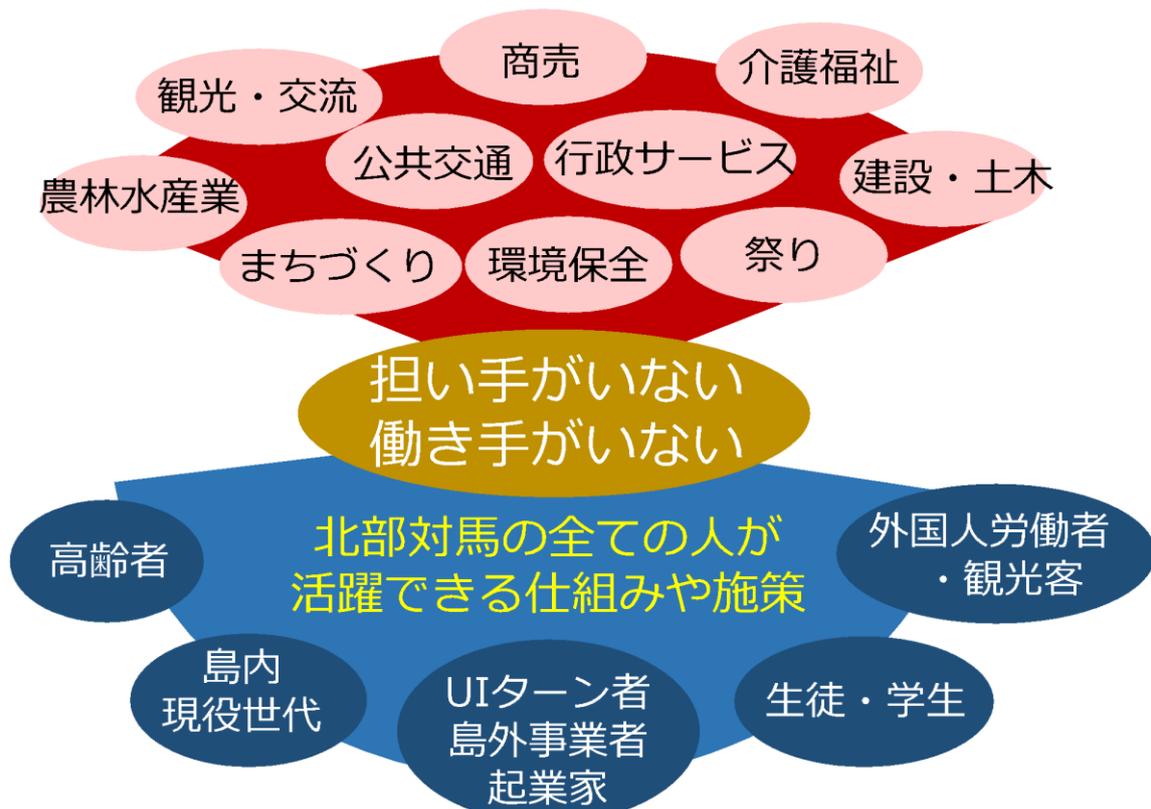
北部対馬の活性化に向けて、**根源的な課題**を特定し、その解決に向けて、官民一体となって最優先に取り組むべき実行可能な事業を整理する。それらの事業を実行する主体を集めて、作業部会で一緒に事業計画(アクションプラン)を作る。一部は、計画期間中に試験的に実施する。

方針1 課題構造の見える化し、**真に対策すべき課題を整理**。
同じ方向性でまちづくりが進められるよう**共感する将来像**を描く。

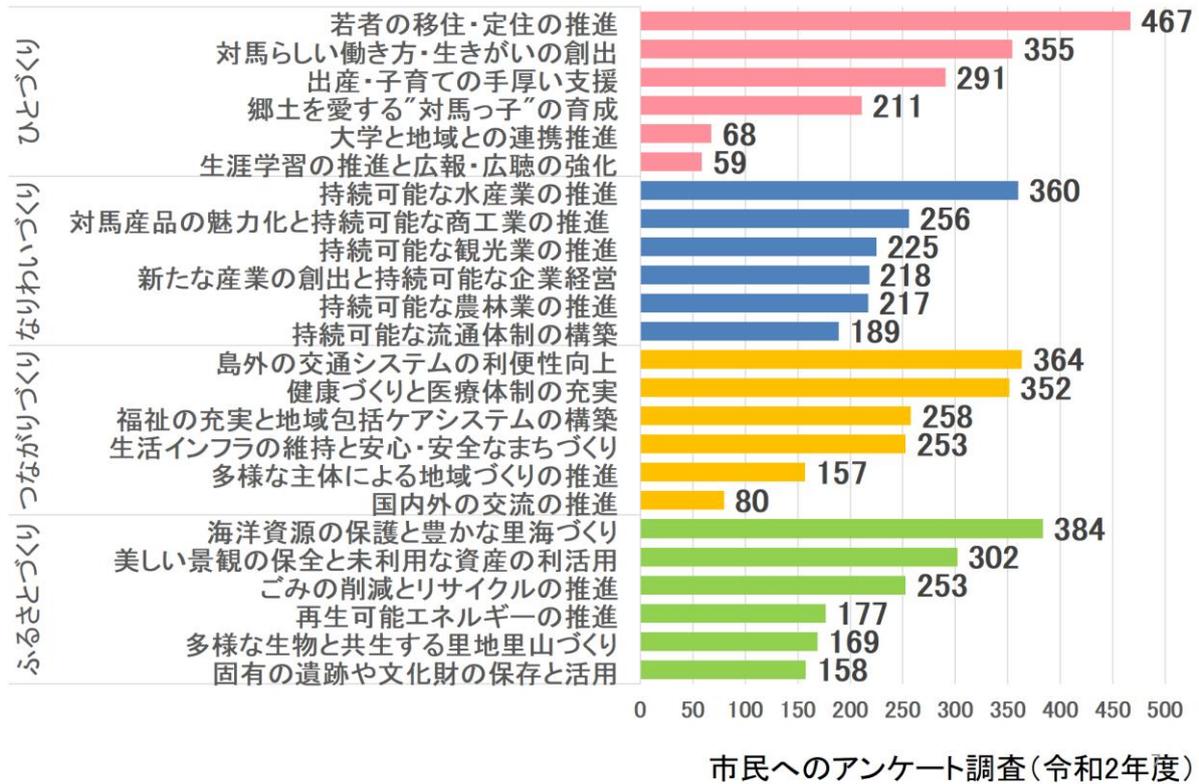
方針2 **実効性ある計画となるプラン**策定。優先するアクションは役割・運営体制・資金等、事業実現にむけた具体化検討。

方針3 プラン策定プロセスで**まちづくりの担い手・仲間をつくる**。

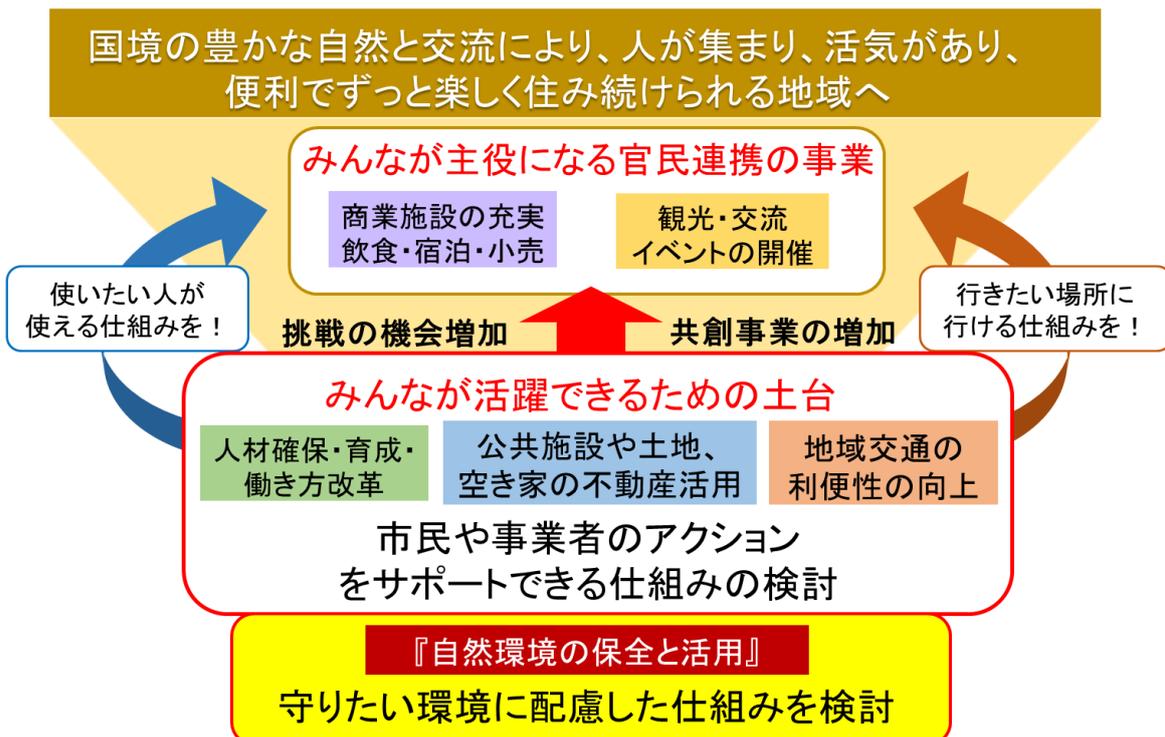
北部対馬の根源的な課題



総合計画の中で優先的に取り組むべき課題

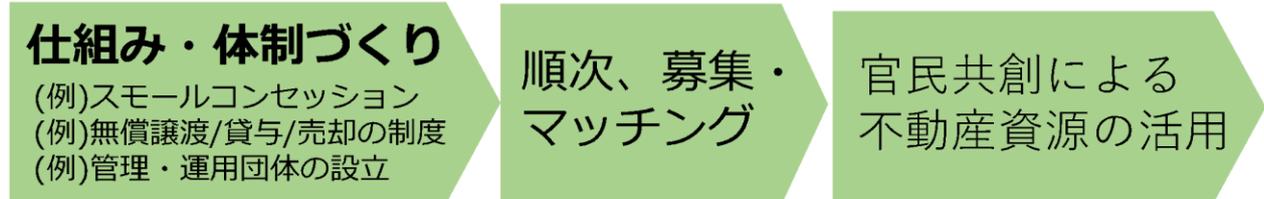
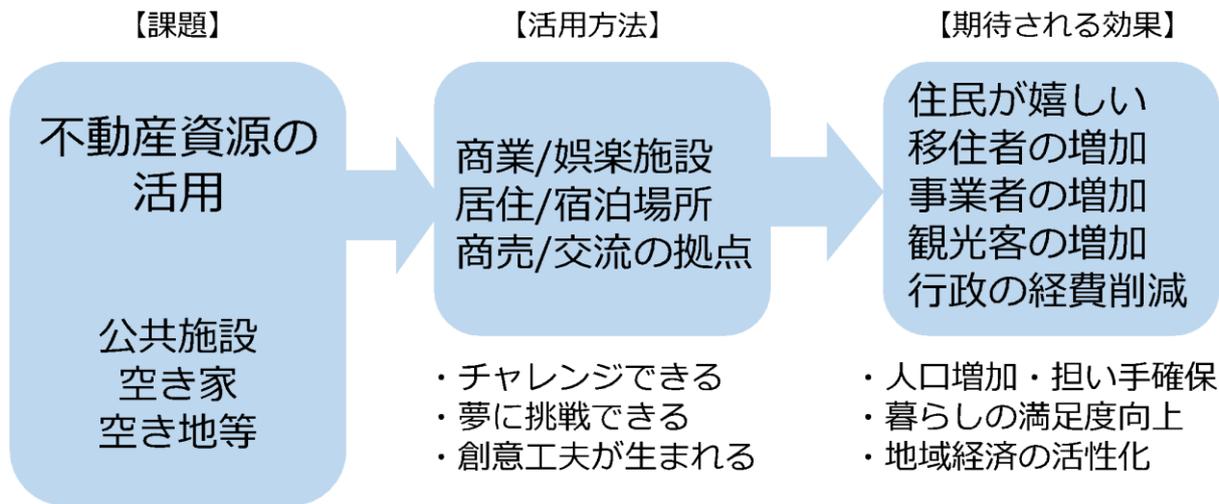


北部対馬アクションプランの基本方針



8 全体構想の検討

優先的に取り組むべき課題や解決策①～空き家等の不動産の活用～



※アクションプラン作業部会で検討開始

今後の作業部会で検討手順のイメージ①

不動産資源の活用に向けた仕組み・体制づくり

地域ごとの特徴・テーマを設定してもよいのでは



1) 不動産の特定

公共施設/空き家/空き地等

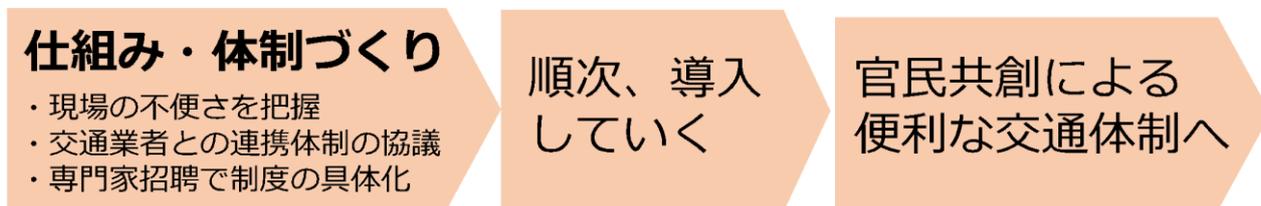
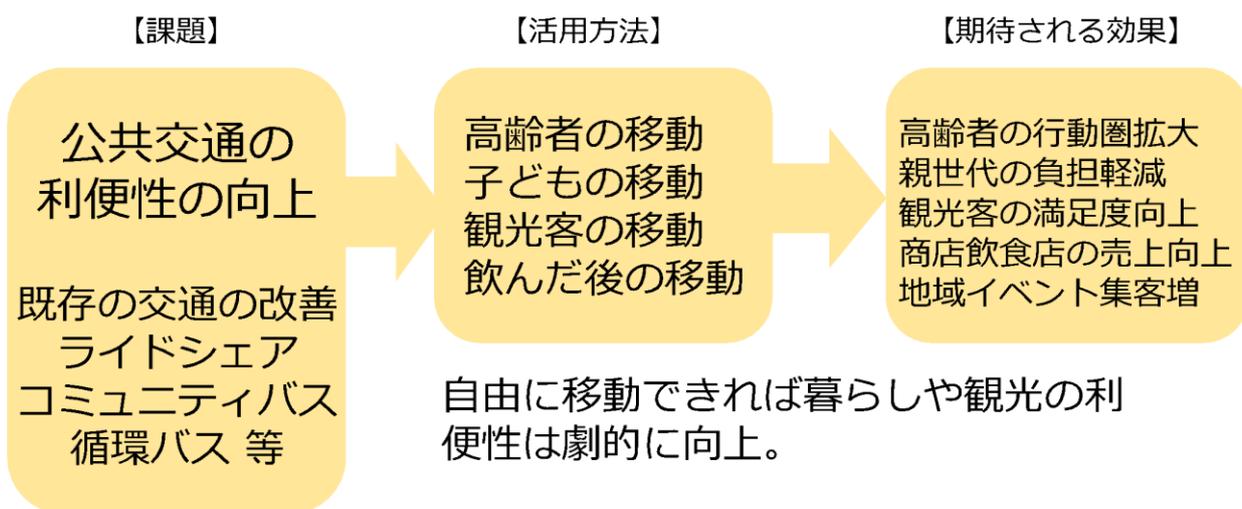
2) 想定される活用方法

商業/娯楽施設、居住/宿泊場所、商売/交流の拠点

3) クリアすべき課題整理

- ・マッチングの方法
- ・利用者選定方法
- ・契約(管理者の責任範囲)
- ・管理を担う中間支援組織
- ・実現化に向けたスケジュール

優先的に取り組むべき課題や解決策②～公共交通の利便性の向上～



※アクションプラン作業部会で検討開始

今後の作業部会で検討手順のイメージ②

公共交通の利便性の向上に向けた仕組み・体制づくり



- 1) 既存の地域公共交通計画
市民の声からの計画内容の精査
計画の進捗状況の把握
- 2) 改善すべき内容の整理
高齢者の通院や買い物での不便さ
生徒の部活動の送迎
観光客の希望や不満等
- 3) 改善方法の検討
 - ・複合的で最適な交通の体制の整理
 - ・既存の交通事業者との連携協議
 - ・利用候補者へのニーズ調査
 - ・規制緩和や運用体制・資金などの整理

今後の作業部会で検討手順のイメージ③

人材確保・育成

商業施設の充実

観光・交流

個別具体的なアクションを担い手（市民/事業者/団体）が検討

【これまでのWS等から考える作業部会の例】

- ・よっていかんねえを存続する部会
- ・そば道場をもっと活用しよう部会
- ・シーランドステージの遊具をなんとかしよう部会
- ・青空市を活用しよう部会
- ・比田勝港釣りたいけん（海業）部会
- ・対州馬の活用検討部会
- ・南陽中学校利活用検討部会
- ・〇〇地区の地域づくり計画の改定部会
- ・釜山の親日若手グループとの交流企画検討部会
- ・デジタルノマドワーカーを比田勝に集める部会
- ・分散型ホテル作り検討部会 等

具体的な企画
へ落とし込む

- ・いつ
- ・どこで
- ・だれが
- ・なにを
- ・どのように
- ・なぜ

- 作業部会として市民や事業者が主体的に集まり、企画する
- 事務局は開催や議論を後方で支援

9 作業部会の開催

観光・まちづくりをテーマにした比田勝・佐須奈・仁田の市民及び地域マネージャーで観光・まちづくりにかかる協議を実施した。

項目	内容
日時・地区	(作業部会) 2月14日(金) 15:00-/19:00- @比田勝 2月15日(土) 15:00- @仁田 2月16日(日) 15:00- @佐須奈 (地域マネージャー校区会議) 2月17日(月) 10:00- @佐須奈 2月17日(月) 13:00- @上対馬
参加者	(作業部会) 比田勝 26人 仁田 6人 佐須奈 8人 (地域マネージャー校区会議) 佐須奈 6人 比田勝 11人
実施次第	○趣旨説明 ○現状課題の整理 ○観光テーマの検討 ○場所と人を考える

事業アイデアについて意見の概要は以下。

作業部会でのご意見

観光・まちづくりWS

■ 地域の環境・産業を生かす

- ・海業、魚を見て食べられるサービス
- ・韓国人と住民との交流を深める
- ・対州馬の保存から活用へ、循環型農業や野焼き、ヤマネコ生息地を守る活動の連関を描きたい
- ・千俵山山の野焼きの継承
- ・地域の文化としての継承、食、自然の活用
- ・登山道整備でのトレイルづくり、土木関係事業者との連携
- ・韓国からの観光客の受け入れ課題の解決
- ・自然環境の保全

■ ビジネスとしての展開・にぎわいづくり

- ・サービスレベルを高めること、創業を支援すること
- ・ジビエの活用施設を南陽中学校につくる
- ・北部対馬一帯でのビジネス運動が必要
- ・仁田の建設土木事業者との地域づくりでの連携
- ・そば道場の魅力向上
- ・よっていかんねの運営継続

■ 生活を支えるサービス・仕組み

- ・公共交通こんどろバスやライドシェアの推進
- ・ランドリー、リネン工場、コミュニティカフェ、国内ターミナルの活用
- ・地域づくり計画を参考に
- ・子どもの遊び場環境づくり

地域マネージャーWS

■ 地域の環境・産業を生かす

- ・漁業の再生が必要
- ・林業の成立、天然林の更新と海の再生
- ・観光はいまあるものを生かす

■ ビジネスとしての展開・にぎわいづくり

- ・複業兼業の仕組みづくり
- ・廃校の活用
- ・各サービス住民だけでなく観光客も利用できるものが必要

■ 生活を支えるサービス・仕組み

- ・買い物不便の解消
- ・空き家の対策・活用
- ・道路安全を検討
- ・ライドシェアは必要
- ・コンパクトシティの計画
- ・子供の遊び場
- ・地域マネージャー制度の見直しが必要

■ 韓国人と住民との交流を深める

- ・島民が韓国人旅行者との交流を深めて、上対馬での受け入れができる環境が必要。
- ・店舗が足りないことについては、民間にできないハードの設備などをこれから官民で取り組みたい。

■ サービスレベルを高めること、創業を支援すること

- ・韓国人がたくさん来ている中だが、サービスレベルが必ずしも高くない。経営者の育成プログラムをつくる、競争をつくる必要がある。
- ・事業実施する場所がない、公共施設も含めて検討をすべき。
- ・国内フェリーターミナルの活用は可能。

■ 海業、魚を見て食べられるサービス

- ・青空市でおいしい魚を食べることができるなど、海業の展開を考えたい。
- ・海のビジネスモデルだけでなく、環境保全になることに価値をつけるべき。
- ・釣りのレンタルサービスで、ごみの問題、安全の問題などを解決する。
- ・水族館をつくる、韓国から来た人に対馬の魚を見せられたらいい。対馬で今いる魚を見せる、バリやヌタウンギなどの珍しいものも、そして食べたいときには魚が買える場所。
- ・インドネシアのフィッシュボールのような、外国人の食文化も出せる場所、土曜日に漁業操業休みの漁業者が販売する仕組み。

■ ランドリー、リネン工場、コミュニティカフェを作る場合、国内ターミナルの活用

- ・コミュニティの集まる場所がない、カフェが欲しい。地元の人のコインランドリー需要、宿泊事業者にとってのリネン工場の需要もある。Wi-Fiが使える国内ターミナルにコミュニティカフェとランドリーをつくりたい。

■ ジビエの活用施設を南陽中学校につくる

- ・ジビエの解体場を南陽中学校をつかって作りたい。北部には解体場がないこと、比田勝から厳原に向かう途中の位置関係もちょうどいい。解体場とそこで新鮮な肉が食べられるレストランがあったらいい。狩猟・林業の学校をそこで展開することもあり。

■ 北部対馬一帯でのビジネス連動が必要

- ・これまで点で行ってきたビジネスを地域で線から面にしていくこと。地域としてもう少し儲けること、そうでないと地域と共存する取り組みは難しい。
- ・国内ターミナルでの早朝到着客のサービスなども考えるべき。

■ 対州馬の保存から活用へ、循環型農業や野焼き、ヤマネコ生息地を守る活動の連関を描きたい

- ・対州馬の活用から、循環型農業の展開、その放牧地をつくるための野焼き、シカイノシシの対策からヤマネコ生息地を守ること、その観光利用による理解促進の流れを、志多留で展開する。
- ・かつて農耕馬利用されていた文化を再興したい。今は市の所有だが、個人所有できるような制度を緩和することでの活用、シェアホースで集落、学校で飼うことは。
- ・種の保存が現在は主だが、維持にかかる費用もあり、観光資源としての活用を検討したい。
- ・活用できる人材の資格制度で地域の方が循環型農業に取り組むことも。
- ・仁田には馬に関わっていたかたが多い。80~90代の方からの聞き取りを。

■ 千俵時山の野焼きの継承

- ・放牧地をつくる観点からのつながり、地域として野焼きの技術を継承

■ 地域の文化としての継承、食、自然の活用

- ・聞き書きによる郷土の遊び、馬のことを残し、お客さんに伝えたい。
- ・六観音めぐりでのうまとばせ
- ・シイタケ、きくらげ、アスパラ、つくね芋の活用

■ 公共交通こんどろバスやライドシェアの推進

- ・コンドロバスの運行の事務局運営がポイント。
- ・ライドシェアの合法での運行ができることが望ましい。
- ・仁田~田の浜でのニーズはあり、子供たちのスクールバスでの利用、校外学習での利用、企業研修にも利用。
- ・安心して免許を返納できる環境を作る必要がある。

■ 登山道整備でのトレイルづくり、土木関係事業者との連携

- ・土木事業者連携での体制づくりは有効
- ・コミュニティとして地域活動の仲間になってもらうことが有効
- ・近自然工法的なみちづくりによるトレイルは、観光の面で大いに活用できる。

■ 韓国からの観光客の受け入れ課題の解決

- ・韓国人に売却した家も多い。釣り客が利用しているが佐須奈に金が落ちない。
- ・韓国人にサザエがとられているように見える。釣りのルールも徹底してほしい。
- ・比田勝と巖原だけがにぎわう、佐須奈は素通り。来てほしいとはあまり思わないが。

■ 自然環境の保全

- ・ウラボシジミを教育に生かしたい。生息域が危機的な状況にある。シカイノシシによる食害が多いことが課題。フキノトウも見られない。対策が急がれる。
- ・海岸清掃も昔からやっているが、だれでも参加できる状況ではない。

■ 地域づくり計画を参考に

- ・以前つくった計画を参考に進めていくのがよいと思う。

■ そば道場の魅力向上

- ・そばだけではなく、食べ物のレポーターが欲しい。水車、景観も活用したい。
- ・活用できるスペースはあるが、閉まるのが早い。

■ よっていかんねの運営継続

- ・継続運営に課題あり、近くの農協の建物の活用など考えられないか。

■ 子どもの遊び場環境づくり

- ・島っこ留学里親がゼロになってしまった。負担が多いのが課題。
- ・子どもの遊び場として佐護のシーランドの遊具を活用したい。
- ・佐須奈にも滑り台があったが、使えない。シカのフンもあり、子供を行かせられない。

(地域マネージャー校区会議)

■ 漁業の再生が必要

- ・磯焼け対策をモデル的に実施していくこと、ヒジキの再生が有効。
- ・地域の子供たちの磯での作業をモデル的に認める策を検討
- ・高温に強い海ブドウの養殖を実験する など

■ 林業の成立、天然林の更新と海の再生

- ・天然林の更新から海の再生の仕組みづくりを。作業道整備など推進により、収益性が高まることで担い手は維持できる。

■ 複業兼業の仕組みづくり

- ・公務員が一次産業に参画できる仕組み。また市民や若者が公務員の仕事ができる仕組みの双方にて人材不足を補うことを検討。
- ・Uターン者の仕事をつくること、土木や郵便局員などの必要な人材を確保すること。
- ・所得は低く、物価が高いことが課題。

■ 廃校の活用

- ・補助金終了後の維持費の捻出を検討。廃校の活用にあたっては、施設の大きさが課題。

■ 買い物不便の解消

- ・タケちゃん号は利用者は多いが商品が高い、品数が少ない。品数が多い大型トラックになれば助かる。
- ・サイキスーパーでは商品配達を行っている。会費500円。電話注文。

■ **空き家の対策・活用**

- ・不在空き家が危険な時の対応方法がない。
- ・空き家の片づけ、DIY（自己改修）に、廃棄物処理の無料引き取りの量の制限を見直すことができるか。それにより、空き家の有効活用が進む可能性は考えたい。
- ・島外に出る際に届け出を行うなどの仕組み、相談体制、登録制、家賃が入る仕組み、情報の一元化を進めたい。

■ **道路安全を検討**

- ・観光客の自転車の安全性を確保することが必要。

■ **ライドシェアは必要**

- ・ライドシェアは公共（市）が関与して検討することが望ましい。

■ **コンパクトシティの計画**

- ・各地区ごとのビジョンを作成してほしい。居住地区のビジョンを知り、現実的に危機感を持つことで考え方が変わる。

■ **子供の遊び場**

- ・各地区での必要性、広域で集約した拠点が必要か整理が必要。
- ・子どもを遊ばせる屋内施設が欲しい。小学校高学年以上の子供たちの過ごす場所が必要。
- ・総合運動公園、オメガ塔公園など場所はあるが、鹿のフン、ダニで遊ばせられない。
- ・学校施設の活用はより使いやすくしたい。管理部署と施設が離れており利用のわずらわしさがあるため解消したい。
- ・管理人の配置により雇用を生むこともしたい。

■ **地域マネージャー制度の見直しが必要**

- ・人材により地域も遠慮することや、地域情報が集まらないこともある。
- ・地域の交通整理を行う人材は必要ではある。戸数が少なければ個人的な尽力でできるが、大きな集落では難しい状況。

■ **事業を検討する際には、住民だけでは成り立たないので、観光客も対象にする**

- ・新規出店もあるが、長続きが難しい。施設、サービスを誘致してもそれを支えられない。
- ・コミュニティスペースについても、唯一無二が求められる。
- ・空き家バンクで一棟貸しの宿泊施設を整備できる。現状の宿泊業の経営層の代替わりにより、新しい経営が生まれることを考える。

■ **観光はいまあるものを生かす**

- ・ライブカメラで状況がわかるようにすることも（ヒトツバタゴ、紅葉、桜、韓国眺望などは）

公共施設や 土地、空き家の活用

- ・ **空き家/施設利用マッチングの仕組み/不動産事業**
- ・ 空き/未利用施設・空間の活用
- ・ 青空市場の活用（チャレンジショップ）
- ・ 国内ターミナルの有効活用：キッチンカー等
- ・ 豊小学校：シェアオフィス等
- ・ 南陽中学校：老健施設/ジビエの活用施設
- ・ 一重へき地保育所：シカイノシシ解体施設
- ・ 佐須奈の米農会の土地
- ・ 佐須奈の多くの空き家：移住者の家や宿泊施設に
- ・ そば道場/よっていかんねえ
- ・ 千俵蒔山や耕作放棄地の活用（対州馬）
- ・ バードウォッチング公園
- ・ 棹崎公園

国際観光・交流 促進拠点の整備

- ・ **比田勝の商店街**
- ・ 水族館の整備/海業
- ・ 山林トレイル/森林の活用
- ・ 地産地消の推進/魚
- ・ リネン工場(宿泊事業者共有課題)
- ・ **韓国人対応(マナー/利用料)**
- ・ 殿崎～三宇田間ビューポイント整備
- ・ 国際ターミナル拡充
- ・ 三宇田海水浴場観光サイン設置
- ・ 防災拠点権現山電線等埋設
- ・ 渚の湯リニューアル
- ・ 志多崎半島エリア活用
- ・ 殿崎～三宇田～志多崎エリアの海業活用

教育サービスの 産業化・誇り醸成

- ・ **子どもが遊べる環境整備**
(シーランドステージやオメガ塔)
- ・ 市民を釜山に連れて行くツアー
- ・ 高齢者からの技術や知恵の継承

働き方改革・兼業制度 の社会実装

- ・ **公務員の兼業制度**
- ・ スタートアップ支援

地域交通の 利便性の向上

- ・ 巡回バス(比田勝一円)
- ・ こんどろバスの横展開
- ・ **ライドシェアの検討**
- ・ 対州馬の活用（仁田）